

人権・ジェンダー平等に関する市民意識調査

調査結果報告書

令和7年1月

明石市

目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書を見る際の注意事項	1
5. 回答者の属性	2
II 調査結果	3
1 8歳以上の市民を対象とした調査結果	3
1. あなたの人権意識について	3
2. ご自身の考え方・行動、体験について	40
3. ジェンダー平等に関する考えについて	63
4. DV（配偶者等からの暴力）について	83
5. 自由記述	110
小学6年生の調査結果	111
III 資料 調査票（18歳以上の市民を対象とした調査票）	119
IV 資料 調査票（小学6年生の調査票）	133

I 調査概要

1. 調査の目的

市民の人権に関する意識・実態等を統計的手法によって把握・分析し、明石市人権施策推進方針及びあかしジェンダー平等推進計画の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

2. 調査の設計

- 調査対象

市民対象：18歳以上の市民 3,000 人

小学生対象：市立小学校に在籍する6年生 809 人

- 調査期間

市民対象：令和6年10月1日～令和6年10月31日

小学生対象：令和6年9月1日～令和6年9月30日

- 調査方法

市民対象：郵送配布・郵送及びインターネット上で回収

小学生対象：小学校を通じて実施、インターネットを利用しタブレットから回答

3. 回収状況

調査対象	対象者数	回収数			有効回収率
			郵送回収	インターネット回収	
市民対象	3,000 人	1,063 人	602 人	461 人	35.4%
小学生対象	809 人	743 人	-	743 人	91.8%

4. 報告書を見る際の注意事項

○回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。

○百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の合計が 100%にならない場合があります。

○1つの質問に2つ以上回答できる複数回答可能な場合は、回答比率の合計が 100%にならない場合があります。

○調査結果を図表にて表示していますが、表については、最も高い割合の欄を  で網かけをしています。（無回答を除く）

○サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛しています。

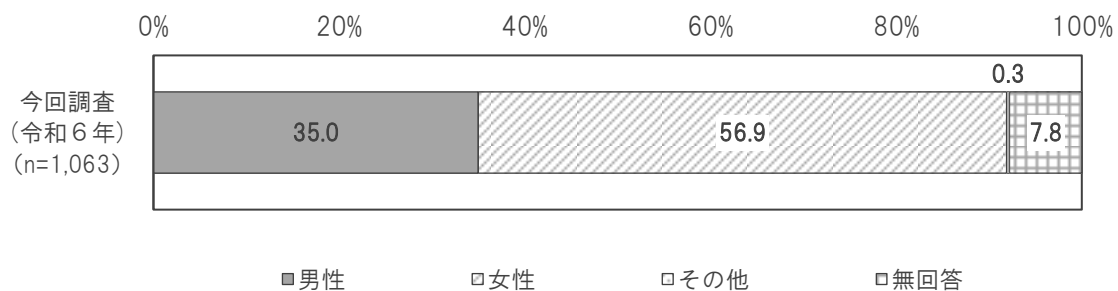
○前回調査とは、令和2年2月に行った「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」のことです。

○全国調査とは、内閣府が令和4年8月に行った「人権擁護に関する世論調査」のことです。

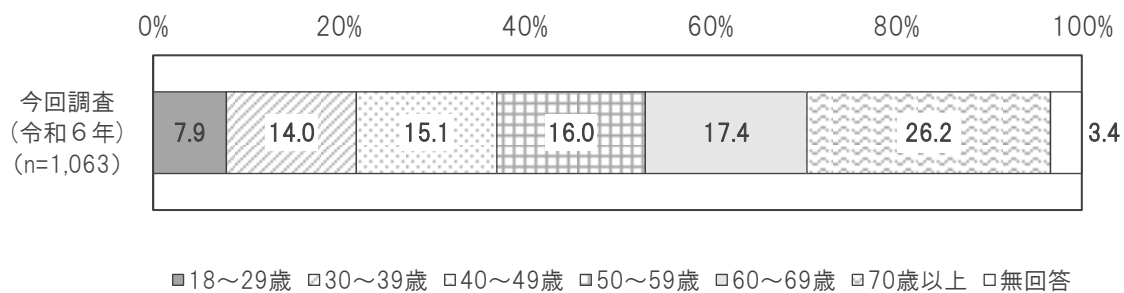
○県調査とは、兵庫県・公益財団法人兵庫県人権啓発協会が令和5年9月に行った「人権に関する県民意識調査」のことです。

5. 回答者の属性

【1】性別



【2】年代



Ⅱ 調査結果

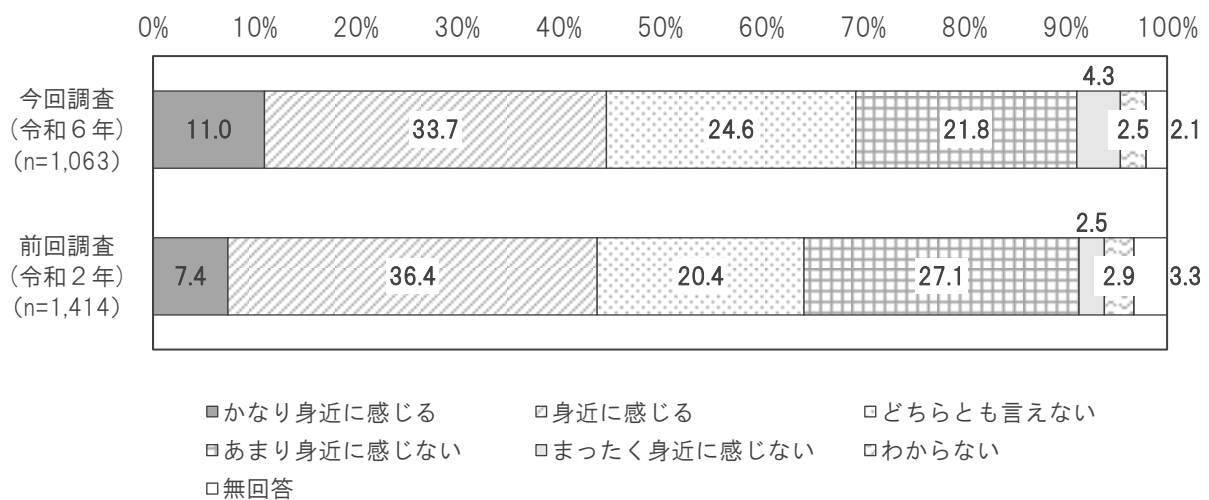
1 8歳以上の市民を対象とした調査結果

1. あなたの人権意識について

[1] 「人権」の身近さについて

問1	あなたは「人権」をどのくらい身近な問題として感じていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
----	--

- 「人権」の身近さについては、「身近に感じる」が33.7%と3割以上を占め最も高く、「かなり身近に感じる」を合わせた『身近に感じる』が44.7%と4割以上となっています。一方で、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた『身近に感じない』は26.1%と2割以上となっています。
- 前回調査と比較すると、『身近に感じる』（「かなり身近に感じる」+「身近に感じる」）が0.9ポイント高くなっており、『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）が3.5ポイント低くなっています。
- 性別にみると、『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）が男性では30.1%と、女性（24.3%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）が31.3%と最も高くなっています。



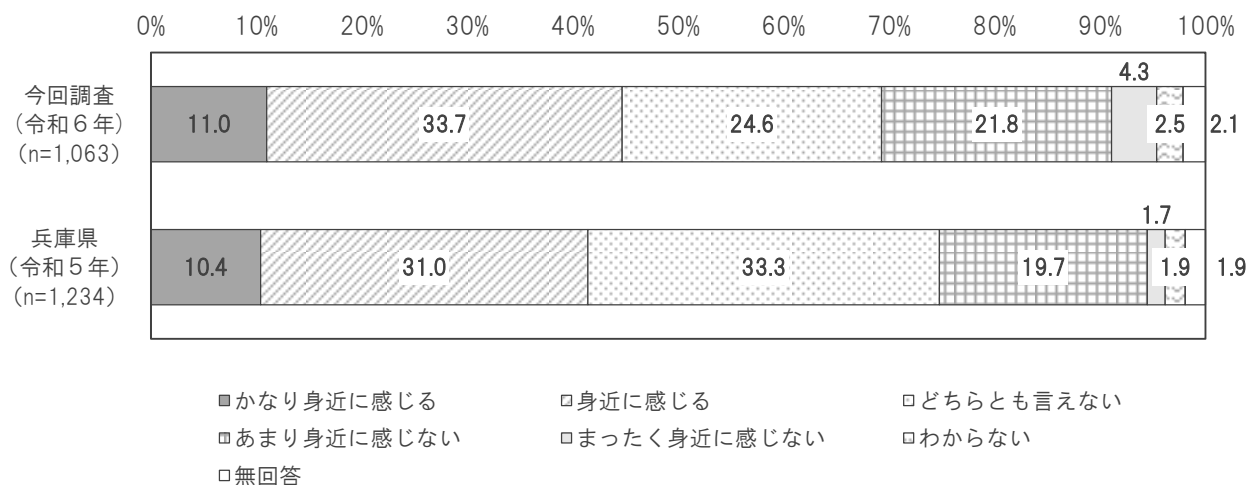
※前回調査では「ひじょうに身近に感じる」の文言で調査

単位 (%)

区分		調査数 (件)	かなり 身近に 感じる	身近に 感じる	どちらとも 言えない	あまり 身近に 感じない	まったく 身近に 感じない	わから ない	無回 答
全体		1063	11.0	33.7	24.6	21.8	4.3	2.5	2.1
性別	男性	372	11.0	34.1	22.6	23.9	6.2	0.8	1.3
	女性	605	10.9	33.9	25.8	21.3	3.0	3.5	1.7
	その他	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-
	無回答	83	9.6	30.1	25.3	16.9	6.0	3.6	8.4
年代	18～29歳	84	14.3	33.3	19.0	23.8	6.0	3.6	-
	30～39歳	149	13.4	30.2	28.9	22.8	4.7	-	-
	40～49歳	161	16.8	29.8	29.2	17.4	4.3	1.2	1.2
	50～59歳	170	6.5	41.2	25.9	20.6	2.4	1.2	2.4
	60～69歳	185	4.9	41.1	25.9	20.0	2.2	3.2	2.7
	70歳以上	278	11.9	29.9	20.1	25.5	5.8	4.7	2.2
	無回答	36	13.9	22.2	19.4	19.4	8.3	2.8	13.9

【県調査との比較】

- ・県調査と比較すると、「どちらとも言えない」が8.7ポイント低くなっていますが、『身近に感じる』（「かなり身近に感じる」+「身近に感じる」）と『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）では、大きな差異はみられません。

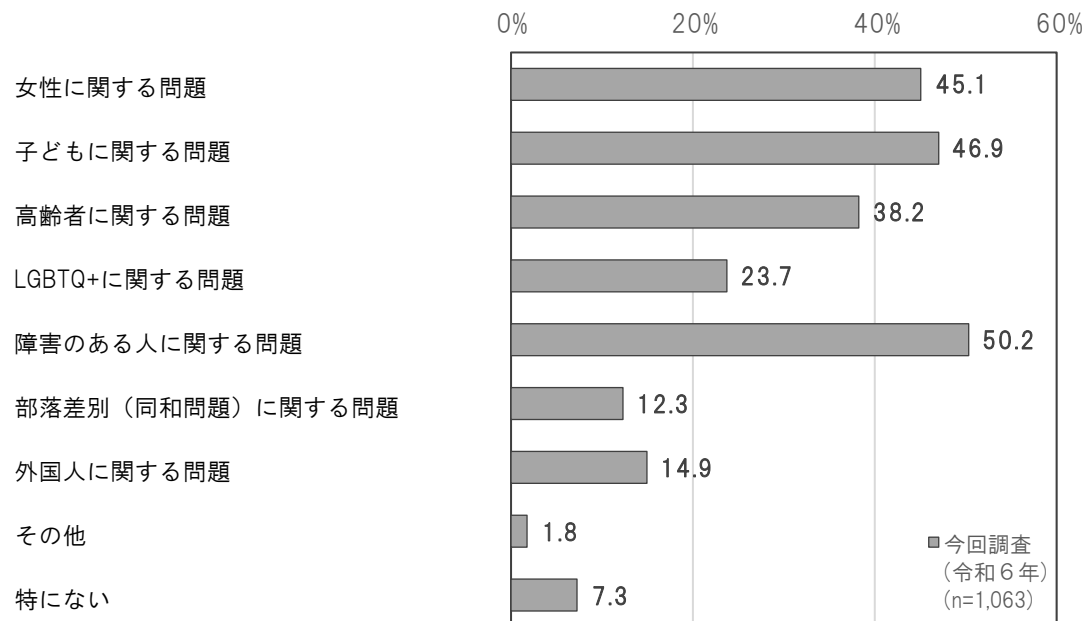


※県調査では「ひじょうに身近に感じる」、「かなり身近に感じる」の文言で調査を実施

【2】関心がある人権にかかわる問題について

問2	あなたが特に関心をお持ちの人権にかかわる問題はどのようなことですか。 (3つまで選んでください)
----	---

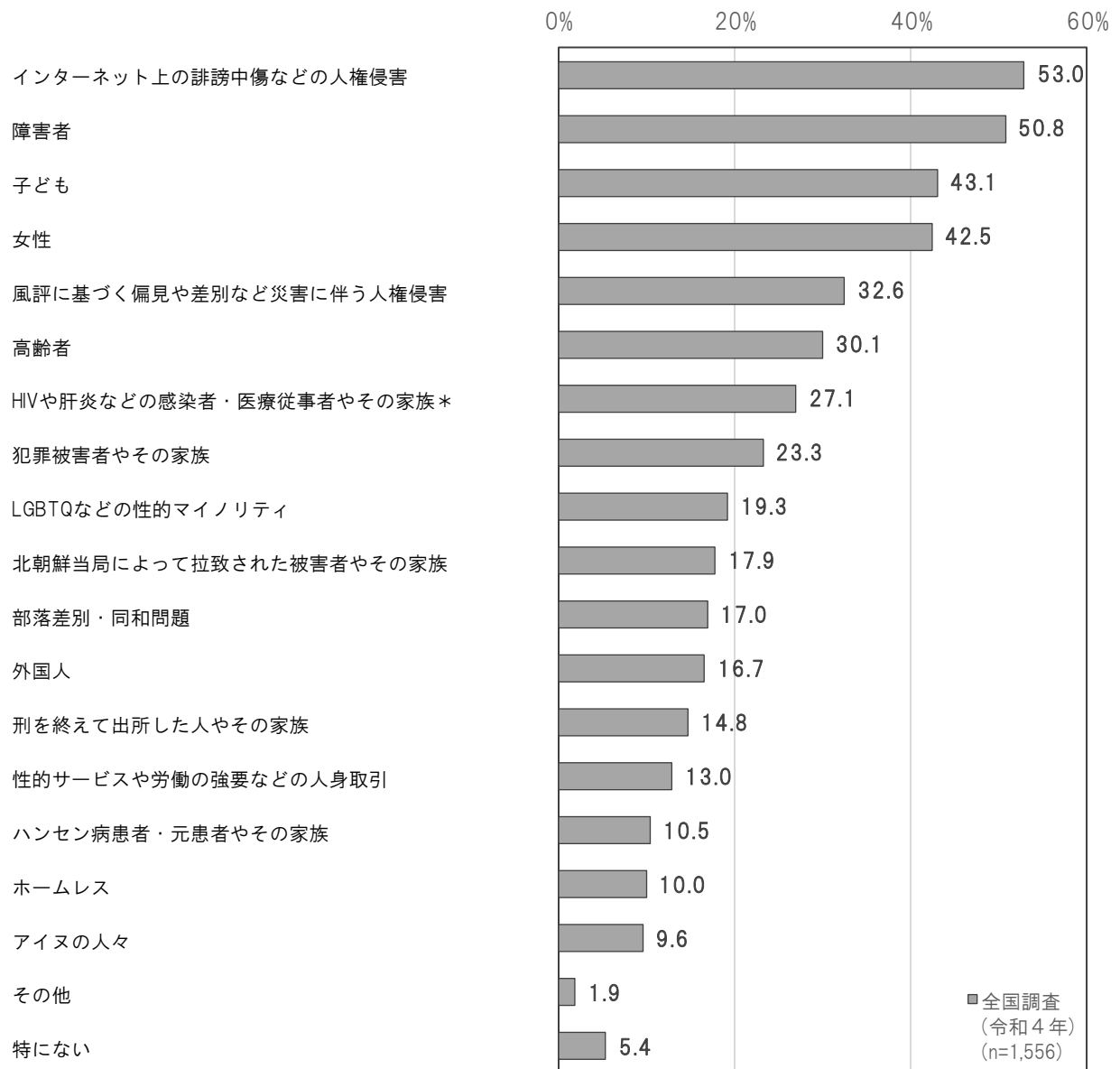
- 関心がある人権にかかわる問題については、「障害のある人に関する問題」が50.2%と半数以上を占め最も高く、次いで「子どもに関する問題」(46.9%)、「女性に関する問題」(45.1%)となっています。
- 性別にみると、「外国人に関する問題」、「部落差別(同和問題)に関する問題」は男性が女性より高く、「女性に関する問題」、「子どもに関する問題」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、年代層ごとに回答割合が最も高い項目が異なっており、18～29歳では「女性に関する問題」、30～49歳では「子どもに関する問題」、50～69歳では「障害のある人に関する問題」、70歳以上では「高齢者に関する問題」が最も高くなっています。また、年代が下がるにつれ「LGBTQ+に関する問題」が高くなる傾向がみられます。



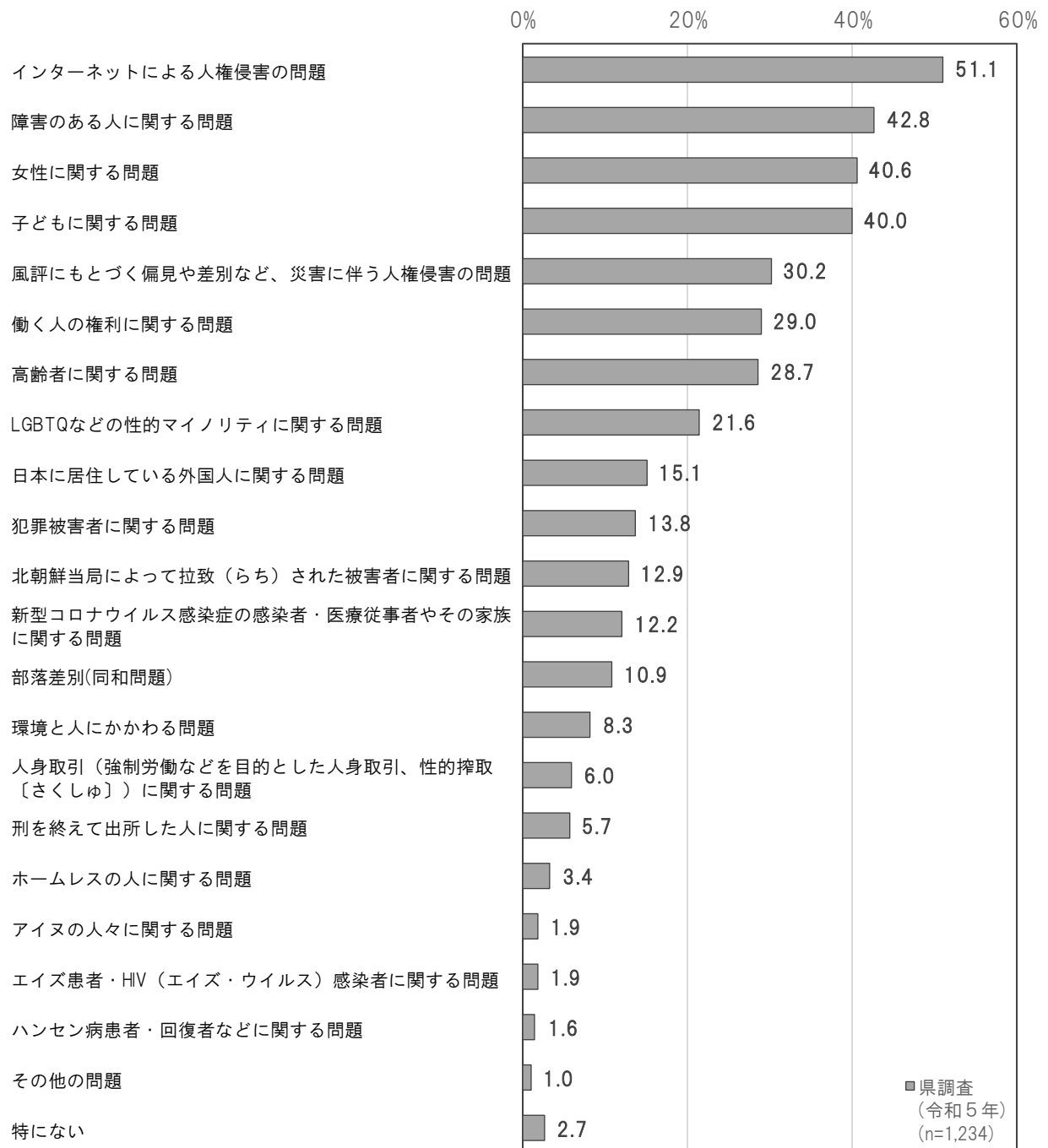
単位 (%)

区分		調査数 (件)	女性に関する 問題	子どもに関する 問題	高齢者に関する 問題	L G B T Q + に関する 問題	障害のある人に関する 問題	部落差別（同和問題）に関する 問題	外国人に関する 問題	その他	特 に ない	無 回 答
全体		1063	45.1	46.9	38.2	23.7	50.2	12.3	14.9	1.8	7.3	1.1
性別	男性	372	35.5	43.0	40.1	22.0	52.7	16.9	19.6	1.3	9.4	0.8
	女性	605	52.1	51.1	36.5	25.5	50.4	10.2	11.9	2.1	5.6	0.5
	その他	3	33.3	-	-	100.0	33.3	33.3	-	-	-	-
	無回答	83	37.3	36.1	43.4	15.7	38.6	6.0	15.7	1.2	10.8	7.2
年代	18～29歳	84	54.8	48.8	8.3	45.2	38.1	9.5	27.4	1.2	4.8	-
	30～39歳	149	59.7	65.1	10.7	30.9	43.0	5.4	13.4	2.0	8.7	-
	40～49歳	161	49.1	54.0	24.8	29.8	50.3	8.1	11.2	1.2	7.5	-
	50～59歳	170	47.1	42.4	37.1	25.9	49.4	15.9	13.5	2.4	7.1	2.4
	60～69歳	185	46.5	37.8	51.4	21.6	54.6	18.4	20.0	1.6	2.7	1.1
	70歳以上	278	32.4	44.2	60.8	11.2	56.5	13.7	11.9	1.8	10.4	0.4
	無回答	36	25.0	25.0	44.4	13.9	41.7	8.3	11.1	2.8	8.3	13.9

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



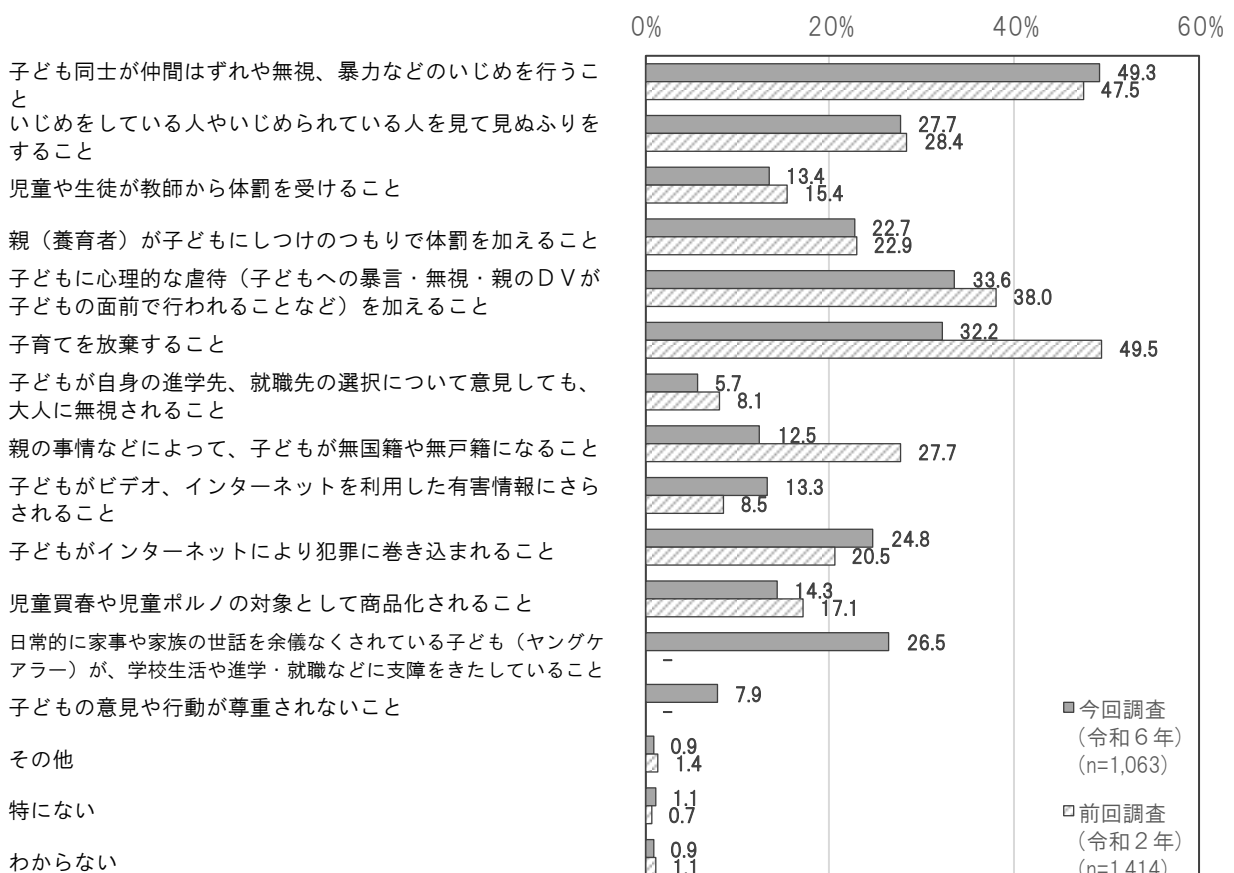
【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。



【3】子どもに関する人権問題について

問3	子どもに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 (3つまで選んでください)
----	---

- 子どもに関する人権問題については、「子ども同士が仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと」が49.3%と半数近くを占め最も高く、次いで「子どもに心理的な虐待（子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど）を加えること」（33.6%）、「子育てを放棄すること」（32.2%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「子育てを放棄すること」が17.3ポイント低く、「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」が15.2ポイント低くなっています
- 性別にみると、「子育てを放棄すること」が男性では37.6%と、女性（29.6%）に比べて高くなっています。また、「児童買春や児童ポルノの対象として商品化されること」が女性では17.0%と、男性（11.3%）に比べて高くなっており、「日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること」が女性では29.1%と、男性（23.9%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、18～29歳を除く全ての年代で「子ども同士が仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと」が最も高く、18～29歳で「子どもに心理的な虐待（子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど）を加えること」が最も高くなっています。



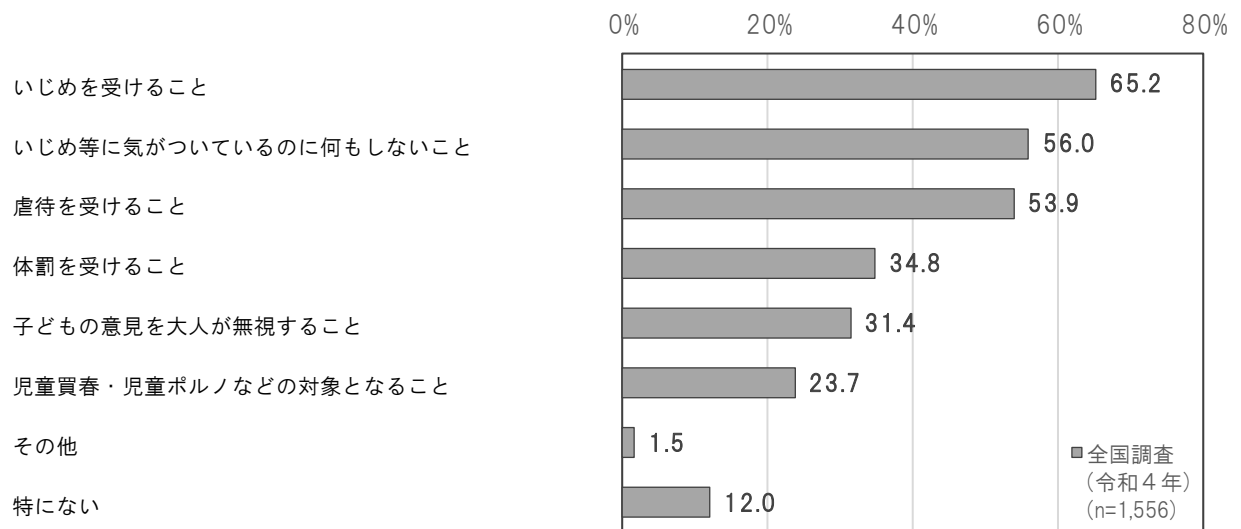
※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

※今回調査で、「日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること」、「子どもの意見や行動が尊重されないこと」が追加

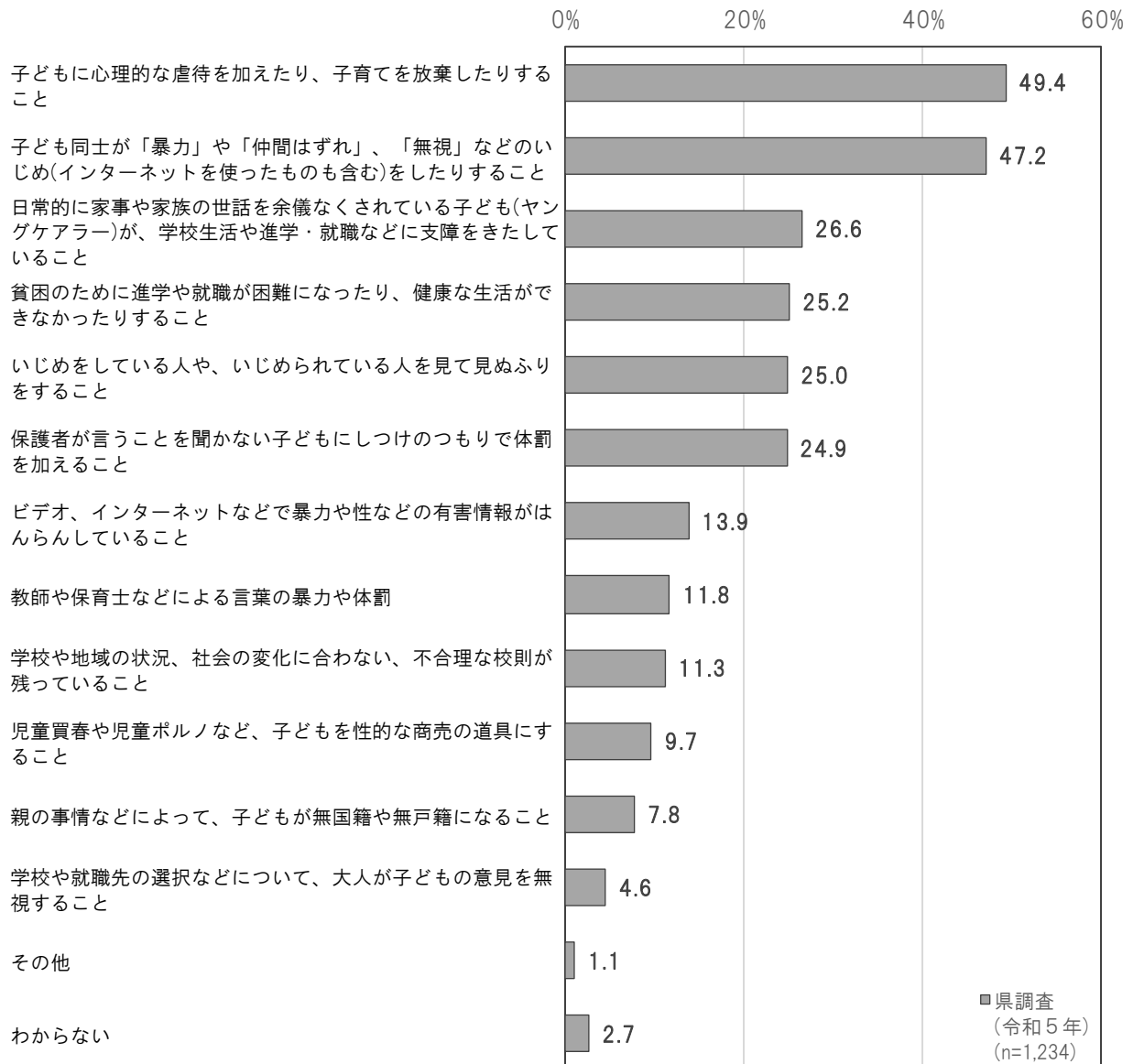
単位 (%)

区分		調査数（件）	子どもの同士の仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと	いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする事	児童や生徒が教師から体罰を受けること	親（養育者）が子どもにしつけのつもりで体罰を加えること	親のDVが子どもの面前で行われることなど）を加えること	子育てを放棄すること	子どもが自身の進学先、就職先の選択について意見しても、大人に無視されること	親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること	子どもがビデオ、インターネット（※１）を利用した有害情報にさらされること	子どもがインターネットにより犯罪に巻き込まれること	児童買春や児童ポルノの対象として商品化されること	日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること	子どもの意見や行動が尊重されないこと	その他	特にな	わからない	無回答
全体		1063	49.3	27.7	13.4	22.7	33.6	32.2	5.7	12.5	13.3	24.8	14.3	26.5	7.9	0.9	1.1	0.9	1.3
性別	男性	372	52.4	29.3	13.4	23.1	31.7	37.6	4.0	11.0	12.9	23.4	11.3	23.9	9.1	0.8	0.5	0.3	1.1
	女性	605	48.3	26.4	13.2	23.0	34.9	29.6	6.4	14.0	13.2	26.0	17.0	29.1	7.3	1.0	1.5	1.2	0.7
	その他	3	33.3	100.0	33.3	-	66.7	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	83	43.4	26.5	13.3	19.3	31.3	25.3	8.4	8.4	15.7	24.1	8.4	20.5	7.2	1.2	1.2	2.4	7.2
年代	18～29歳	84	34.5	23.8	13.1	26.2	48.8	34.5	9.5	7.1	8.3	19.0	16.7	25.0	19.0	1.2	-	-	-
	30～39歳	149	56.4	25.5	16.1	22.1	38.9	26.8	7.4	10.1	10.1	21.5	14.8	24.2	11.4	0.7	-	-	-
	40～49歳	161	50.3	29.2	12.4	19.3	32.3	31.7	6.2	15.5	16.1	31.1	17.4	30.4	5.0	0.6	-	0.6	-
	50～59歳	170	44.7	27.6	12.9	24.1	32.4	34.7	6.5	17.6	9.4	26.5	9.4	30.0	4.1	0.6	0.6	0.6	2.9
	60～69歳	185	49.7	24.3	13.0	30.3	36.2	33.0	1.6	10.3	10.8	23.8	13.5	23.8	4.9	1.6	1.6	0.5	1.1
	70歳以上	278	52.9	30.9	13.7	18.7	25.9	33.5	5.4	13.3	18.7	26.3	15.8	27.3	8.3	1.1	2.9	2.2	0.7
	無回答	36	41.7	30.6	8.3	16.7	33.3	25.0	8.3	2.8	13.9	11.1	8.3	13.9	11.1	-	-	2.8	13.9

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



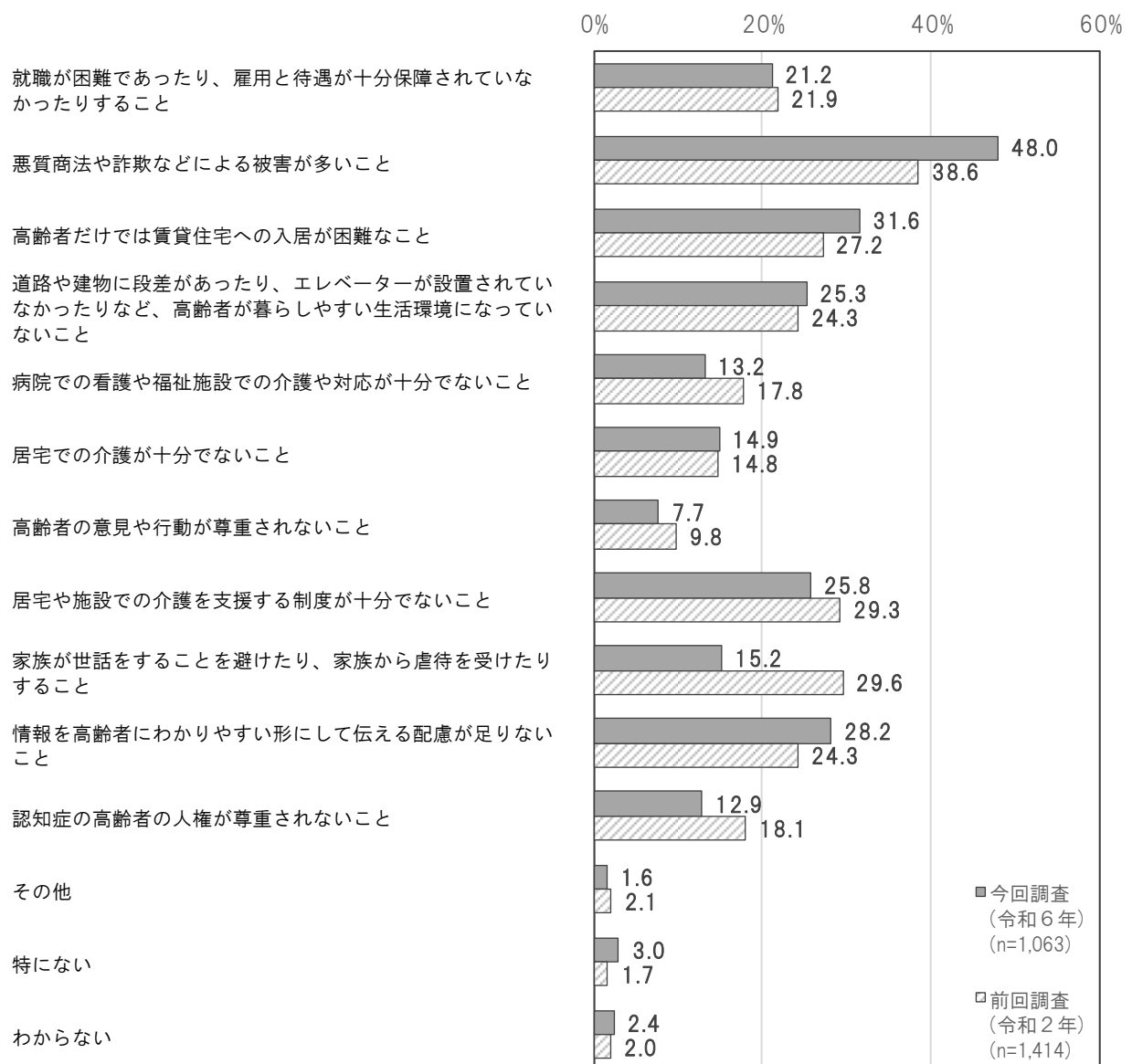
【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。



〔４〕高齢者に関する人権問題について

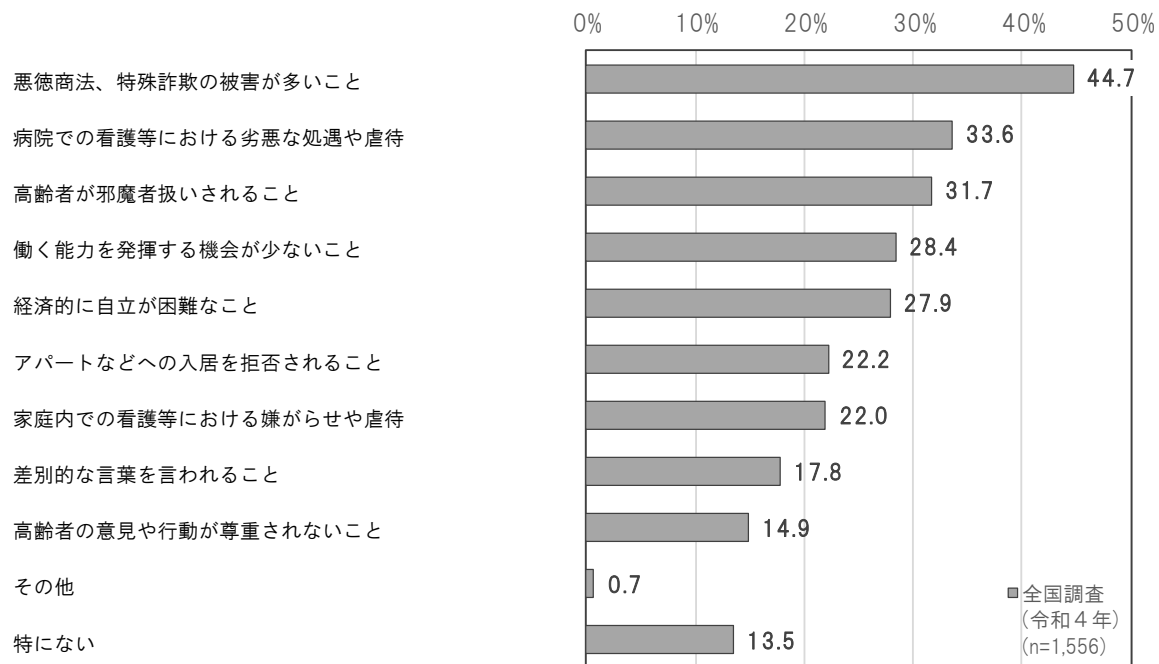
問４	高齢者に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 (３つまで選んでください)
----	---

- ・高齢者に関する人権問題については、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が48.0%と半数近くを占め最も高く、次いで「高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと」(31.6%)、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」(28.2%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が9.4ポイント高く、「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」が14.4ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」は男性が女性より高く、「高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと」、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」は女性が男性より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」が高くなっています。

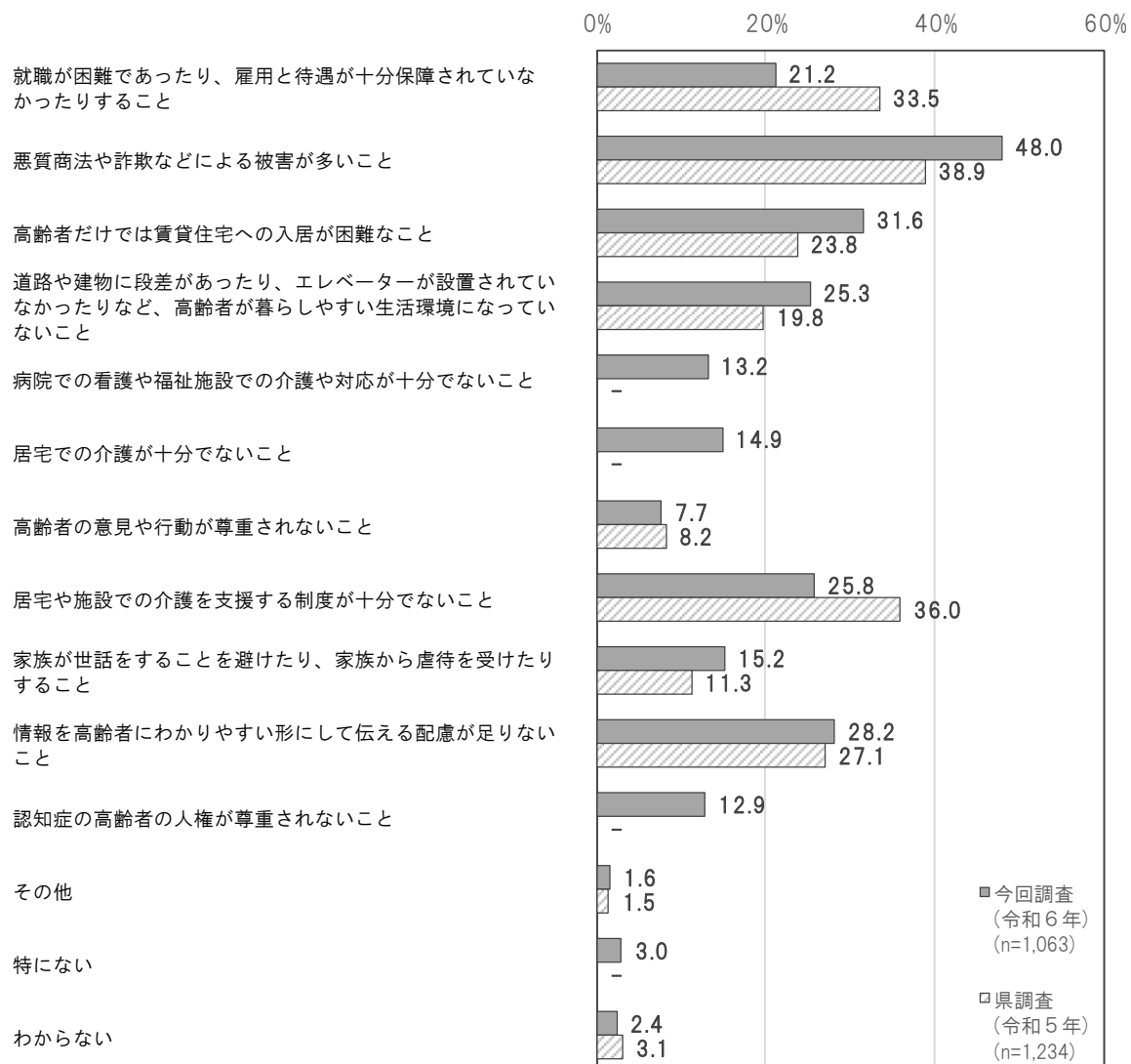


区分		調査数（件）	と就職が困難であったり、雇用と待遇が十分保障されていなかったりするこ	悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと	高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと	道路や建物に段差があつたり、エレベーターが設置されていなかったりなど、高齢者が暮らしやすい生活環境になっていないこと	病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと	居宅での介護が十分でないこと	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと	家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	認知症の高齢者の人権が尊重されないこと	その他	特にな	わからない	単位（％）
																	無回答
全体		1063	21.2	48.0	31.6	25.3	13.2	14.9	7.7	25.8	15.2	28.2	12.9	1.6	3.0	2.4	1.0
性別	男性	372	24.5	51.9	26.1	23.4	10.8	15.3	8.6	25.0	16.4	22.8	12.6	1.9	5.6	1.6	0.8
	女性	605	20.3	45.8	35.7	27.4	14.5	14.2	6.8	27.1	13.6	30.7	12.9	1.3	1.5	3.0	0.3
	その他	3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-
	無回答	83	13.3	48.2	26.5	19.3	13.3	16.9	10.8	19.3	21.7	33.7	14.5	2.4	2.4	1.2	7.2
年代	18～29歳	84	21.4	39.3	21.4	19.0	16.7	9.5	2.4	16.7	25.0	20.2	14.3	1.2	6.0	4.8	-
	30～39歳	149	25.5	40.9	36.2	10.1	11.4	12.8	2.0	24.8	22.8	15.4	13.4	0.7	4.7	5.4	-
	40～49歳	161	22.4	49.1	36.6	20.5	14.9	21.1	3.7	28.6	12.4	25.5	13.0	1.9	4.3	3.1	-
	50～59歳	170	24.1	48.8	31.2	26.5	15.9	19.4	4.1	34.7	17.6	30.6	7.1	1.2	0.6	1.8	1.8
	60～69歳	185	29.2	47.0	29.2	29.7	18.9	13.5	5.4	34.6	9.7	24.9	14.6	0.5	2.2	0.5	1.1
	70歳以上	278	12.9	53.6	32.7	34.2	6.8	12.2	17.3	16.9	10.8	38.5	14.4	2.5	2.9	1.8	0.7
	無回答	36	5.6	50.0	19.4	27.8	11.1	13.9	16.7	19.4	25.0	38.9	13.9	5.6	-	-	11.1

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



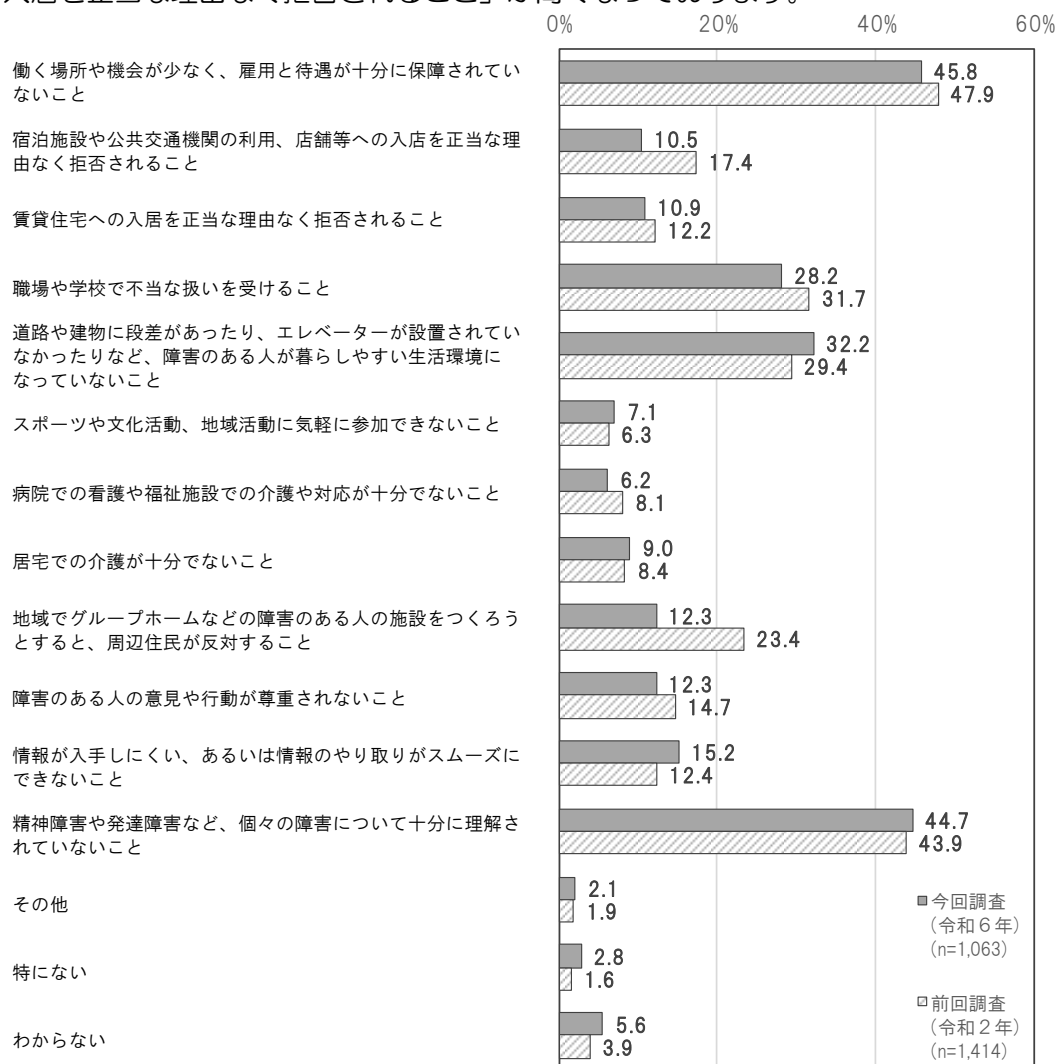
【参考※：県調査】 ※今回調査をもとに、類似する県調査の選択肢を比較しています。



〔5〕障害のある人に関する人権問題について

問5	障害のある人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）
----	--

- ・障害のある人に関する人権問題については、「働く場所や機会が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと」が 45.8%と4割以上を占め最も高く、次いで「精神障害や発達障害など、個々の障害について十分に理解されていないこと」（44.7%）、「道路や建物に段差があったり、エレベーターが設置されていなかったりなど、障害のある人が暮らしやすい生活環境になっていないこと」（32.2%）となっています。
- ・前回調査と比較すると、「地域でグループホームなどの障害のある人の施設をつくろうとすると、周辺住民が反対すること」が 11.1 ポイント低く、「宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を正当な理由なく拒否されること」が 6.9 ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、「精神障害や発達障害など、個々の障害について十分に理解されていないこと」が女性では 49.3%と、男性（41.4%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、年代が上がるにつれ「職場や学校で不当な扱いを受けること」が低くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、30～39 歳で「宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を正当な理由なく拒否されること」が高くなっております。

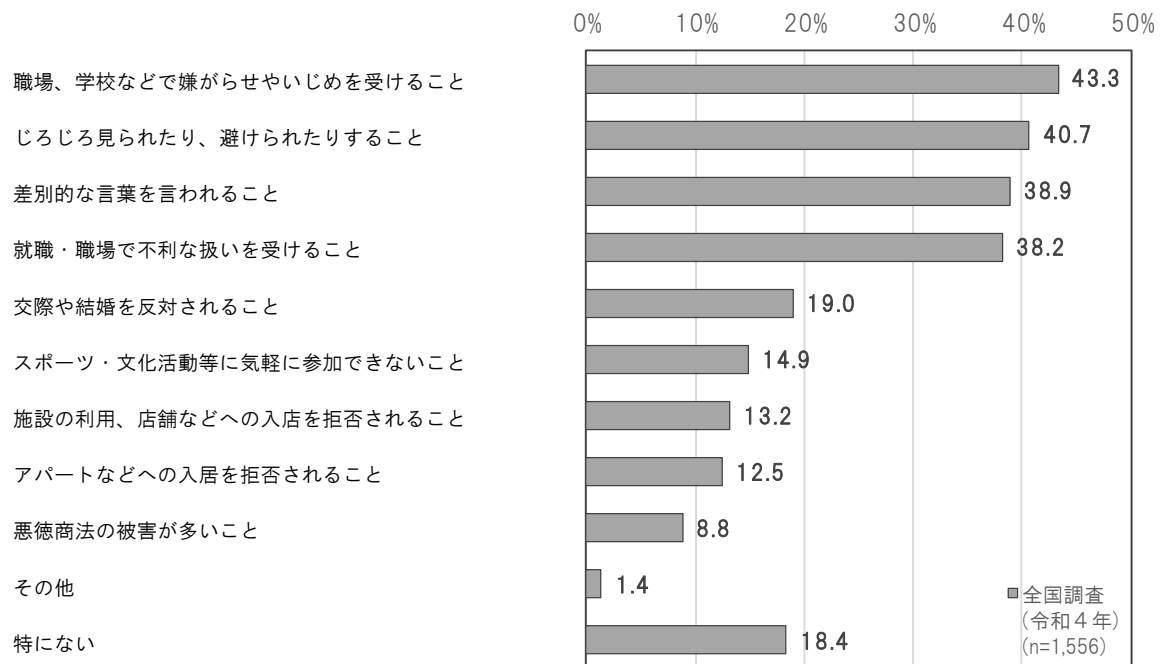


※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

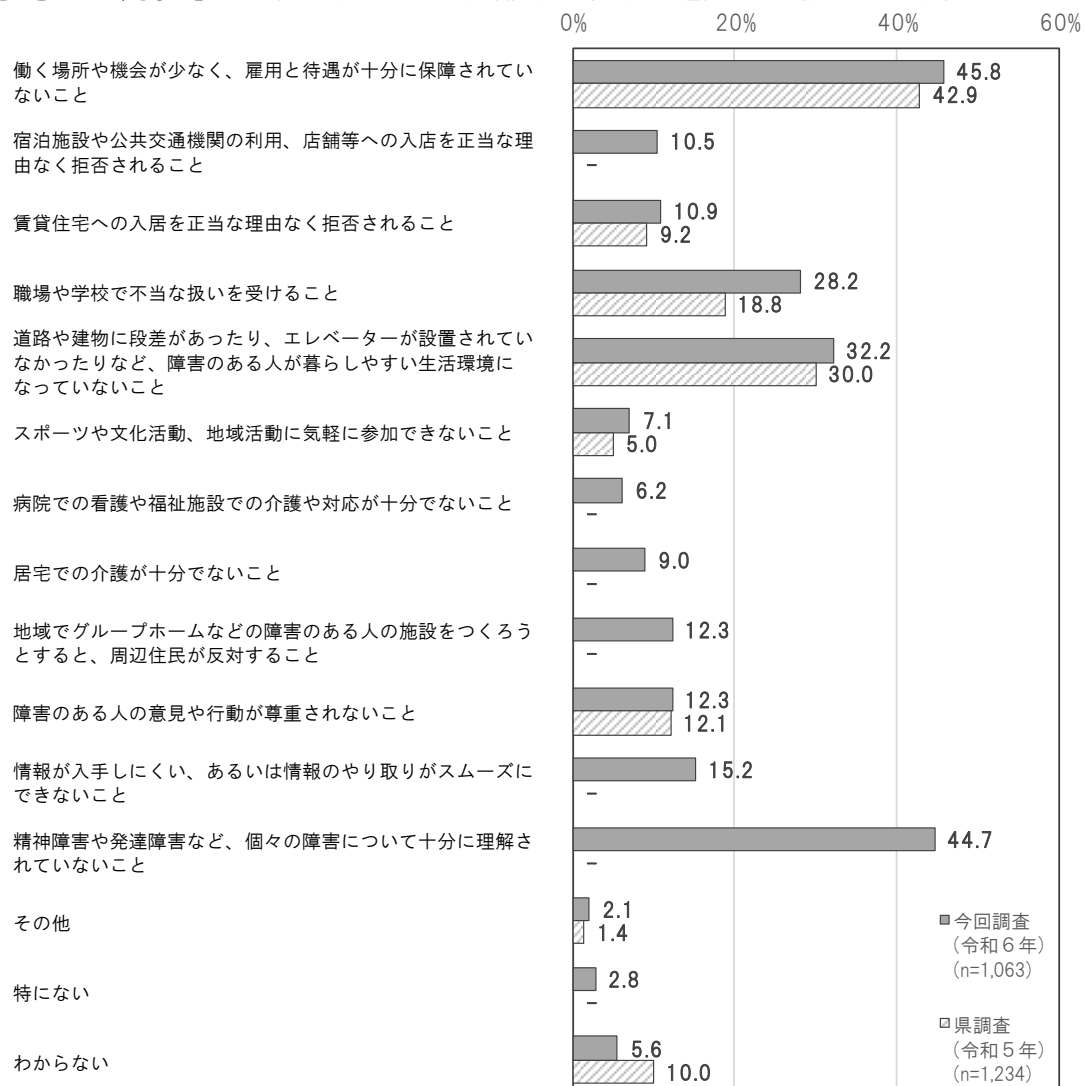
単位 (%)

区分		調査数（件）	働く場所や機会が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと	宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を正当な理由なく拒否されること	賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること	職場や学校で不当な扱いを受けること	道路や建物に段差があつたり、エレベーターが設置されていないこと	スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できないこと	病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと	居宅での介護が十分でないこと	地域でグループホームなどの障害のある人の施設をつくろうとすると、周辺住民が反対すること	障害のある人の意見や行動が尊重されないこと	情報が入手しにくい、あるいは情報のやり取りがスムーズにできないこと	と精神障害や発達障害など、個々の障害について十分に理解されていないこと	その他	特になし	わからない	無回答
全体		1063	45.8	10.5	10.9	28.2	32.2	7.1	6.2	9.0	12.3	12.3	15.2	44.7	2.1	2.8	5.6	1.4
性別	男性	372	49.7	11.8	13.7	28.0	29.0	9.9	8.1	10.5	12.4	12.9	13.4	41.4	3.0	3.8	3.0	1.3
	女性	605	45.3	9.6	9.8	28.8	33.7	5.0	4.8	7.8	12.7	11.4	16.0	49.3	1.3	2.1	7.1	0.7
	その他	3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3	-
	無回答	83	33.7	12.0	7.2	25.3	34.9	8.4	7.2	12.0	8.4	16.9	18.1	26.5	3.6	3.6	6.0	7.2
年代	18～29歳	84	42.9	10.7	8.3	46.4	11.9	7.1	4.8	3.6	7.1	16.7	9.5	58.3	2.4	3.6	7.1	-
	30～39歳	149	49.7	20.1	12.8	34.9	16.1	6.0	4.0	8.1	6.7	11.4	16.8	39.6	-	5.4	3.4	0.7
	40～49歳	161	47.2	9.9	8.7	34.8	24.8	6.8	10.6	8.1	9.3	10.6	16.1	54.7	3.1	2.5	5.6	0.6
	50～59歳	170	48.8	7.6	10.0	30.0	36.5	4.7	6.5	8.8	11.2	11.2	11.8	45.9	1.8	1.2	4.7	1.8
	60～69歳	185	49.2	9.2	9.7	21.6	42.2	7.0	7.6	10.8	14.6	12.4	14.6	48.1	2.7	1.6	3.8	0.5
	70歳以上	278	41.0	8.3	13.3	19.4	41.4	7.9	4.7	10.4	18.0	12.6	18.7	37.8	1.8	3.2	8.3	1.8
	無回答	36	36.1	11.1	11.1	22.2	36.1	16.7	2.8	11.1	11.1	16.7	11.1	19.4	5.6	2.8	5.6	11.1

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



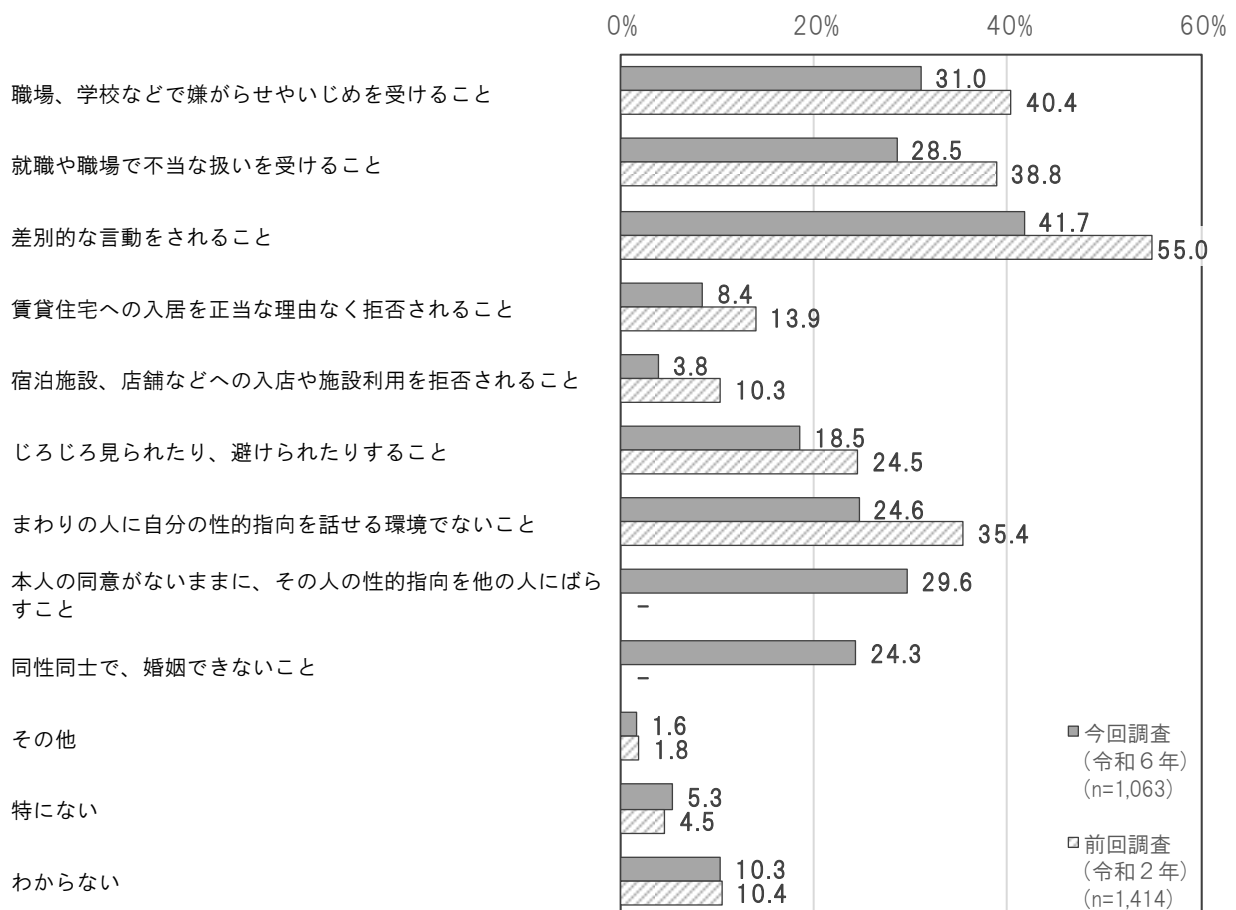
【参考※：県調査】 ※今回調査をもとに、類似する県調査の選択肢を比較しています。



〔6〕性的指向に関する人権問題について

問6	LGBTQ+などの性的マイノリティのうち、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルなどといった性的指向のマイノリティに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）
----	---

- ・性的指向に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が41.7%と4割以上を占め最も高く、次いで「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」（31.0%）、「本人の同意がないままに、その人の性的指向を他の人にばらすこと」（29.6%）となっています。
- ・性別にみると、「同性同士で、婚姻できないこと」、「まわりの人に自分の性的指向を話せる環境でないこと」は女性が男性より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、30～39 歳では「本人の同意がないままに、その人の性的指向を他の人にばらすこと」が高くなっています。また、他の年代に比べ、70 歳以上では「特にない」、「わからない」が高くなっています。



※設問文について、前回調査から表現の変更あり

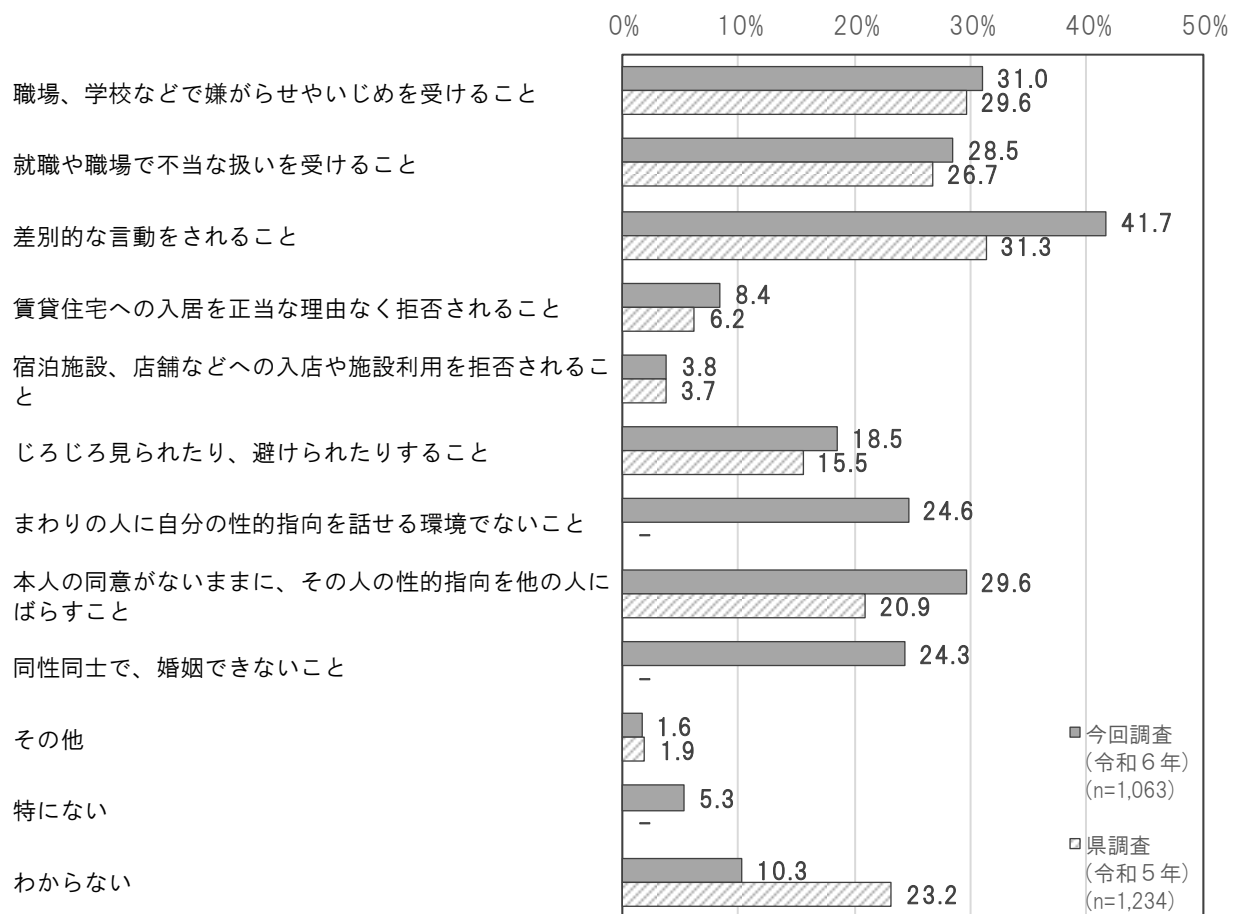
※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

※今回調査で、「本人の同意がないままに、その人の性的指向を他の人にばらすこと」、「同性同士で、婚姻できないこと」が追加

単位 (%)

区分		調査数 (件)	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	就職や職場で不当な扱いを受けること	差別的な言動をされること	賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	まわりの人に自分の性的指向を話せる環境でないこと	本人の同意がないままに、その人の性的指向を他の人にばらすこと	同性同士で、婚姻できないこと	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	31.0	28.5	41.7	8.4	3.8	18.5	24.6	29.6	24.3	1.6	5.3	10.3	2.4
性別	男性	372	30.6	26.9	44.6	5.9	3.5	21.2	21.8	27.4	19.1	3.5	7.8	9.1	2.4
	女性	605	31.6	30.1	42.1	9.6	3.6	17.0	28.4	31.9	28.6	0.5	3.6	10.4	1.3
	その他	3	33.3	66.7	33.3	-	-	-	33.3	-	100.0	-	-	-	-
	無回答	83	28.9	22.9	25.3	10.8	6.0	18.1	9.6	24.1	13.3	1.2	6.0	14.5	10.8
年代	18～29歳	84	34.5	16.7	50.0	9.5	4.8	22.6	27.4	32.1	38.1	1.2	1.2	2.4	2.4
	30～39歳	149	37.6	30.2	45.6	10.1	4.7	11.4	14.8	40.3	34.2	1.3	6.0	4.7	0.7
	40～49歳	161	36.6	29.2	47.8	9.9	2.5	15.5	31.1	34.8	31.7	1.2	2.5	6.8	0.6
	50～59歳	170	31.2	36.5	37.6	9.4	2.9	21.2	25.3	29.4	18.8	1.8	5.3	9.4	1.8
	60～69歳	185	29.2	31.4	46.5	4.9	3.2	18.4	31.4	29.7	27.6	2.2	3.8	8.6	1.1
	70歳以上	278	25.5	23.4	34.5	7.9	4.3	21.2	21.9	23.0	12.9	1.8	9.4	18.7	3.6
	無回答	36	22.2	33.3	27.8	8.3	5.6	19.4	13.9	8.3	13.9	-	-	13.9	19.4

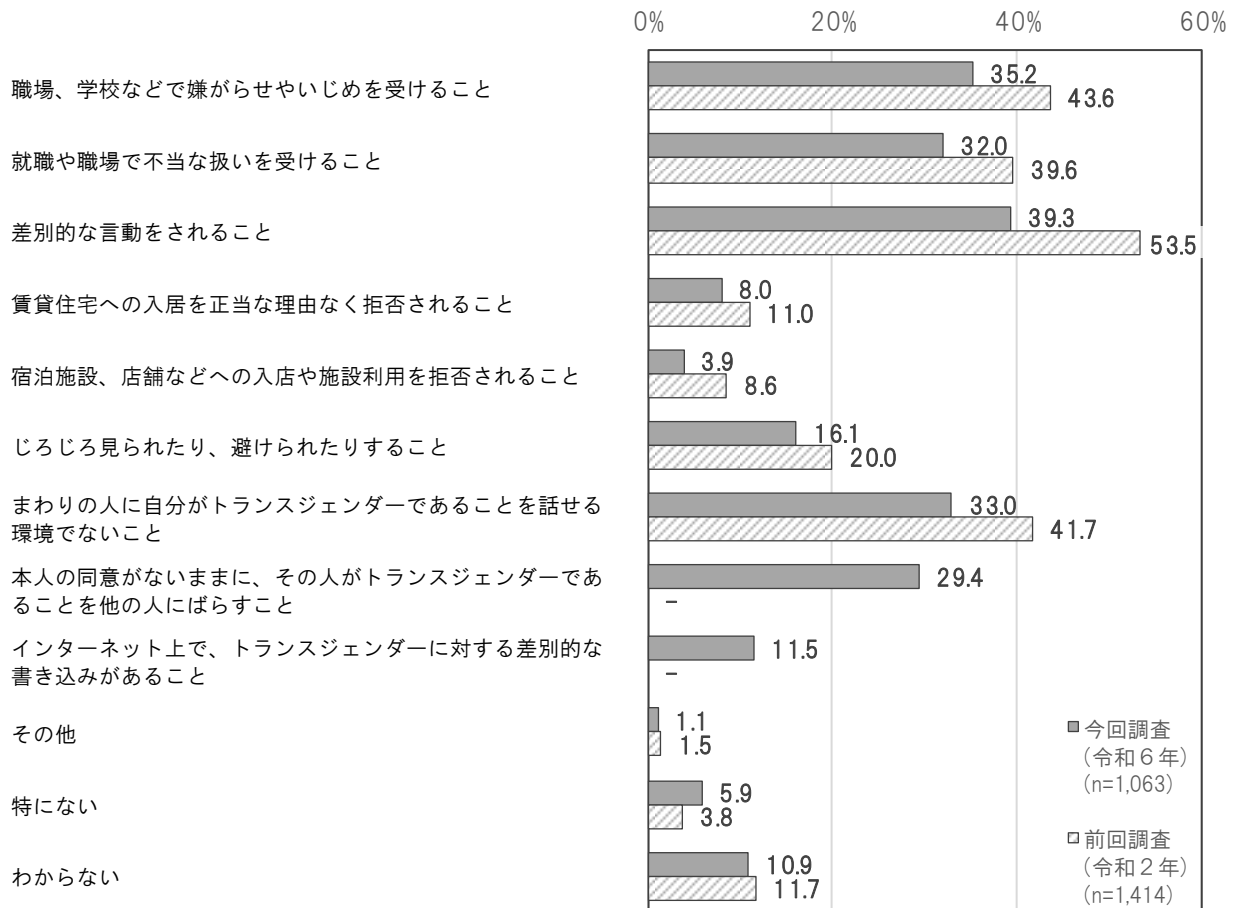
【参考※：県調査】 ※今回調査をもとに、類似する県調査の選択肢を比較しています。



【7】トランスジェンダーに関する人権問題について

問7	LGBTQ+などの性的マイノリティのうち、出生時の性別と性自認が一致しないトランスジェンダーに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）
----	--

- ・トランスジェンダーに関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が39.3%と4割近くを占め最も高く、次いで「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」（35.2%）、「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」（33.0%）となっています。
- ・性別にみると、「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」が女性では39.0%と、男性（26.1%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、40～49歳では「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」が高くなっています。また、他の年代に比べ、70歳以上では「わからない」が高くなっています。



※設問文について、前回調査から表現の変更あり

※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

※今回調査で、「本人の同意がないままに、その人がトランスジェンダーであることを他の人にばらすこと」、「インターネット上で、トランスジェンダーに対する差別的な書き込みがあること」が追加

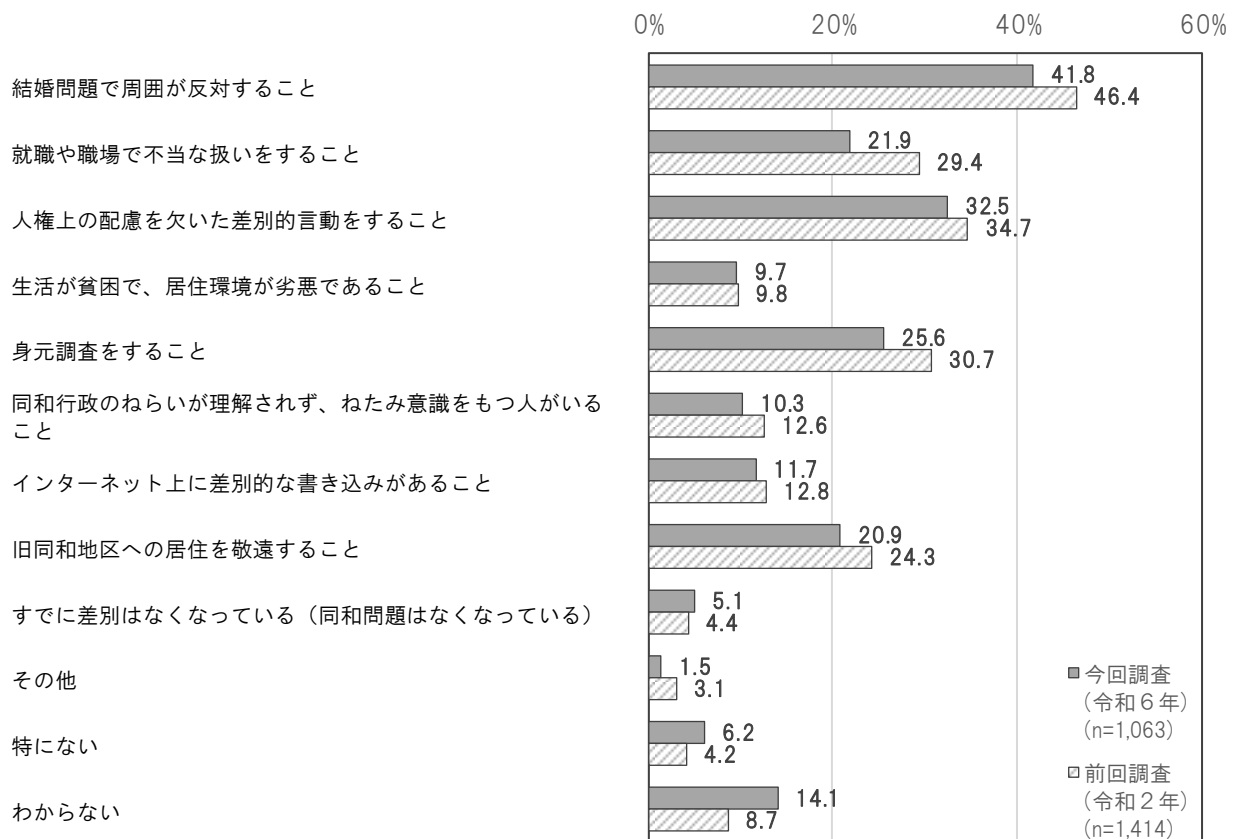
単位 (%)

区分		調査数 (件)	職場、 学校などで嫌がらせやいじめを受けること	就職や職場で不当な扱いを受けること	差別的な言動をされること	賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと	本人の同意がないままに、その人がトランスジェンダーであることを他の人にばらすこと	インターネット上で、トランスジェンダーに対する差別的な書き込みがあること	その他	特 に ない	わからない	無回答
全体		1063	35.2	32.0	39.3	8.0	3.9	16.1	33.0	29.4	11.5	1.1	5.9	10.9	2.8
性別	男性	372	33.1	31.2	41.9	7.3	3.5	17.7	26.1	28.5	9.7	2.4	9.1	8.9	3.0
	女性	605	37.2	33.9	38.2	8.8	4.1	16.0	39.0	30.6	12.9	0.5	3.6	11.6	1.7
	その他	3	33.3	66.7	66.7	-	-	-	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-
	無回答	83	30.1	20.5	34.9	6.0	3.6	9.6	19.3	24.1	8.4	-	8.4	15.7	10.8
年代	18～29歳	84	29.8	22.6	44.0	11.9	8.3	15.5	32.1	34.5	10.7	1.2	1.2	7.1	1.2
	30～39歳	149	43.6	36.9	43.6	10.7	2.7	14.1	29.5	36.2	14.8	0.7	5.4	5.4	-
	40～49歳	161	41.0	31.7	41.0	9.3	3.7	15.5	42.9	32.9	10.6	2.5	4.3	8.7	0.6
	50～59歳	170	37.1	39.4	37.1	5.9	6.5	20.0	33.5	32.9	11.8	0.6	3.5	8.2	2.4
	60～69歳	185	32.4	31.9	45.9	4.9	1.6	15.7	36.8	33.0	15.1	1.6	7.6	9.2	1.1
	70歳以上	278	30.6	28.8	31.3	8.6	3.2	16.2	28.4	18.3	8.3	0.7	9.7	19.1	5.0
	無回答	36	27.8	25.0	41.7	2.8	2.8	11.1	19.4	22.2	8.3	-	-	11.1	22.2

〔8〕部落差別（同和問題）に関する人権問題について

問8	部落差別（同和問題）に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）
----	--

- 部落差別（同和問題）に関する人権問題については、「結婚問題で周囲が反対すること」が41.8%と4割以上を占め最も高く、次いで「人権上の配慮を欠いた差別的言動をすること」（32.5%）、「身元調査をすること」（25.6%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「就職や職場で不当な扱いをすること」が7.5ポイント低く、「身元調査をすること」が5.1ポイント低くなっています。一方で、「わからない」が前回より5.4ポイント高くなっています。
- 性別にみると、「わからない」が女性では16.2%と、男性（9.4%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、30～39歳では「人権上の配慮を欠いた差別的言動をすること」が高く、18～29歳では「わからない」が高くなっています。

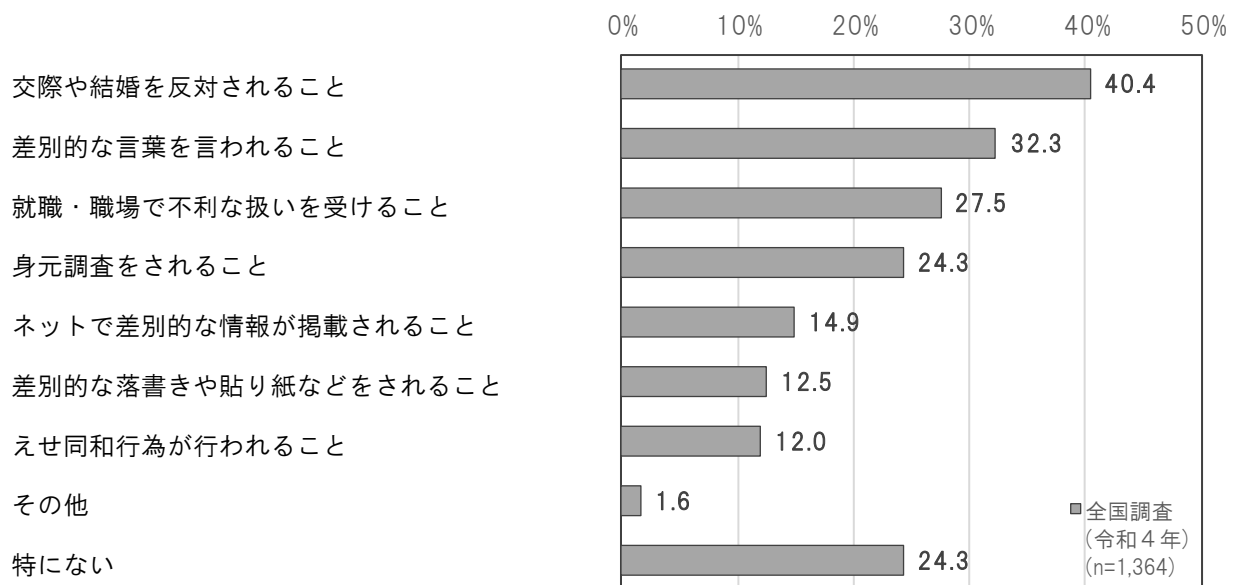


※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

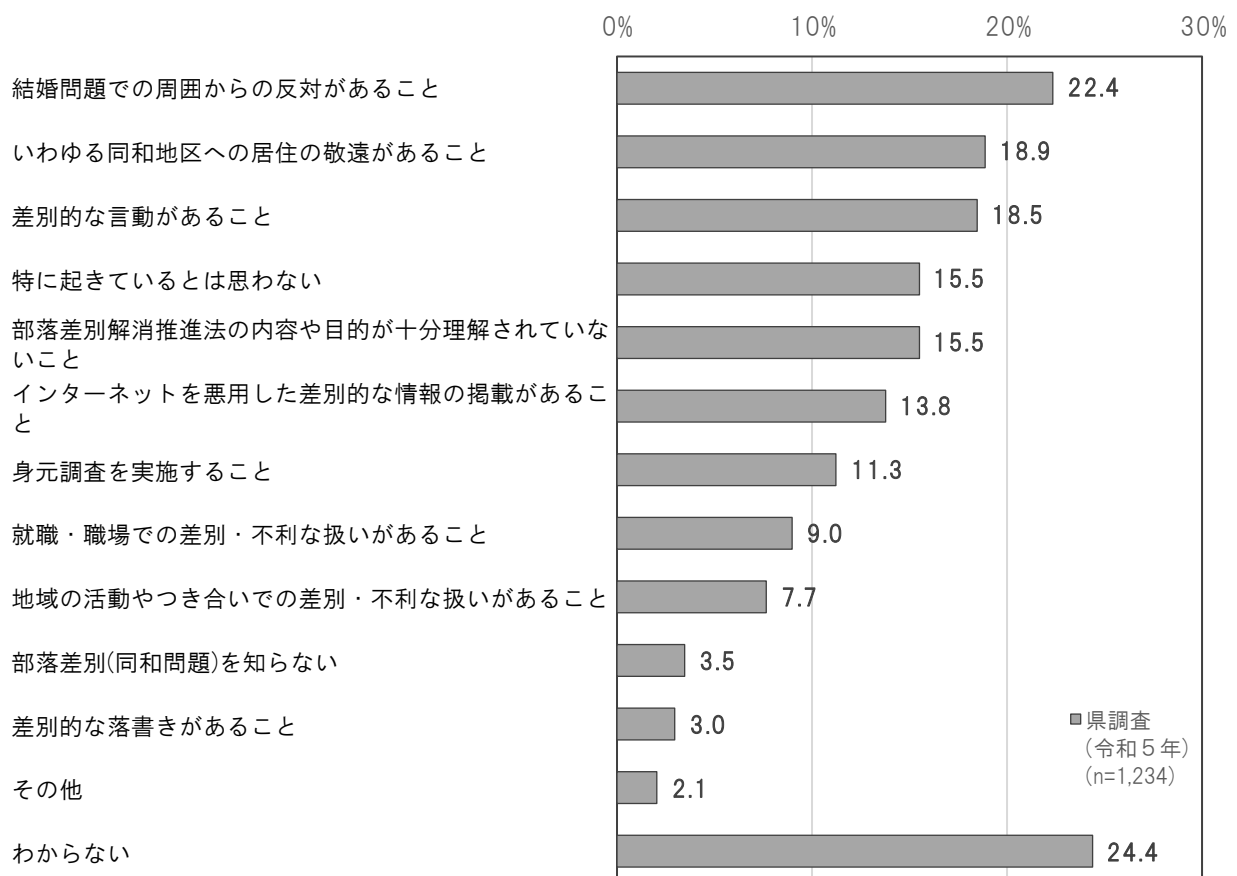
単位 (%)

区分		調査数 (件)	結婚問題で 周囲が反対すること	就職や職場で 不当な扱いをすること	人権上の配慮を 欠いた差別的言動を すること	生活が貧困で、 居住環境が劣悪であること	身元調査を すること	同和行政のねらいが 理解されず、ねたみ意識を もつ人がいること	インターネット上に 差別的な書き込みがあること	旧同和地区への居住を 敬遠すること	すでに差別はなくなっている (同和問題はなくなっている)	その他	特になし	わからない	無回答
全体		1063	41.8	21.9	32.5	9.7	25.6	10.3	11.7	20.9	5.1	1.5	6.2	14.1	2.2
性別	男性	372	40.6	20.4	35.2	8.6	24.5	12.1	12.9	21.8	4.8	2.7	9.7	9.4	1.9
	女性	605	44.3	23.3	31.9	10.7	26.9	9.4	11.9	20.7	4.8	1.0	4.0	16.2	1.3
	その他	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-
	無回答	83	30.1	18.1	24.1	7.2	20.5	9.6	4.8	19.3	7.2	-	6.0	20.5	9.6
年代	18～29歳	84	28.6	19.0	27.4	13.1	10.7	8.3	8.3	16.7	6.0	-	4.8	29.8	-
	30～39歳	149	43.0	26.8	40.9	16.1	18.1	4.7	9.4	15.4	4.0	0.7	8.7	17.4	-
	40～49歳	161	45.3	22.4	31.1	14.9	23.6	8.1	12.4	23.0	4.3	2.5	6.2	15.5	-
	50～59歳	170	40.0	25.9	32.9	11.2	22.4	12.4	15.9	20.6	2.9	1.8	4.1	13.5	2.9
	60～69歳	185	43.2	22.7	34.6	7.6	32.4	11.9	13.5	24.9	3.2	1.6	7.6	8.6	1.6
	70歳以上	278	45.3	18.0	28.8	3.6	33.1	12.2	10.8	21.2	7.9	1.8	6.1	10.8	3.2
	無回答	36	25.0	13.9	30.6	2.8	22.2	16.7	2.8	22.2	8.3	-	2.8	13.9	16.7

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。

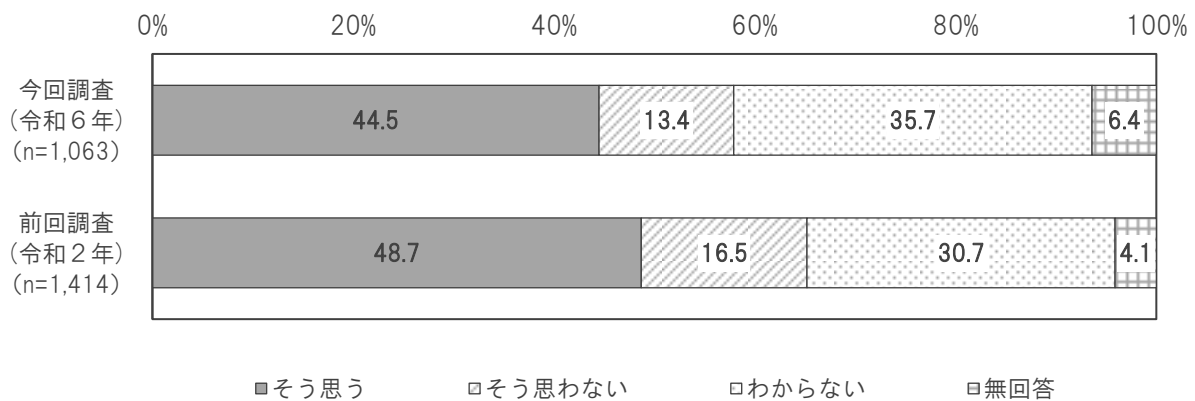


〔 9 〕 旧同和地区や部落差別に関する人権問題について

問9	あなたは、旧同和地区や部落差別について、どう思いますか。ア～エそれぞれについて、①～③のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。
----	--

ア 部落差別は、いまだにあると思う

- ・「部落差別は、いまだにあると思う」の考え方については、「そう思う」が 44.5%と4割以上を占め最も高くなっています。
- ・前回調査と比較すると、「そう思う」が 4.2 ポイント、「そう思わない」が 3.1 ポイント低くなっており、「わからない」が 5.0 ポイント高くなっています。
- ・性別にみると、「わからない」が女性では 38.3%と、男性（33.3%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、全ての年代で「そう思う」が最も高くなっています。



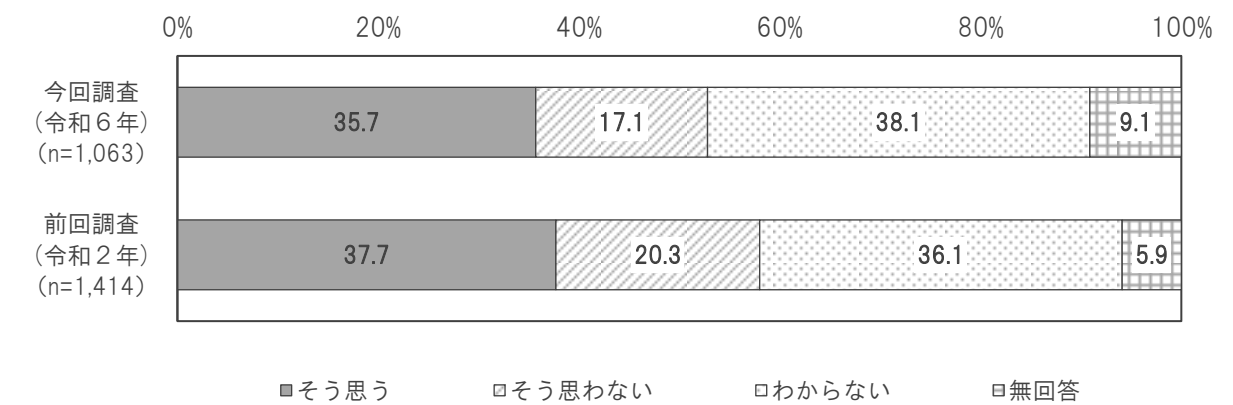
単位 (%)

区分		調査数 (件)	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
全体		1063	44.5	13.4	35.7	6.4
性別	男性	372	48.7	13.4	33.3	4.6
	女性	605	44.0	12.4	38.3	5.3
	その他	3	66.7	33.3	-	-
	無回答	83	28.9	19.3	28.9	22.9
年代	18～29歳	84	44.0	9.5	41.7	4.8
	30～39歳	149	47.7	10.1	36.9	5.4
	40～49歳	161	44.1	13.7	40.4	1.9
	50～59歳	170	45.3	14.1	35.3	5.3
	60～69歳	185	46.5	11.9	34.6	7.0
	70歳以上	278	42.4	17.3	33.1	7.2
	無回答	36	36.1	8.3	25.0	30.6
学習 経験 の 有 無	学習したことが『ある』	785	47.9	13.0	34.4	4.7
	学習したことが『ない』	157	40.8	14.6	38.2	6.4

問14で「学校の授業」「職場の研修」「講習会など」を1つ以上回答した方を『ある』としている。

イ 旧同和地区には住みたくない

- 「旧同和地区には住みたくない」の考え方については、「わからない」が38.1%と4割近くを占め最も高くなっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、男性では「そう思う」が37.4%と最も高く、女性では「わからない」が41.5%と最も高い結果となっています。また、男性では「そう思わない」が21.5%と、女性（14.5%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、30～39歳と70歳以上では「そう思う」が最も高くなっています。

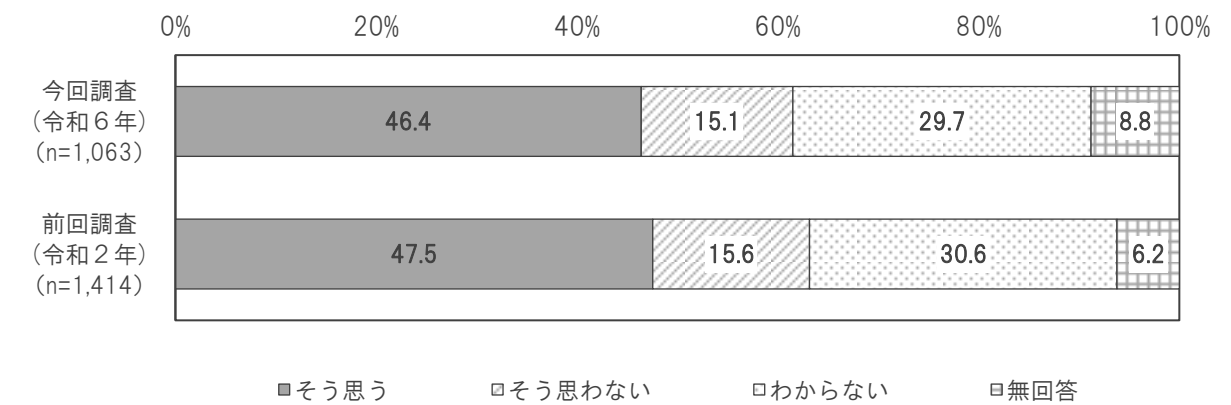


区分		単位 (%)				
		調査数 (件)	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
全体		1063	35.7	17.1	38.1	9.1
性別	男性	372	37.4	21.5	34.4	6.7
	女性	605	35.5	14.5	41.5	8.4
	その他	3	33.3	66.7	-	-
	無回答	83	28.9	14.5	31.3	25.3
年代	18～29歳	84	25.0	26.2	44.0	4.8
	30～39歳	149	38.3	16.1	38.3	7.4
	40～49歳	161	36.6	17.4	42.2	3.7
	50～59歳	170	38.8	14.1	39.4	7.6
	60～69歳	185	37.3	14.1	39.5	9.2
	70歳以上	278	35.6	18.7	32.7	12.9
	無回答	36	22.2	16.7	33.3	27.8
学習経験の差	学習したことがある	785	35.3	18.0	39.6	7.1
	学習したことがない	157	44.6	15.9	28.0	11.5

問14で「学校の授業」「職場の研修」「講習会など」を1つ以上回答した方を『ある』としている。

ウ 身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい

- ・「身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい」の考え方については、「そう思う」が46.4%と4割以上を占め最も高くなっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別にみると、女性では「わからない」が32.6%と、男性（25.0%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、年代が上がるにつれ「そう思う」が低くなる傾向がみられます。

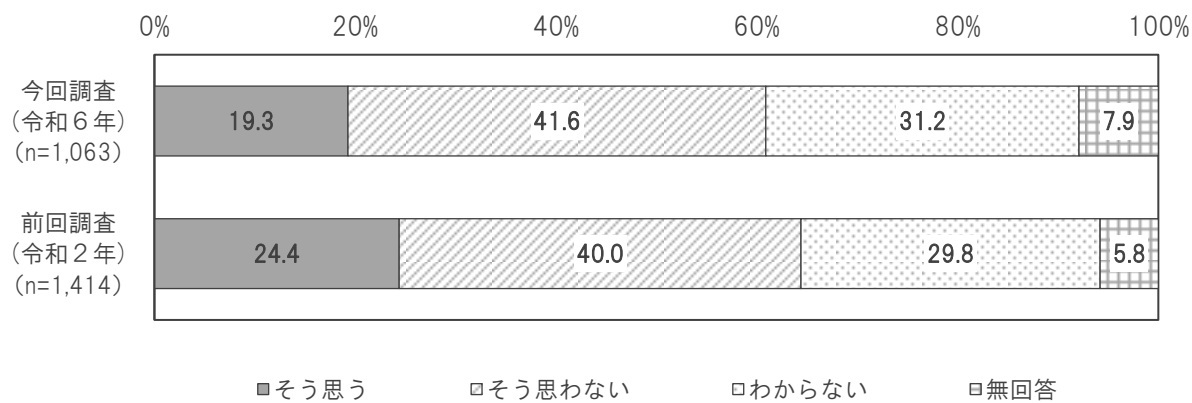


区分		単位 (%)				
		調査数 (件)	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
全体		1063	46.4	15.1	29.7	8.8
性別	男性	372	48.9	18.0	25.0	8.1
	女性	605	45.8	14.4	32.6	7.3
	その他	3	66.7	33.3	-	-
	無回答	83	38.6	6.0	31.3	24.1
年代	18～29歳	84	58.3	11.9	25.0	4.8
	30～39歳	149	51.7	15.4	26.2	6.7
	40～49歳	161	47.8	15.5	31.1	5.6
	50～59歳	170	45.9	15.9	30.6	7.6
	60～69歳	185	42.7	16.2	33.0	8.1
	70歳以上	278	42.4	15.8	29.9	11.9
	無回答	36	41.7	2.8	27.8	27.8
学習経験の差 人権や 差別の 学習したことが『ある』 学習したことが『ない』		785	49.2	15.9	27.9	7.0
		157	42.7	14.6	31.8	10.8

問14で「学校の授業」「職場の研修」「講習会など」を1つ以上回答した方を『ある』としている。

エ 部落差別はそっとしておけば自然になくなる

- ・「部落差別はそっとしておけば自然になくなる」については、「そう思わない」が 41.6%と4割以上を占め最も高くなっています。
- ・前回調査と比較すると、「そう思う」が5.1 ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、「そう思う」が男性では22.8%と、女性（17.5%）より高く、「わからない」が女性では33.9%と、男性（27.4%）より高くなっています。
- ・年代別にみると、70 歳以上では「わからない」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、「そう思う」が高くなっています。



※設問文について、前回調査から表現の変更あり

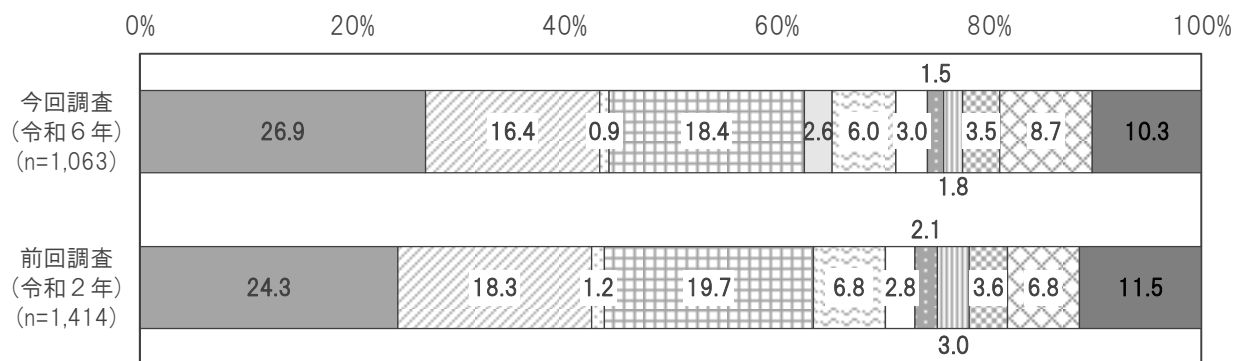
		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
全体		1063	19.3	41.6	31.2	7.9
性別	男性	372	22.8	44.1	27.4	5.6
	女性	605	17.5	41.3	33.9	7.3
	その他	3	66.7	33.3	-	-
	無回答	83	14.5	32.5	30.1	22.9
年代	18～29歳	84	17.9	42.9	34.5	4.8
	30～39歳	149	16.1	47.0	30.9	6.0
	40～49歳	161	15.5	50.3	29.8	4.3
	50～59歳	170	15.9	43.5	35.3	5.3
	60～69歳	185	16.2	47.0	29.7	7.0
	70歳以上	278	29.5	29.1	30.2	11.2
	無回答	36	5.6	36.1	27.8	30.6
学習経験の差	学習したことが『ある』	785	17.7	44.8	31.0	6.5
	学習したことがない	157	22.3	37.6	31.2	8.9

問14で「学校の授業」「職場の研修」「講習会など」を1つ以上回答した方を『ある』としている。

[10] 部落差別（同和問題）が生じる原因や背景について

問 10	部落差別（同和問題）が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
------	--

- 部落差別（同和問題）が生じる原因や背景については、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が 26.9%と2割以上を占め最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」（18.4%）、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」（16.4%）となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が女性では 29.8%と、男性（23.4%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70 歳以上を除く全ての年代で「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が最も高く、70 歳以上では「社会全体に残る差別意識」が最も高くなっています。



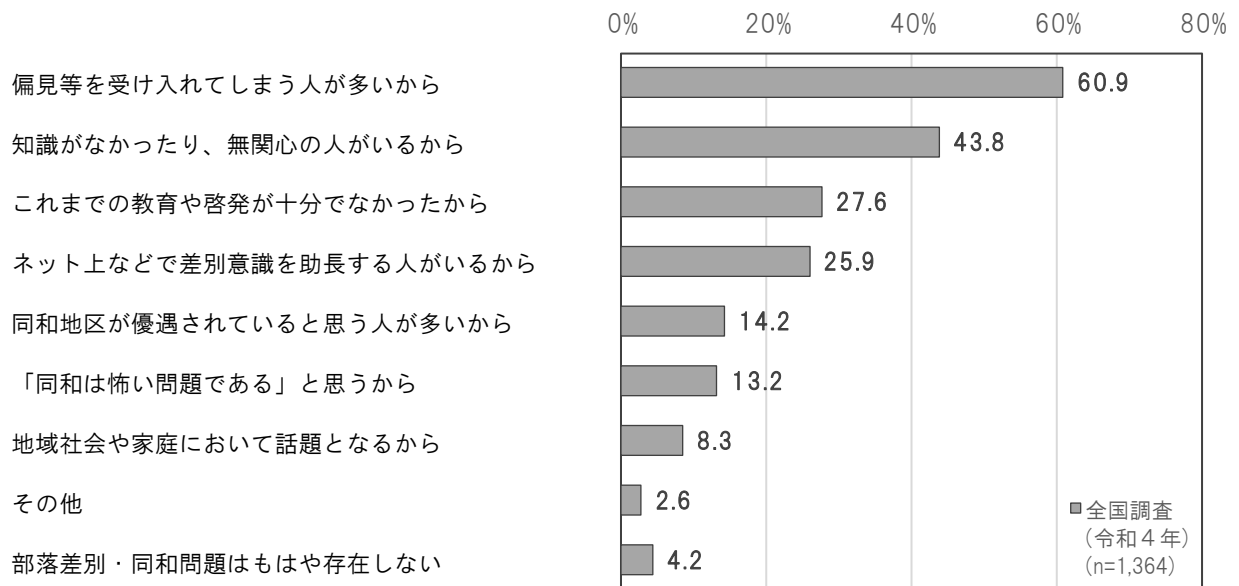
- 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識
- 地域の人から伝えられる偏見・差別意識
- 職場などで伝えられる偏見・差別意識
- 社会全体に残る差別意識
- インターネットの差別的な書き込み
- 個人の理解不足
- 学校での人権教育の不十分さ
- 行政の人権問題の啓発の不十分さ
- その他
- 特になし
- わからない
- 無回答

※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり
 ※今回調査で、「インターネットの差別的な書き込み」が追加

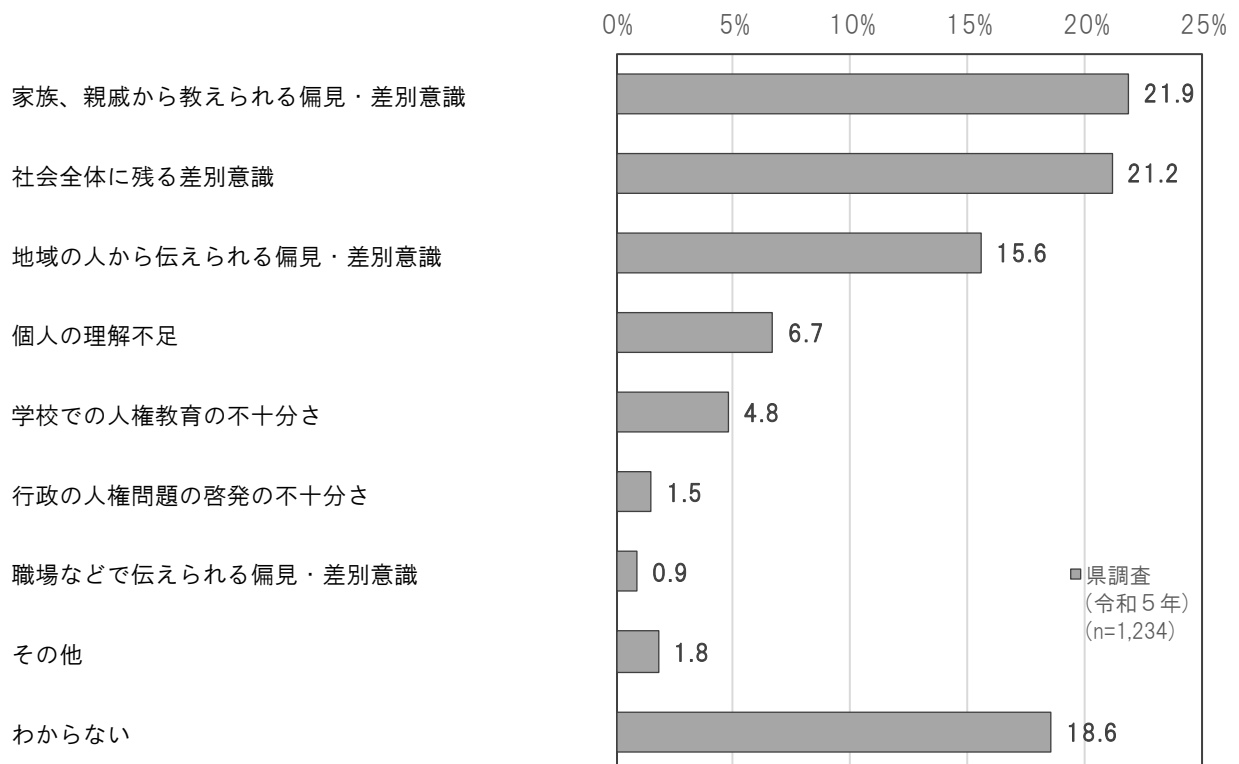
単位 (%)

区分		調査数（件）	親戚から伝えられる偏見・差別意識 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、	地域の人から伝えられる偏見・差別意識	職場などで伝えられる偏見・差別意識	社会全体に残る差別意識	インターネットの差別的な書き込み	個人の理解不足	学校での人権教育の不十分さ	行政の人権問題の啓発の不十分さ	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	26.9	16.4	0.9	18.4	2.6	6.0	3.0	1.5	1.8	3.5	8.7	10.3
性別	男性	372	23.4	16.9	1.9	19.9	3.0	5.1	2.7	2.2	2.7	4.0	8.1	10.2
	女性	605	29.8	16.4	0.5	17.9	2.3	6.6	3.0	0.8	1.5	2.8	8.9	9.6
	その他	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	83	21.7	13.3	-	16.9	2.4	6.0	4.8	3.6	-	6.0	9.6	15.7
年代	18～29歳	84	33.3	11.9	-	14.3	2.4	8.3	3.6	2.4	1.2	-	14.3	8.3
	30～39歳	149	30.2	21.5	2.7	9.4	3.4	6.0	3.4	1.3	1.3	2.0	9.4	9.4
	40～49歳	161	29.8	16.8	1.9	20.5	3.7	2.5	3.1	0.6	1.9	1.9	6.8	10.6
	50～59歳	170	25.3	24.1	1.2	18.8	1.2	8.2	2.4	-	3.5	-	7.1	8.2
	60～69歳	185	31.9	13.0	0.5	18.9	3.8	4.3	2.7	3.2	1.6	4.3	3.8	11.9
	70歳以上	278	21.2	12.2	-	22.7	2.2	7.2	3.2	1.4	1.4	7.2	11.2	10.1
	無回答	36	11.1	16.7	-	19.4	-	5.6	2.8	2.8	-	8.3	13.9	19.4

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていない。



【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていない。

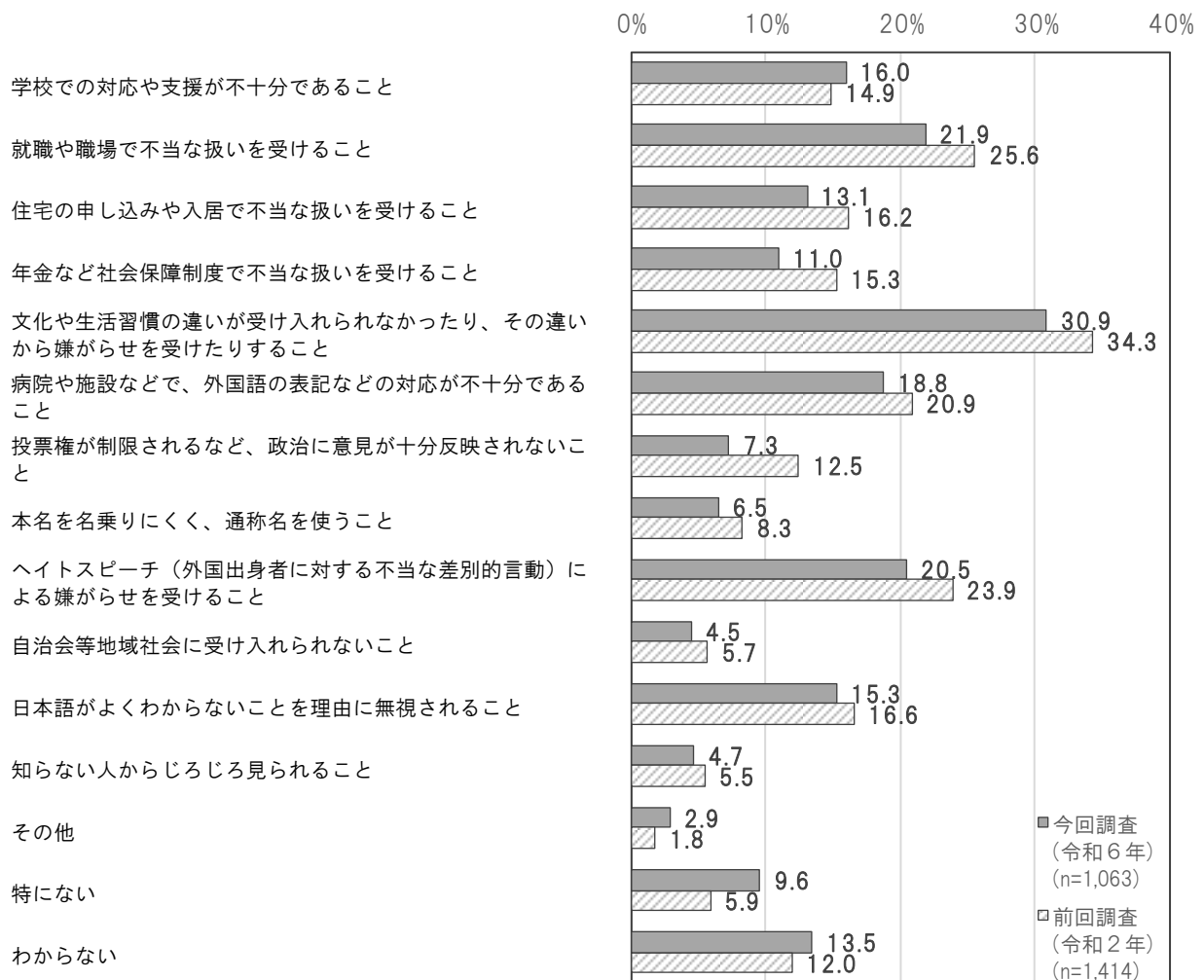


【11】日本に居住している外国人に関する人権問題について

問 11

日本に居住している外国人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

- 日本に居住している外国人に関する人権問題については、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること」が 30.9%と3割以上を占め最も高く、次いで「就職や職場で不当な扱いを受けること」（21.9%）、「ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること」（20.5%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「投票権が制限されるなど、政治に意見が十分反映されないこと」が 5.2 ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「学校での対応や支援が不十分であること」が女性では 18.5%と、男性（13.4%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「学校での対応や支援が不十分であること」が低くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、18～29 歳では「日本語がよくわからないことを理由に無視されること」が高くなっております。また、他の年代に比べ、60～69 歳では「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」が高くなっています。

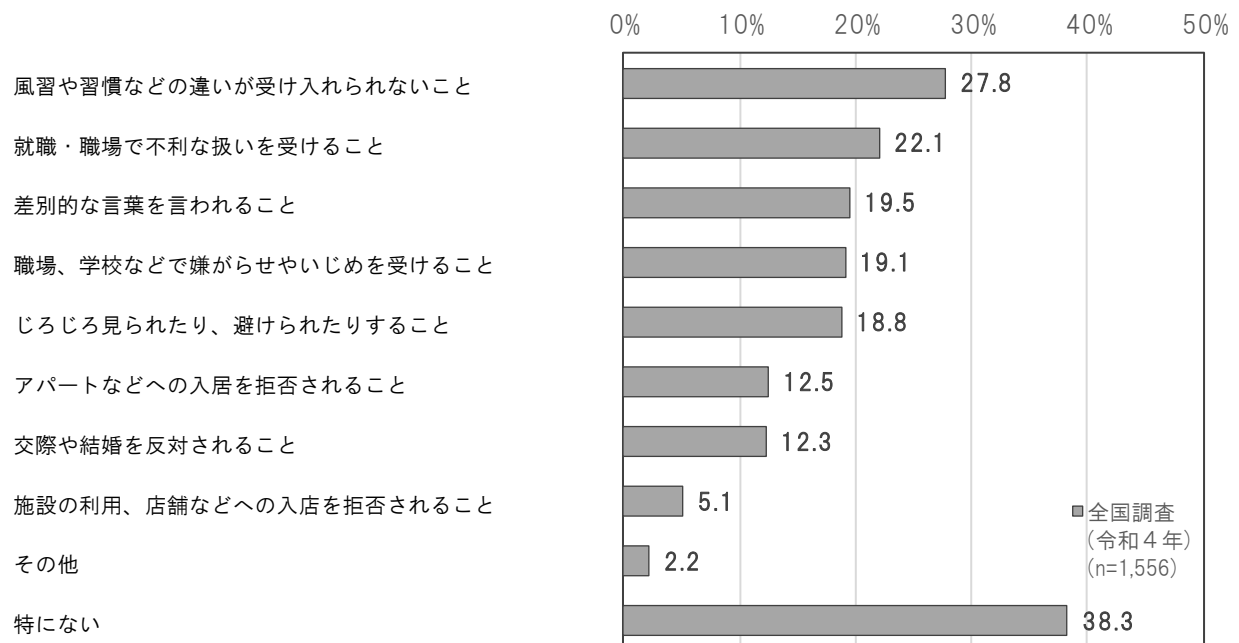


※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

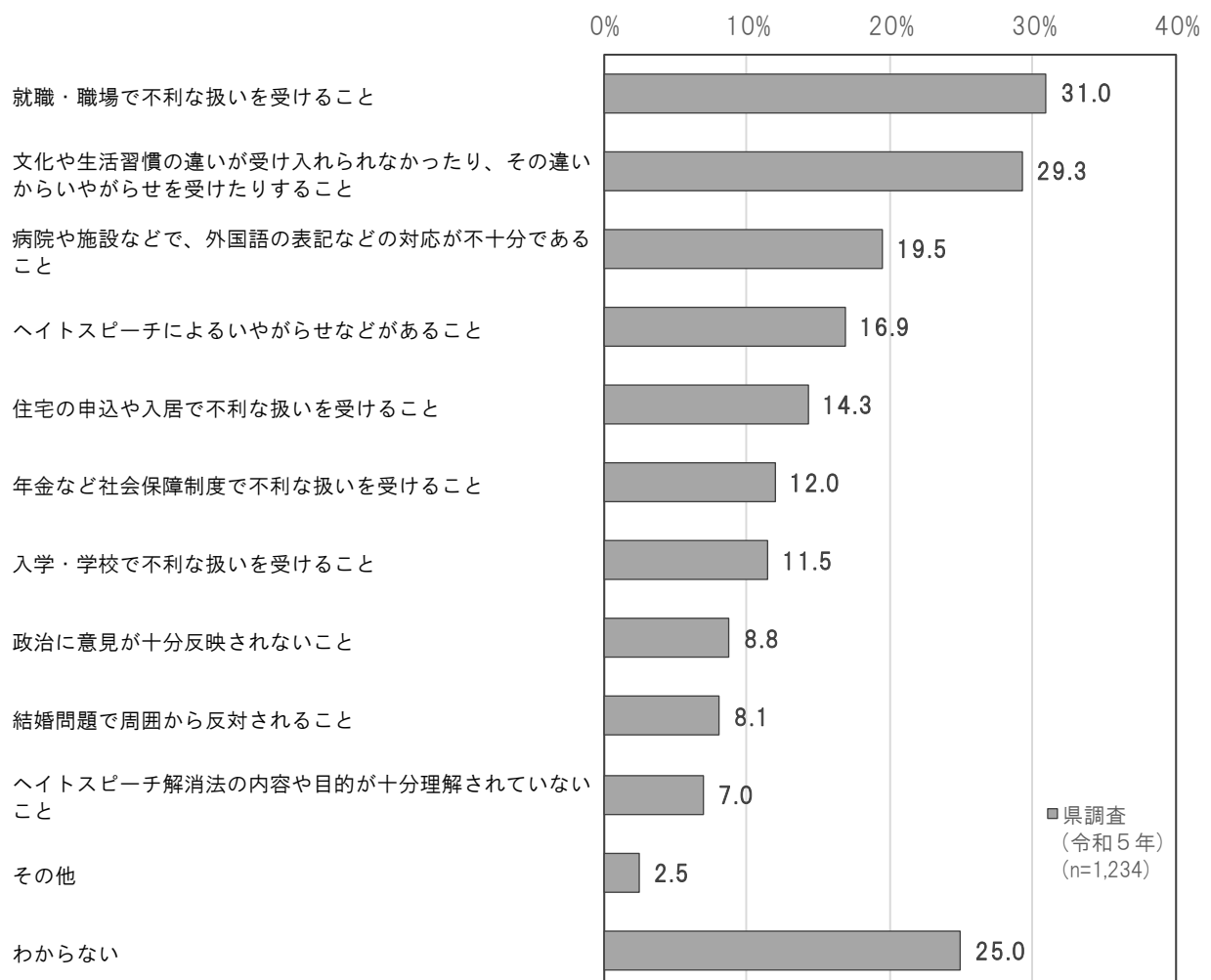
単位 (%)

区分		調査数（件）	学校での対応や支援が不十分であること	就職や職場で不当な扱いを受けること	住宅の申し込みや入居で不当な扱いを受けること	年金など社会保障制度で不当な扱いを受けること	文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること	病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること	投票権が制限されるなど、政治に意見が十分反映されないこと	本名を名乗りにくく、通称名を使うこと	ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること	自治会等地域社会に受け入れられないこと	日本語がよくわからないことを理由に無視されること	知らない人からじろじろ見られること	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	16.0	21.9	13.1	11.0	30.9	18.8	7.3	6.5	20.5	4.5	15.3	4.7	2.9	9.6	13.5	3.1
性別	男性	372	13.4	22.0	15.6	8.3	32.8	16.9	6.5	7.0	23.1	5.1	16.7	4.6	5.1	12.6	9.7	1.9
	女性	605	18.5	22.6	12.4	12.4	30.2	20.2	7.8	6.4	20.2	4.1	15.0	5.1	1.7	7.3	15.5	2.6
	その他	3	33.3	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	-	-	-
	無回答	83	8.4	15.7	6.0	13.3	25.3	16.9	8.4	4.8	10.8	4.8	9.6	2.4	2.4	13.3	16.9	12.0
年代	18～29歳	84	22.6	16.7	11.9	6.0	31.0	9.5	8.3	3.6	21.4	6.0	25.0	6.0	-	15.5	7.1	-
	30～39歳	149	20.8	28.2	15.4	9.4	32.9	15.4	5.4	6.0	22.1	6.0	16.8	6.0	1.3	14.1	6.7	-
	40～49歳	161	18.0	21.1	17.4	9.9	29.2	16.8	6.8	6.8	23.6	2.5	13.7	4.3	4.3	11.2	12.4	0.6
	50～59歳	170	16.5	22.4	14.1	10.0	30.6	18.2	8.2	7.6	14.7	5.3	15.9	4.7	2.9	8.2	15.9	1.8
	60～69歳	185	16.2	23.2	14.1	14.6	36.2	27.6	8.1	7.0	20.0	3.2	7.6	3.8	4.3	7.6	10.8	3.2
	70歳以上	278	11.5	20.5	9.0	11.5	27.7	18.7	7.2	6.5	21.2	4.7	17.3	4.7	3.2	7.2	20.5	6.1
	無回答	36	2.8	13.9	8.3	16.7	27.8	22.2	8.3	5.6	22.2	5.6	16.7	2.8	-	5.6	11.1	16.7

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。

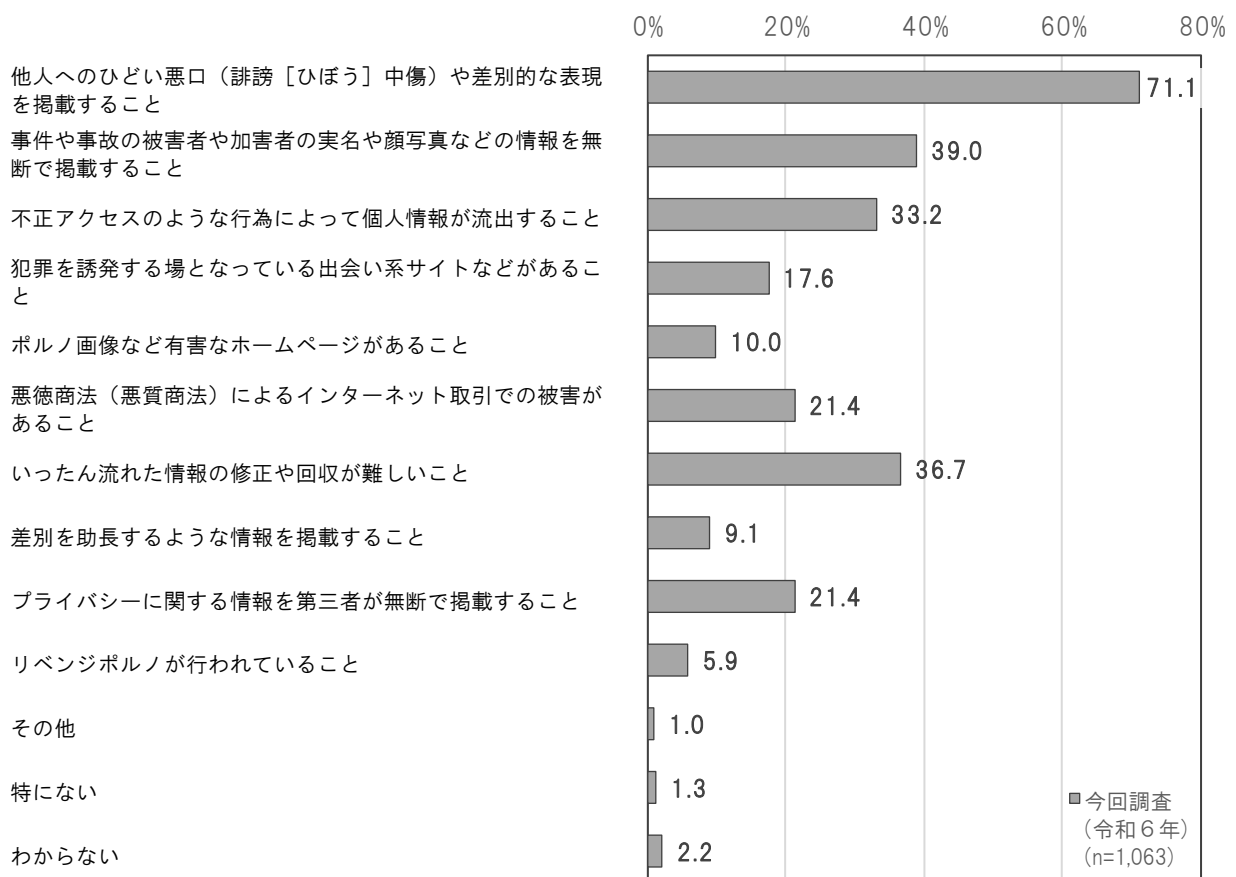


[12] インターネットを悪用した人権侵害について

問 12

インターネットを悪用した人権侵害について、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

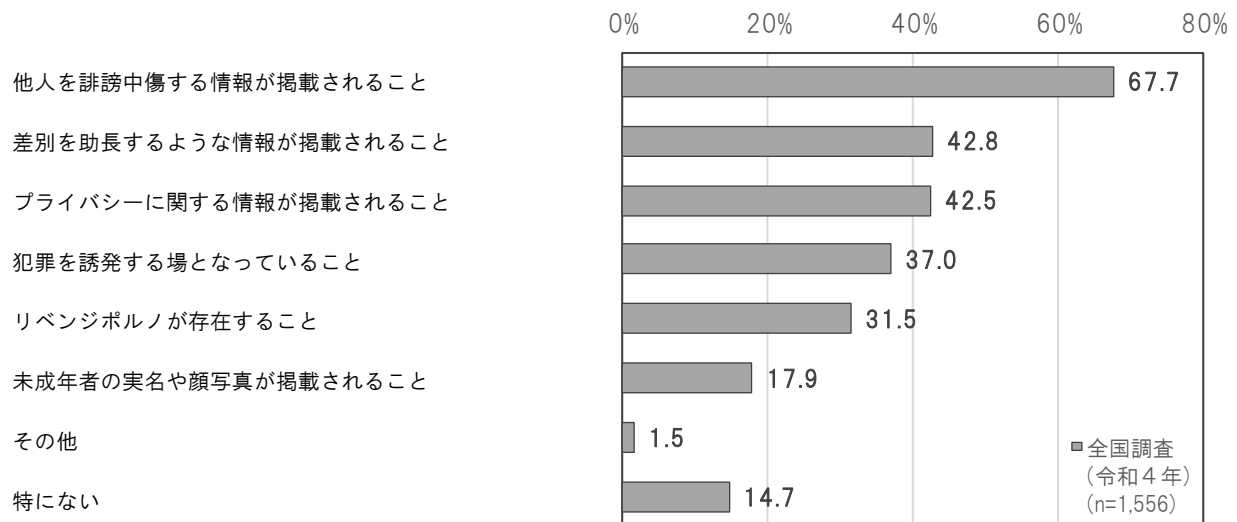
- ・インターネットを悪用した人権侵害については、「他人へのひどい悪口（誹謗〔ひぼう〕中傷）や差別的な表現を掲載すること」が 71.1%と7割以上を占め最も高く、次いで「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」（39.0%）、「いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと」（36.7%）となっています。
- ・性別にみると、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」は男性が女性より高く、「ポルノ画像など有害なホームページがあること」、「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」は女性が男性より高くなっています。
- ・年代別にみると、全ての年代で「他人へのひどい悪口（誹謗〔ひぼう〕中傷）や差別的な表現を掲載すること」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、70 歳以上では「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が高くなっています。



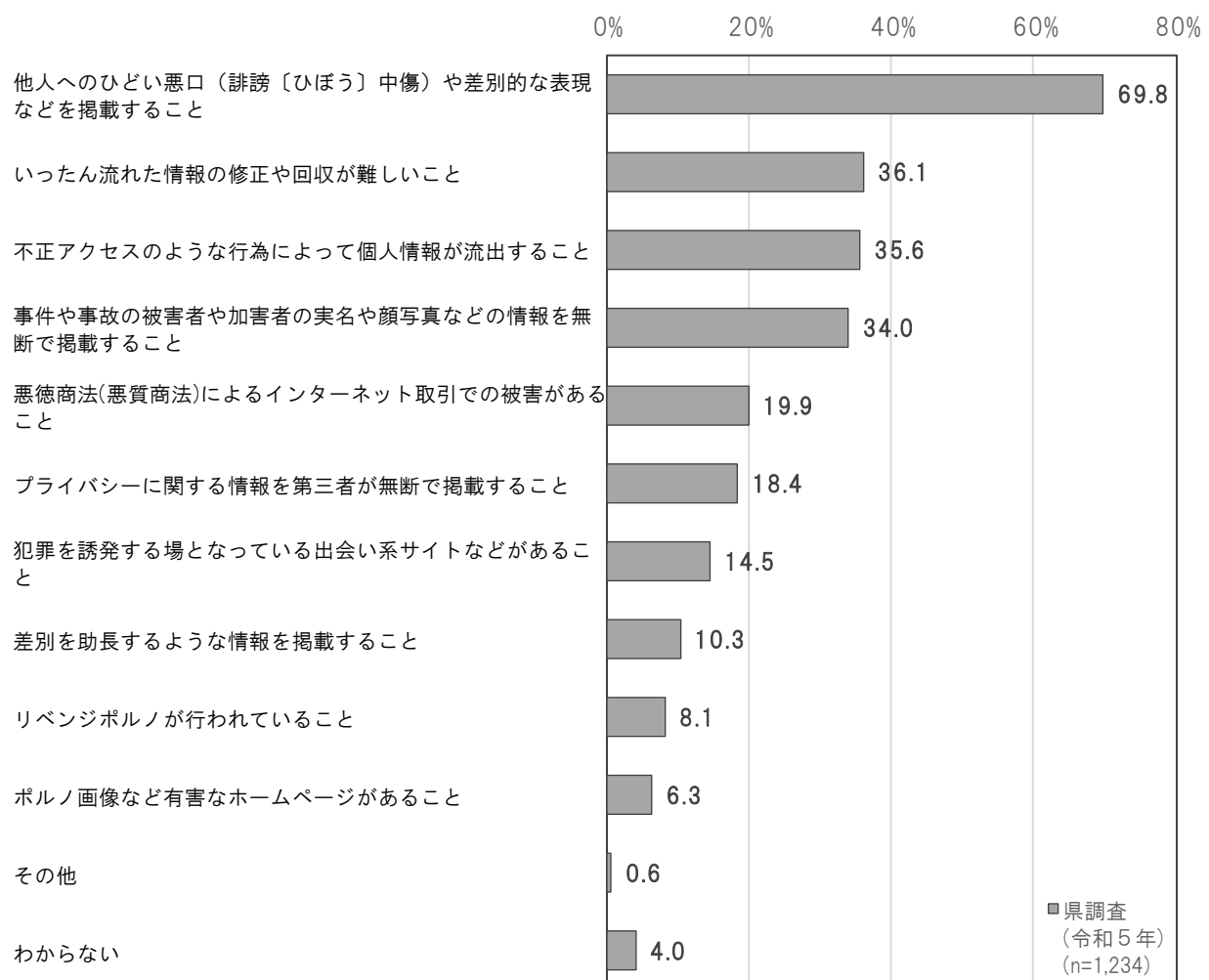
単位 (%)

区分		調査数（件）	他人へのひどい悪口（誹謗「ひぼう」中傷）や差別的な表現を掲載すること	事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること	不正アクセスのような行為によって個人情報が出ること	犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること	ポルノ画像など有害なホームページがあること	悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること	いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと	差別を助長するような情報を掲載すること	プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること	リベンジポルノが行われていること	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	71.1	39.0	33.2	17.6	10.0	21.4	36.7	9.1	21.4	5.9	1.0	1.3	2.2	2.8
性別	男性	372	72.6	33.3	33.1	23.9	4.0	23.9	37.6	11.0	19.6	4.6	2.4	1.6	2.2	1.3
	女性	605	71.4	43.1	33.6	13.6	14.2	20.2	36.9	7.9	23.1	6.9	0.2	1.0	2.3	2.8
	その他	3	66.7	66.7	-	-	-	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-
	無回答	83	62.7	33.7	32.5	19.3	6.0	19.3	31.3	8.4	16.9	4.8	1.2	2.4	1.2	9.6
年代	18～29歳	84	72.6	41.7	40.5	7.1	14.3	19.0	36.9	11.9	27.4	10.7	-	-	-	-
	30～39歳	149	76.5	47.7	28.2	16.1	14.8	16.8	34.9	9.4	24.8	4.7	0.7	1.3	0.7	-
	40～49歳	161	77.6	46.0	29.8	14.9	12.4	15.5	43.5	9.9	23.0	6.2	1.9	-	1.9	0.6
	50～59歳	170	77.6	47.6	38.8	12.4	7.6	22.4	37.6	7.6	17.6	5.3	1.2	-	0.6	1.8
	60～69歳	185	71.4	36.2	38.4	18.4	6.5	24.3	35.1	7.6	18.9	5.9	0.5	1.1	2.2	3.8
	70歳以上	278	61.9	28.1	29.1	25.9	9.7	25.9	34.2	9.7	21.2	5.4	1.1	3.6	5.0	4.7
	無回答	36	55.6	25.0	30.6	16.7	-	19.4	36.1	8.3	19.4	5.6	2.8	-	-	16.7

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。



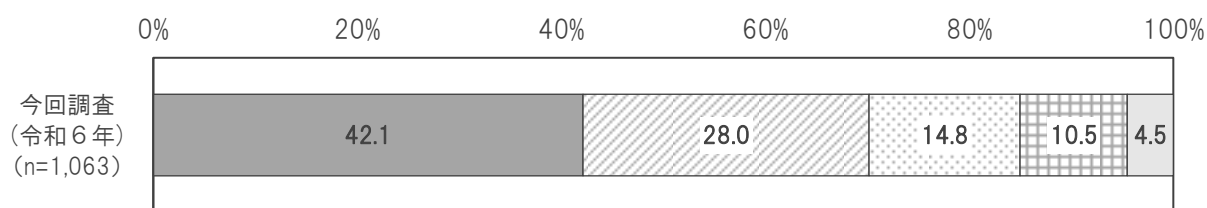
2. ご自身の考え方・行動、体験について

〔1〕人権・差別の考え方について、ご自身のお考えに最も近いもの

問 13	次のア～ケそれぞれについて、①～④のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。
------	--

ア 「男は仕事、女は家庭」という考えに反対である

- ・「男は仕事、女は家庭」に反対という考え方については、「そう思う」が 42.1%と4割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は 70.1%と7割以上となっています。また、『そう思わない』（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）は 25.3%と2割以上となっています。
- ・性別にみると、「そう思う」が女性では 46.6%と、男性（38.7%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、18～39 歳では「そう思う」が高くなっています。

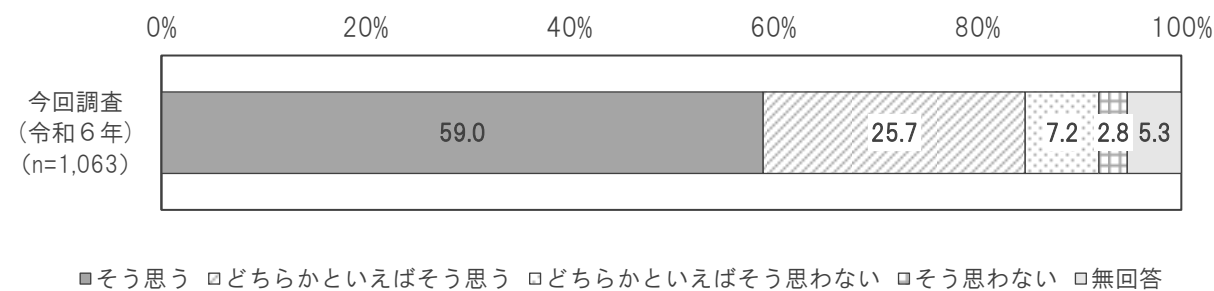


■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう 思う	ばど そち うら 思か うと いえ	ばど そち うら 思か わと ない いえ	そう 思わ ない
全体		1063	42.1	28.0	14.8	10.5
性別	男性	372	38.7	30.9	15.1	12.4
	女性	605	46.6	26.6	14.7	8.4
	その他	3	66.7	33.3	-	-
	無回答	83	24.1	25.3	14.5	18.1
年代	18～29歳	84	50.0	25.0	10.7	14.3
	30～39歳	149	47.7	27.5	12.8	10.1
	40～49歳	161	44.7	24.8	16.1	13.0
	50～59歳	170	35.3	38.8	17.1	5.9
	60～69歳	185	40.0	29.7	15.1	9.7
	70歳以上	278	42.8	24.5	15.1	10.4
	無回答	36	27.8	19.4	11.1	19.4

イ 昇格・昇給の格差など職場での男女の待遇に違いがあるのは問題である

- 「昇格・昇給の格差など職場での男女の待遇に違いがあるのは問題である」という考え方については、「そう思う」が59.0%と6割近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は84.7%と、多くの人が昇格・昇給の格差など職場での男女の待遇に違いがあるのは問題であると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「そう思う」が女性では62.8%と、男性（56.2%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が低くなっています。



単位 (%)							
区分		調査数 (件)	そう 思う	ばど ちら か と い え	ばど ちら か と い え	そう 思 わ な い	無 回 答
全体		1063	59.0	25.7	7.2	2.8	5.3
性別	男性	372	56.2	27.4	8.3	4.6	3.5
	女性	605	62.8	24.5	6.4	1.8	4.5
	その他	3	66.7	33.3	-	-	-
	無回答	83	43.4	26.5	8.4	2.4	19.3
年代	18～29歳	84	77.4	14.3	6.0	2.4	-
	30～39歳	149	65.1	24.2	8.7	0.7	1.3
	40～49歳	161	62.1	26.7	8.7	1.9	0.6
	50～59歳	170	63.5	28.2	4.7	1.8	1.8
	60～69歳	185	58.4	25.4	8.1	2.7	5.4
	70歳以上	278	48.9	28.1	6.8	5.4	10.8
	無回答	36	36.1	25.0	8.3	2.8	27.8

ウ 人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである

- ・「人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである」という考え方については、「そう思う」が76.1%と7割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は92.9%と、ほとんどの人が人権は人が暮らしていく上で大切なものだと思っている結果となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「どちらかといえばそう思う」が低くなっています。

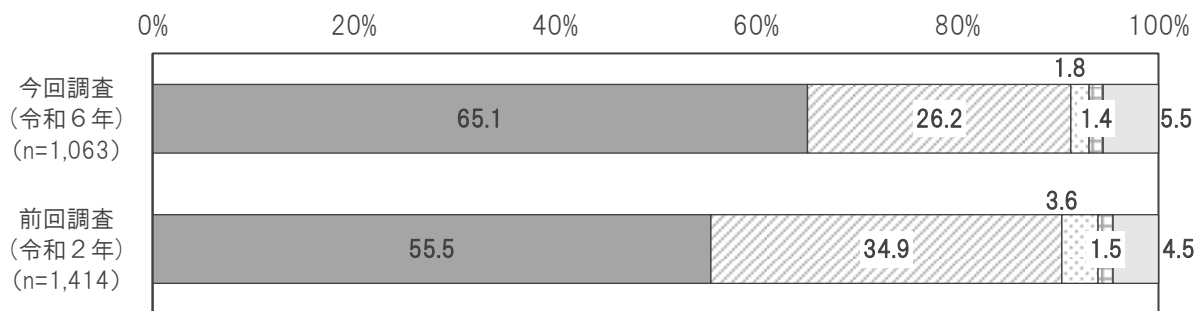


■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		1063	76.1	16.8	1.1	1.3
性別	男性	372	77.4	16.1	1.3	2.2
	女性	605	77.0	17.0	1.0	1.0
	その他	3	100.0	-	-	-
	無回答	83	62.7	19.3	1.2	-
年代	18～29歳	84	77.4	19.0	2.4	1.2
	30～39歳	149	73.2	23.5	2.0	0.7
	40～49歳	161	74.5	22.4	0.6	1.9
	50～59歳	170	77.6	18.8	1.2	0.6
	60～69歳	185	78.4	14.6	1.1	1.1
	70歳以上	278	79.1	9.0	0.4	2.2
	無回答	36	50.0	22.2	2.8	-

エ 差別をすることは、人間として恥すべき行為である

- 「差別をすることは、人間として恥すべき行為である」という考え方については、「そう思う」が65.1%と6割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は91.3%と、ほとんどの人が差別をすることは、人間として恥すべき行為だと思っている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「そう思う」が9.6ポイント高く、「どちらかといえばそう思う」が8.7ポイント低くなっておりま
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、40～49歳では「そう思う」が低くなっています。



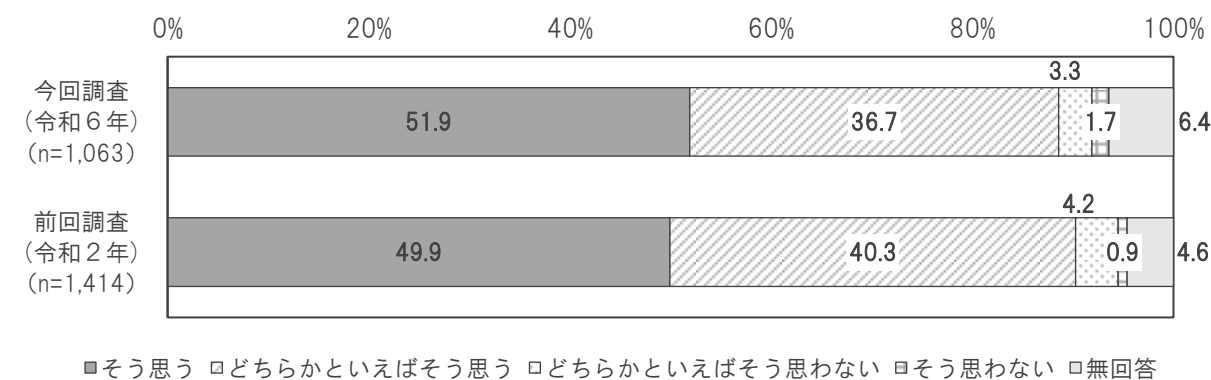
■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		1063	65.1	26.2	1.8	1.4
性別	男性	372	64.0	27.2	2.4	4.0
	女性	605	67.1	26.3	1.7	4.3
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	55.4	22.9	-	1.2
年代	18～29歳	84	70.2	26.2	3.6	-
	30～39歳	149	61.7	32.9	2.0	2.0
	40～49歳	161	54.7	39.8	3.1	0.6
	50～59歳	170	63.5	31.2	1.2	0.6
	60～69歳	185	69.7	21.6	1.6	5.4
	70歳以上	278	70.9	16.2	0.7	2.2
	無回答	36	52.8	16.7	2.8	-

オ 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある

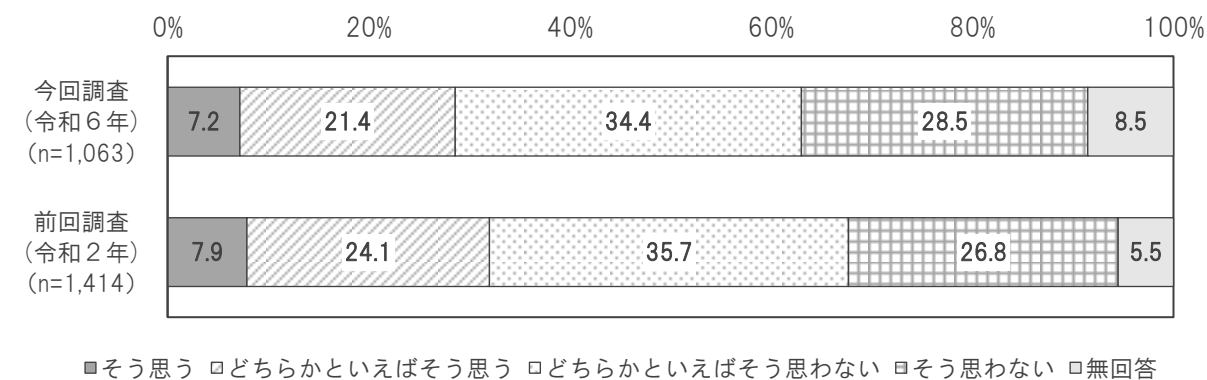
- 「社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」という考え方については、「そう思う」が51.9%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は88.6%と、ほとんどの人が社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要があると思っている結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「そう思う」が高くなる傾向がみられます。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		1063	51.9	36.7	3.3	1.7
性別	男性	372	52.7	35.8	4.3	3.2
	女性	605	52.7	38.2	2.3	0.8
	その他	3	33.3	66.7	-	-
	無回答	83	43.4	28.9	6.0	1.2
年代	18～29歳	84	35.7	56.0	4.8	2.4
	30～39歳	149	36.2	53.7	3.4	2.0
	40～49歳	161	44.7	44.1	4.3	1.9
	50～59歳	170	51.2	41.2	3.5	0.6
	60～69歳	185	59.5	30.8	2.7	2.2
	70歳以上	278	66.2	20.9	1.8	1.4
	無回答	36	41.7	19.4	8.3	2.8

カ 差別の原因は、差別された人の側にもある

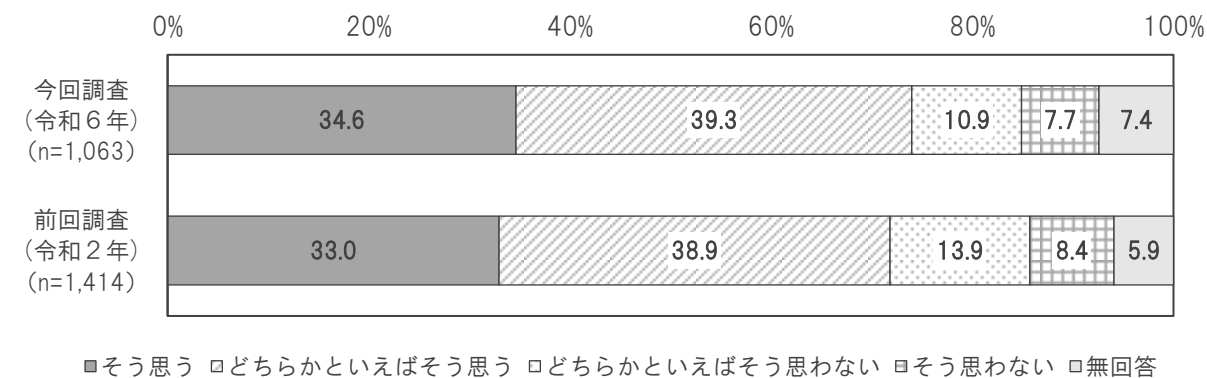
- 「差別の原因は、差別された人の側にもある」という考え方については、「どちらかといえばそう思わない」が34.4%と3割以上を占め最も高くなっており、「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は62.9%と6割以上の人が、差別の原因は、差別された人の側にもあるとは思わない結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が女性で67.7%と、男性（57.8%）より9.9ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が低くなっており、「そう思う」が高くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		1063	7.2	21.4	34.4	28.5
性別	男性	372	12.1	23.7	32.3	25.5
	女性	605	4.6	20.2	38.3	29.4
	その他	3	-	33.3	33.3	33.3
	無回答	83	4.8	19.3	15.7	34.9
年代	18～29歳	84	2.4	19.0	41.7	32.1
	30～39歳	149	8.7	16.1	39.6	27.5
	40～49歳	161	6.2	18.6	42.2	26.7
	50～59歳	170	3.5	22.9	42.4	24.7
	60～69歳	185	6.5	19.5	33.0	34.6
	70歳以上	278	12.2	27.0	22.7	27.3
	無回答	36	-	19.4	22.2	27.8

キ 「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる

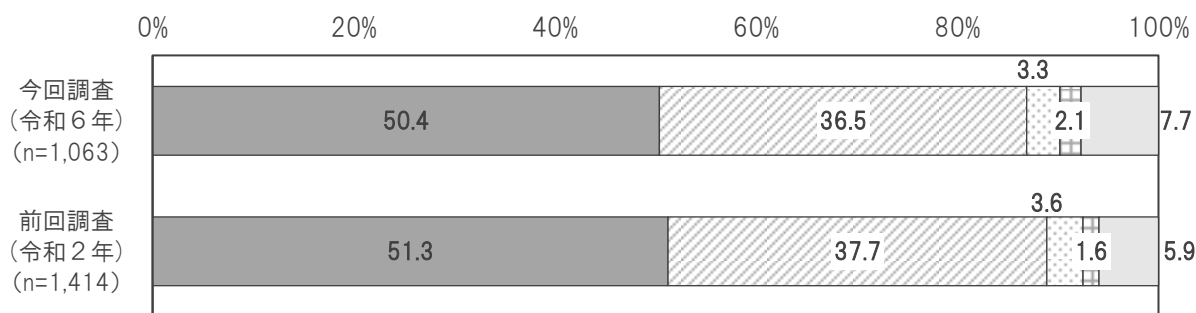
- 「「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が 39.3%と4割近くを占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は 73.9%と7割以上の人が、「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながると思っている結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29 歳では『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が高くなっており、70 歳以上では低くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		1063	34.6	39.3	10.9	7.7
性別	男性	372	37.6	37.4	12.6	7.8
	女性	605	34.5	41.0	10.6	7.1
	その他	3	66.7	33.3	-	-
	無回答	83	20.5	36.1	6.0	12.0
年代	18～29歳	84	40.5	45.2	8.3	4.8
	30～39歳	149	30.2	44.3	9.4	12.1
	40～49歳	161	39.8	37.9	12.4	5.6
	50～59歳	170	33.5	45.3	12.4	5.3
	60～69歳	185	36.2	38.4	13.5	5.9
	70歳以上	278	34.5	33.5	8.6	9.7
	無回答	36	13.9	33.3	13.9	11.1

ク 人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない

- ・「人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない」という考え方については、「そう思う」が 50.4%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は 86.9%と8割以上の人が、人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくないと思っている結果となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別にみると、「そう思う」は男性が女性より高く、「どちらかといえばそう思う」は女性が男性より高くなっています。

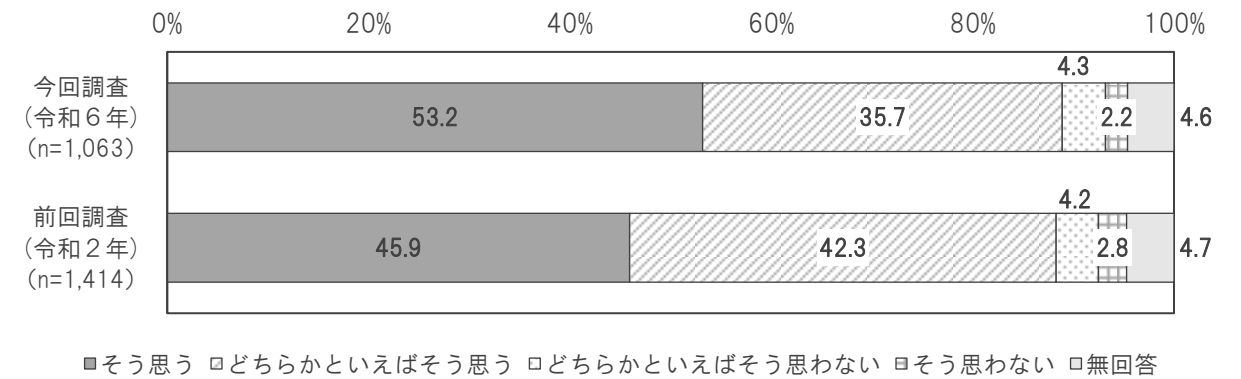


■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分	調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
全体	1063	50.4	36.5	3.3	2.1	7.7
性別	男性	372	61.6	29.6	2.2	4.0
	女性	605	45.3	41.5	3.6	7.9
	その他	3	33.3	66.7	-	-
	無回答	83	38.6	30.1	6.0	22.9
年代	18～29歳	84	61.9	32.1	4.8	1.2
	30～39歳	149	55.0	36.2	1.3	6.0
	40～49歳	161	52.8	36.6	2.5	5.6
	50～59歳	170	42.9	46.5	4.1	4.7
	60～69歳	185	51.4	35.7	4.9	5.9
	70歳以上	278	50.4	32.7	2.2	11.9
	無回答	36	25.0	33.3	8.3	30.6

ケ いかなる差別も完全になくすことはむずかしい

- 「いかなる差別も完全になくすことはむずかしい」という考え方については、「そう思う」が53.2%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は88.9%と9割近くの人が、いかなる差別も完全になくすことはむずかしいと思っている結果となっています。
- 性別にみると、「どちらかといえばそう思う」が女性では37.7%と、男性（32.3%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が低くなっています。

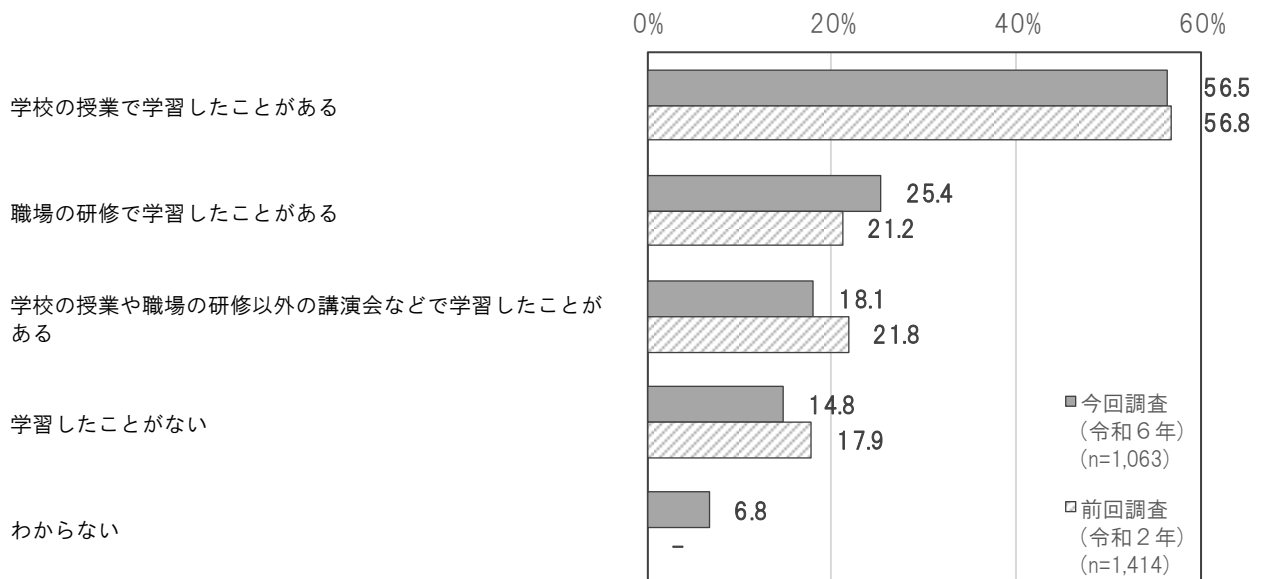


		単位（％）					
区分		調査数 （件）	そう 思う	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	そう 思 わ な い	無 回 答
全体		1063	53.2	35.7	4.3	2.2	4.6
性別	男性	372	57.3	32.3	4.3	3.0	3.2
	女性	605	52.4	37.7	5.0	1.5	3.5
	その他	3	100.0	－	－	－	－
	無回答	83	38.6	38.6	－	3.6	19.3
年代	18～29歳	84	66.7	27.4	4.8	1.2	－
	30～39歳	149	59.7	32.9	4.0	1.3	2.0
	40～49歳	161	62.1	32.9	2.5	1.9	0.6
	50～59歳	170	53.5	40.0	4.1	0.6	1.8
	60～69歳	185	47.0	41.6	4.9	1.6	4.9
	70歳以上	278	46.0	35.6	5.4	4.7	8.3
	無回答	36	38.9	30.6	2.8	－	27.8

〔2〕人権や差別問題における学習経験とその感想について

問 14	あなたはこれまでに、学校の授業や職場の研修、その他の講演会などにおいて、人権や差別問題について学習したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	---

- 人権や差別問題における学習経験については、「学校の授業で学習したことがある」が56.5%と半数以上を占め最も高くなっています。また、「学習したことがない」は14.8%と1割以上の人
- は人権や差別問題における学習経験がない結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「学校の授業で学習したことがある」や「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」は女性が男性より高くなっており、「職場の研修で学習したことがある」や「学習したことがない」は男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、70 歳以上では「学習したことがない」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、「学校の授業で学習したことがある」が70 歳以上では低く、18～29 歳では高くなっています。また、年代が上がるにつれ「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」が高くなる傾向がみられます。



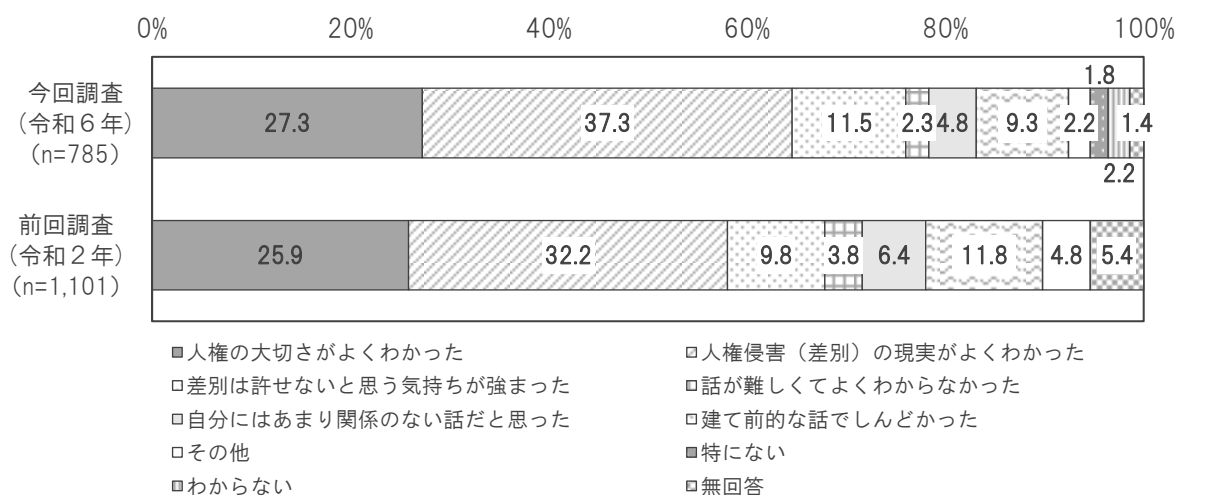
※今回調査で、「わからない」が追加

単位 (%)

区分		調査数 (件)	ある 学校の 授業で 学習し たこと が	ある 職場の 研修で 学習し たこと が	の講 演会 など で学 習し たこ と外 が	学 習し たこ とが ない	わ か ら な い	無 回 答
全体		1063	56.5	25.4	18.1	14.8	6.8	4.6
性別	男性	372	49.7	32.5	14.5	20.2	5.4	2.7
	女性	605	62.1	22.0	21.2	12.1	6.6	4.6
	その他	3	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-
	無回答	83	45.8	16.9	10.8	10.8	13.3	13.3
年代	18～29歳	84	90.5	21.4	6.0	4.8	3.6	-
	30～39歳	149	70.5	30.9	8.1	10.7	6.7	2.0
	40～49歳	161	77.0	24.2	17.4	7.5	5.6	0.6
	50～59歳	170	75.9	25.9	18.8	5.3	3.5	2.4
	60～69歳	185	57.8	35.7	23.2	11.9	4.3	6.5
	70歳以上	278	16.5	18.0	24.1	32.4	11.2	8.3
	無回答	36	38.9	19.4	13.9	11.1	13.9	16.7

問 15	問 14 で「学校の授業で学習したことがある」、「職場の研修で学習したことがある」、「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」のいずれかを回答された方にお聞きします。その学習により、どのような感想を持ちましたか。ご自身のお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。
------	--

- ・人権学習の感想については、「人権侵害（差別）の現実がよくわかった」が37.3%と3割以上を占め最も高く、次いで「人権の大切さがよくわかった」（27.3%）、「差別は許せないと思う気持ちが強まった」（11.5%）となっています。
- ・前回調査と比較すると、「人権侵害（差別）の現実がよくわかった」が5.1ポイント高くなっています。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「差別は許せないと思う気持ちが強まった」が高くなっています。また、他の年代に比べ、18～29歳では「その他」が高くなっています。



※今回調査で「特にない」、「わからない」が追加

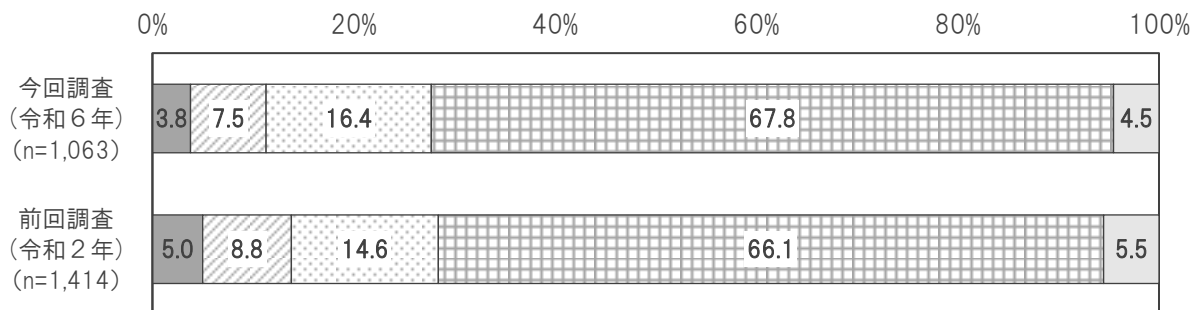
		単位 (%)										
区分		調査数 (件)	人権の大切さがよくわかった	人権侵害（差別）の現実がよくわかった	差別は許せないと思う気持ちが強まった	話は難しくよくわからなかった	自分にはあまり関係のない話だと思った	建て前的な話でしんどかった	その他	特にない	わからない	無回答
全体		785	27.3	37.3	11.5	2.3	4.8	9.3	2.2	1.8	2.2	1.4
性別	男性	267	28.8	35.2	9.0	1.9	4.1	10.5	4.1	3.0	1.5	1.9
	女性	464	26.7	39.4	13.1	1.9	5.6	7.5	1.3	1.1	2.4	0.9
	その他	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	52	23.1	28.8	9.6	7.7	1.9	19.2	-	1.9	3.8	3.8
年代	18～29歳	77	23.4	41.6	10.4	-	6.5	7.8	7.8	1.3	-	1.3
	30～39歳	120	26.7	45.0	10.0	0.8	3.3	9.2	0.8	1.7	2.5	-
	40～49歳	139	23.7	38.1	10.1	3.6	5.8	10.8	2.2	1.4	3.6	0.7
	50～59歳	151	31.8	35.8	9.9	4.0	6.0	6.6	2.0	2.6	0.7	0.7
	60～69歳	143	31.5	39.2	8.4	-	3.5	9.8	2.8	0.7	1.4	2.8
	70歳以上	134	26.9	28.4	18.7	2.2	5.2	9.7	-	3.0	3.0	3.0
	無回答	21	9.5	28.6	19.0	14.3	-	19.0	-	-	9.5	-

〔3〕市立厚生館の認知・事業内容の認知と厚生館についての考え

問 16	市立厚生館についてお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
------	---

ア 「市立厚生館」という施設について

- ・「市立厚生館」という施設についての認知度については、「知らない」が67.8%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(16.4%)となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、30歳以上では年代が上がるにつれ「知らない」が低くなる傾向がみられます。

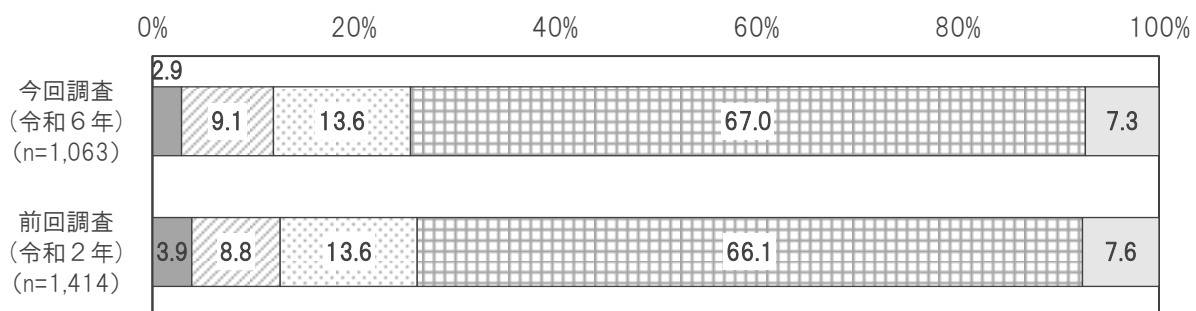


■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
全体		1063	3.8	7.5	16.4	67.8
性別	男性	372	4.3	8.6	14.2	70.7
	女性	605	3.6	7.1	18.2	66.9
	その他	3	-	-	33.3	66.7
	無回答	83	2.4	6.0	12.0	61.4
年代	18～29歳	84	-	2.4	19.0	78.6
	30～39歳	149	1.3	3.4	12.1	81.2
	40～49歳	161	2.5	10.6	14.9	70.8
	50～59歳	170	2.9	8.8	18.2	67.6
	60～69歳	185	4.3	9.7	15.7	65.9
	70歳以上	278	7.2	7.2	18.7	58.6
	無回答	36	2.8	8.3	11.1	55.6

イ 「教養文化事業」として地域住民の生活文化の向上を図るため、各種教室などを開催している

- 「教養文化事業」として地域住民の生活文化の向上を図るため、各種教室などを開催していることについての認知度については、「知らない」が67.0%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」（13.6%）となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「知らない」が低くなっています。また、30歳以上では年代が上がるにつれ「知らない」が低くなる傾向がみられます。



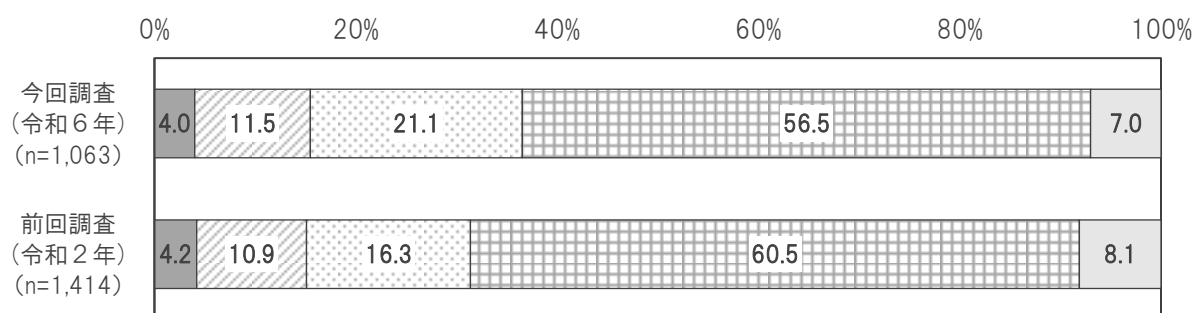
■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
全体		1063	2.9	9.1	13.6	67.0
性別	男性	372	2.4	8.1	13.7	70.4
	女性	605	3.3	10.4	13.9	65.6
	その他	3	-	-	33.3	66.7
	無回答	83	2.4	4.8	10.8	61.4
年代	18～29歳	84	-	3.6	10.7	83.3
	30～39歳	149	0.7	1.3	9.4	85.2
	40～49歳	161	3.7	11.2	9.3	73.3
	50～59歳	170	1.2	9.4	14.7	71.8
	60～69歳	185	2.2	11.9	18.4	61.6
	70歳以上	278	5.8	11.9	16.9	51.1
	無回答	36	5.6	8.3	2.8	52.8

ウ 「健康増進事業」として地域住民の健康づくりのための各種教室を開催している

- 「健康増進事業」として地域住民の健康づくりのための各種教室を開催していることについての認知度については、「知らない」が56.5%と半数以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(21.1%)となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「知らない」は男性が女性より高く、「聞いたことはある」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「知らない」が低くなっています。



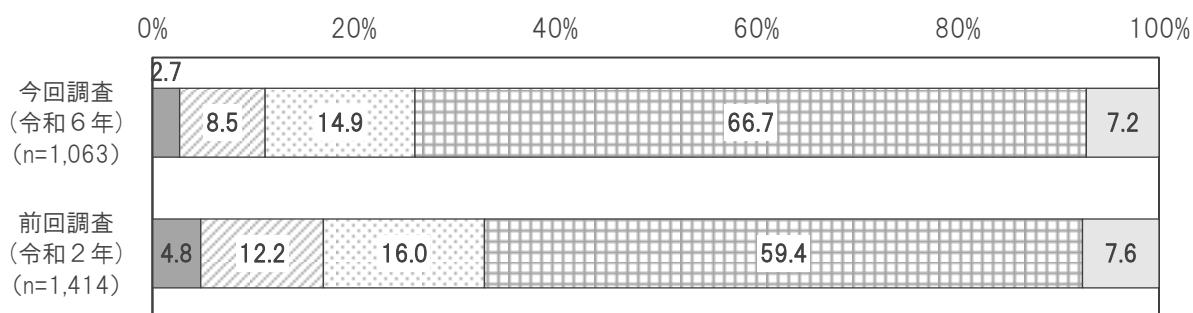
■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)					
区分		調査数 (件)	よく知 っている	少しは知 っている	聞いたこ とはある	知らない	無回 答
全体		1063	4.0	11.5	21.1	56.5	7.0
性別	男性	372	3.5	9.7	17.2	64.5	5.1
	女性	605	3.8	13.6	23.5	53.1	6.1
	その他	3	33.3	－	33.3	33.3	－
	無回答	83	6.0	4.8	20.5	47.0	21.7
年代	18～29歳	84	1.2	6.0	20.2	70.2	2.4
	30～39歳	149	－	6.7	18.1	73.2	2.0
	40～49歳	161	4.3	16.1	16.1	60.2	3.1
	50～59歳	170	1.8	10.6	23.5	61.2	2.9
	60～69歳	185	4.3	13.5	22.7	53.0	6.5
	70歳以上	278	7.6	12.2	24.1	43.2	12.9
	無回答	36	5.6	11.1	13.9	38.9	30.6

**エ 「地域交流促進事業」として、人権意識の向上を図るため、厚生館単独や、自治会などと連携して
様々な事業を行っている**

- 「地域交流促進事業」として、人権意識の向上を図るため、厚生館単独や、自治会などと連携して様々な事業を行っていることについての認知度については、「知らない」が66.7%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」（14.9%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「知らない」は7.3ポイント高くなっています。
- 性別にみると、「知らない」は男性が女性より高く、「聞いたことはある」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「知らない」が高くなる傾向がみられます。



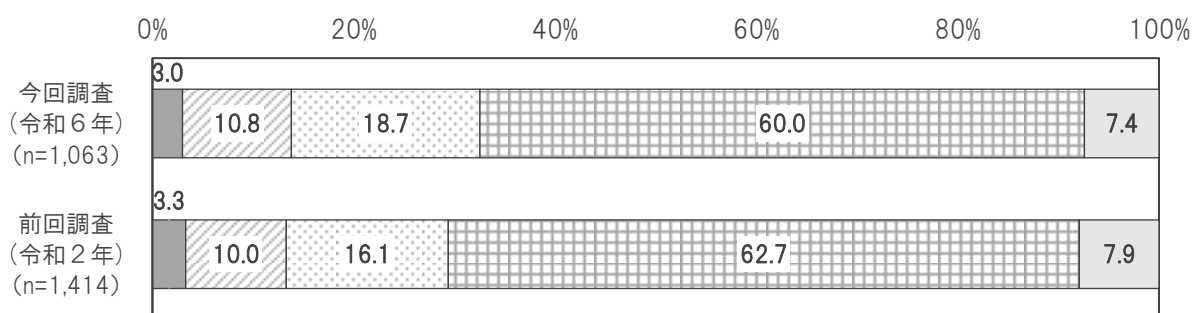
■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
全体		1063	2.7	8.5	14.9	66.7
性別	男性	372	2.2	8.9	11.3	72.0
	女性	605	3.0	8.6	18.2	64.1
	その他	3	33.3	-	33.3	33.3
	無回答	83	2.4	6.0	6.0	62.7
年代	18～29歳	84	-	1.2	9.5	86.9
	30～39歳	149	-	2.0	12.1	83.9
	40～49歳	161	4.3	11.8	8.7	72.7
	50～59歳	170	1.8	7.6	17.1	70.0
	60～69歳	185	2.7	10.8	20.5	58.9
	70歳以上	278	4.7	10.8	18.0	53.2
	無回答	36	2.8	11.1	2.8	50.0

オ 人権に関するさまざまな講演会や研修会を行っている

- ・人権に関するさまざまな講演会や研修会を行っていることについての認知度については、「知らない」が60.0%と6割を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(18.7%)となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別にみると、「知らない」が男性では65.1%と、女性(57.5%)に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「知らない」が低くなっています。

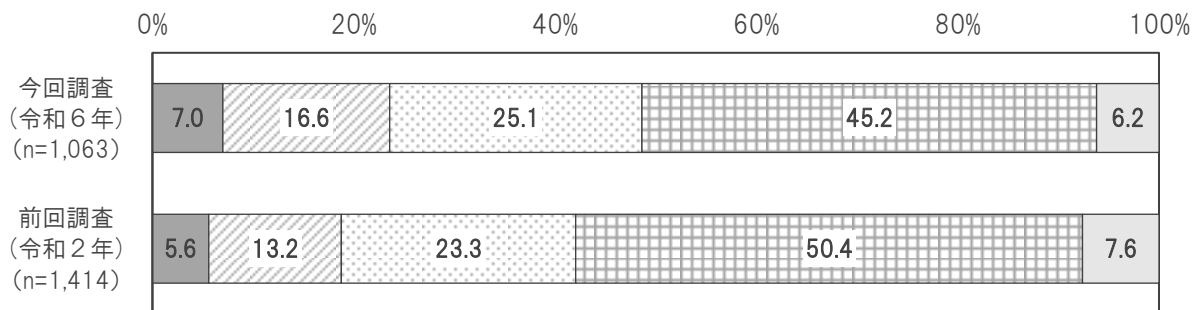


■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
全体		1063	3.0	10.8	18.7	60.0
性別	男性	372	2.7	9.7	16.7	65.1
	女性	605	3.0	12.6	20.8	57.5
	その他	3	-	-	33.3	66.7
	無回答	83	4.8	3.6	12.0	55.4
年代	18～29歳	84	1.2	7.1	13.1	75.0
	30～39歳	149	0.7	3.4	16.8	75.8
	40～49歳	161	1.9	16.1	16.8	62.1
	50～59歳	170	2.9	10.6	20.0	62.9
	60～69歳	185	2.7	12.4	21.1	57.3
	70歳以上	278	5.8	12.2	21.6	47.5
	無回答	36	2.8	8.3	8.3	47.2

カ 「こどもカフェ」や放課後の小学生の居場所を提供するなどの支援事業を行っている

- ・「こどもカフェ」や放課後の小学生の居場所を提供するなどの支援事業を行っていることについての認知度については、「知らない」が45.2%と4割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」（25.1%）となっています。
- ・前回調査と比較すると、「知らない」が5.2ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、「少しは知っている」は女性が男性より高く、「知らない」は男性が女性より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、18～29歳では「知らない」が高くなっています。



■よく知っている □少しは知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

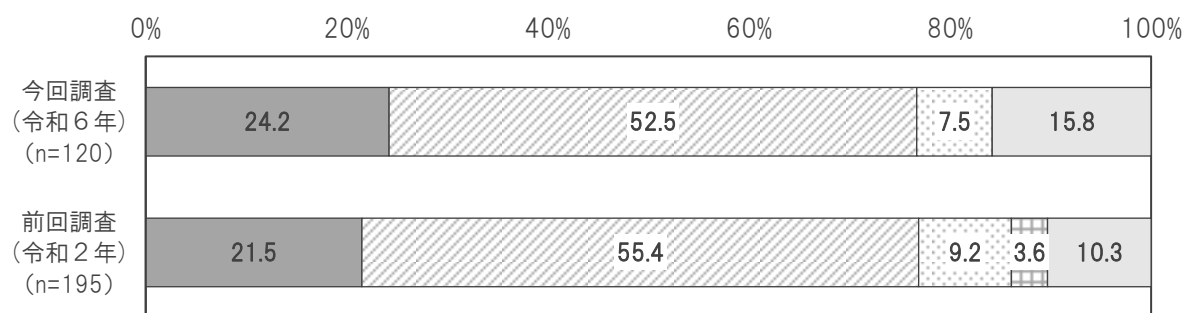
※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
全体		1063	7.0	16.6	25.1	45.2
性別	男性	372	6.5	12.6	25.0	50.8
	女性	605	7.1	19.8	25.6	42.5
	その他	3	33.3	-	33.3	33.3
	無回答	83	7.2	10.8	21.7	39.8
年代	18～29歳	84	2.4	17.9	17.9	60.7
	30～39歳	149	5.4	15.4	26.8	50.3
	40～49歳	161	9.3	21.1	25.5	42.2
	50～59歳	170	5.3	14.1	31.2	46.5
	60～69歳	185	7.0	16.8	24.3	45.4
	70歳以上	278	9.0	15.5	24.1	40.3
	無回答	36	5.6	16.7	16.7	30.6

問 17	問 16 のアで「よく知っている」、「少しは知っている」と回答された方にお聞きします。 次のア～オそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
------	--

ア 厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切である

- 厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が52.5%と半数以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は76.7%と7割以上となっています。
- 前回調査と比較すると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が5.3ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「そう思う」は女性が男性より高く、「どちらかといえばそう思う」は男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、50～59 歳では『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が低くなっています。

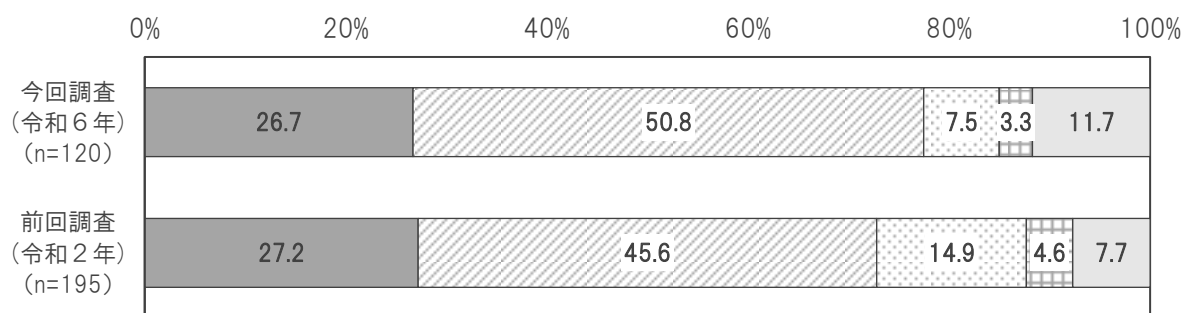


■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い
全体		120	24.2	52.5	7.5	15.8
性別	男性	48	18.8	56.3	6.3	18.8
	女性	65	30.8	47.7	9.2	12.3
	その他	0	-	-	-	-
	無回答	7	-	71.4	-	28.6
年代	18～29歳	2	-	100.0	-	-
	30～39歳	7	42.9	42.9	-	14.3
	40～49歳	21	19.0	57.1	14.3	9.5
	50～59歳	20	20.0	50.0	5.0	25.0
	60～69歳	26	19.2	61.5	11.5	7.7
	70歳以上	40	32.5	47.5	2.5	17.5
	無回答	4	-	25.0	25.0	50.0

イ 厚生館が、地域交流の場として活用されている

- ・厚生館が、地域交流の場として活用されているという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が 50.8%と半数以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は 77.5%と7割以上となっています。
- ・前回調査と比較すると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が 8.7 ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が女性で 13.9%と、男性（8.4%）より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70 歳以上では『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が低くなっています。

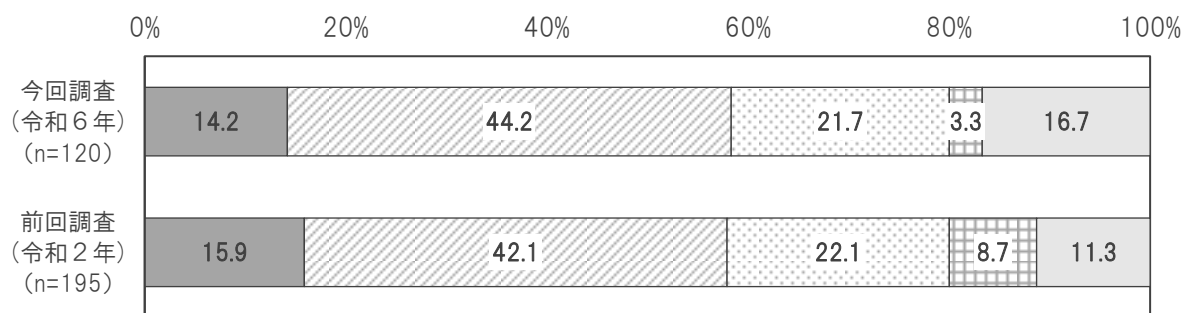


■そう思う □どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		120	26.7	50.8	7.5	3.3
性別	男性	48	27.1	54.2	4.2	4.2
	女性	65	26.2	50.8	10.8	3.1
	その他	0	-	-	-	-
	無回答	7	28.6	28.6	-	-
年代	18～29歳	2	-	100.0	-	-
	30～39歳	7	42.9	42.9	-	-
	40～49歳	21	23.8	57.1	4.8	4.8
	50～59歳	20	25.0	55.0	5.0	-
	60～69歳	26	15.4	65.4	7.7	7.7
	70歳以上	40	35.0	40.0	10.0	2.5
	無回答	4	25.0	-	25.0	-

ウ 厚生館が、人権に関する問題をはじめ、さまざまな相談の窓口となっている

- 厚生館が、人権に関する問題をはじめ、さまざまな相談の窓口となっているという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が44.2%と4割以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は58.4%と6割近くとなっています。
- 前回調査と比較すると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が5.8ポイント低くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、60～69歳では「そう思う」が低くなっています。

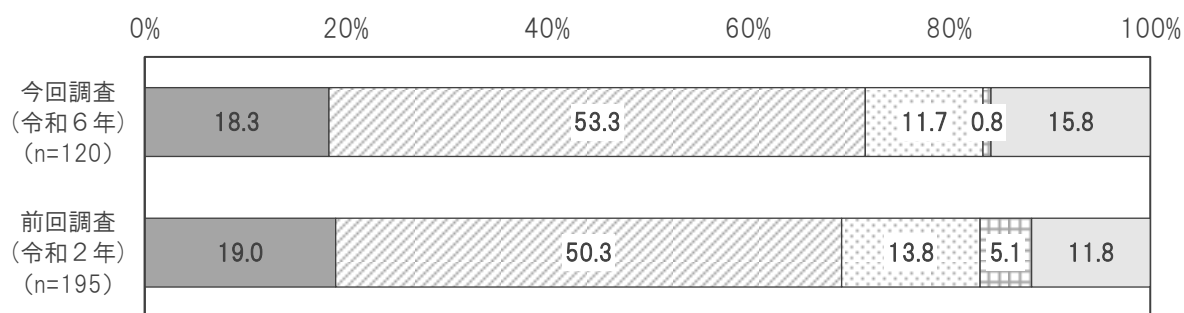


■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		120	14.2	44.2	21.7	3.3
性別	男性	48	14.6	43.8	22.9	2.1
	女性	65	13.8	44.6	21.5	4.6
	その他	0	-	-	-	-
	無回答	7	14.3	42.9	14.3	-
年代	18～29歳	2	-	-	50.0	50.0
	30～39歳	7	14.3	42.9	28.6	-
	40～49歳	21	14.3	38.1	33.3	-
	50～59歳	20	20.0	45.0	10.0	-
	60～69歳	26	3.8	57.7	15.4	11.5
	70歳以上	40	20.0	42.5	22.5	-
	無回答	4	-	25.0	25.0	-

工 厚生館で開催する人権に関するさまざまな講演会や研修会は、適切である

- ・厚生館で開催する人権に関するさまざまな講演会や研修会は、適切であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が53.3%と半数以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は71.6%と7割以上となっています。
- ・前回調査と比較すると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が6.4ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が女性で76.9%と、男性（66.7%）に比べ高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、60～69歳では「そう思う」が低くなっています。

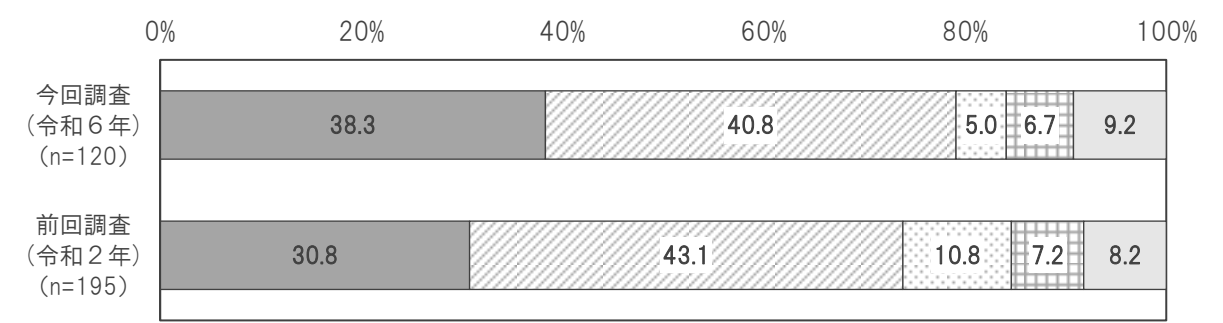


■そう思う □どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩そう思わない □無回答

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体		120	18.3	53.3	11.7	0.8
性別	男性	48	14.6	52.1	14.6	—
	女性	65	23.1	53.8	10.8	1.5
	その他	0	—	—	—	—
	無回答	7	—	57.1	—	—
年代	18～29歳	2	50.0	50.0	—	—
	30～39歳	7	28.6	28.6	14.3	—
	40～49歳	21	19.0	52.4	19.0	—
	50～59歳	20	25.0	40.0	5.0	—
	60～69歳	26	7.7	69.2	11.5	—
	70歳以上	40	20.0	57.5	10.0	2.5
	無回答	4	—	25.0	25.0	—

オ 地域にとって、厚生館は必要な施設である

- 地域にとって、厚生館は必要な施設であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が40.8%と4割以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は79.1%と8割近くとなっています。
- 前回調査と比較すると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が5.2ポイント高く、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が6.3ポイント低くなっています。
- 性別にみると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が女性で84.7%と、男性（70.9%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、50～59歳では『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が低くなっています。



☒ そう思う
 ☐ どちらかといえばそう思う
 ☐ どちらかといえばそう思わない
 ☐ そう思わない
 ☐ 無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

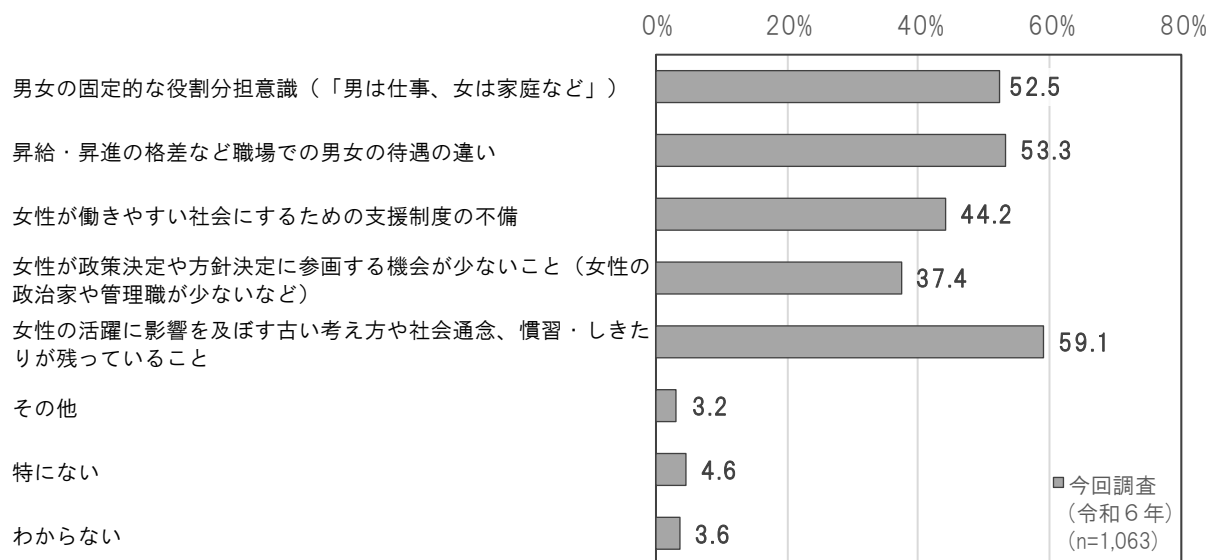
		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い
全体		120	38.3	40.8	5.0	6.7
性別	男性	48	39.6	31.3	4.2	12.5
	女性	65	38.5	46.2	6.2	3.1
	その他	0	-	-	-	-
	無回答	7	28.6	57.1	-	-
年代	18～29歳	2	100.0	-	-	-
	30～39歳	7	42.9	42.9	-	-
	40～49歳	21	33.3	52.4	4.8	-
	50～59歳	20	25.0	45.0	10.0	5.0
	60～69歳	26	30.8	50.0	-	15.4
	70歳以上	40	50.0	30.0	5.0	7.5
	無回答	4	25.0	25.0	25.0	-

3. ジェンダー平等に関する考えについて

〔1〕女性に関する人権問題について

問 18	女性に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	--

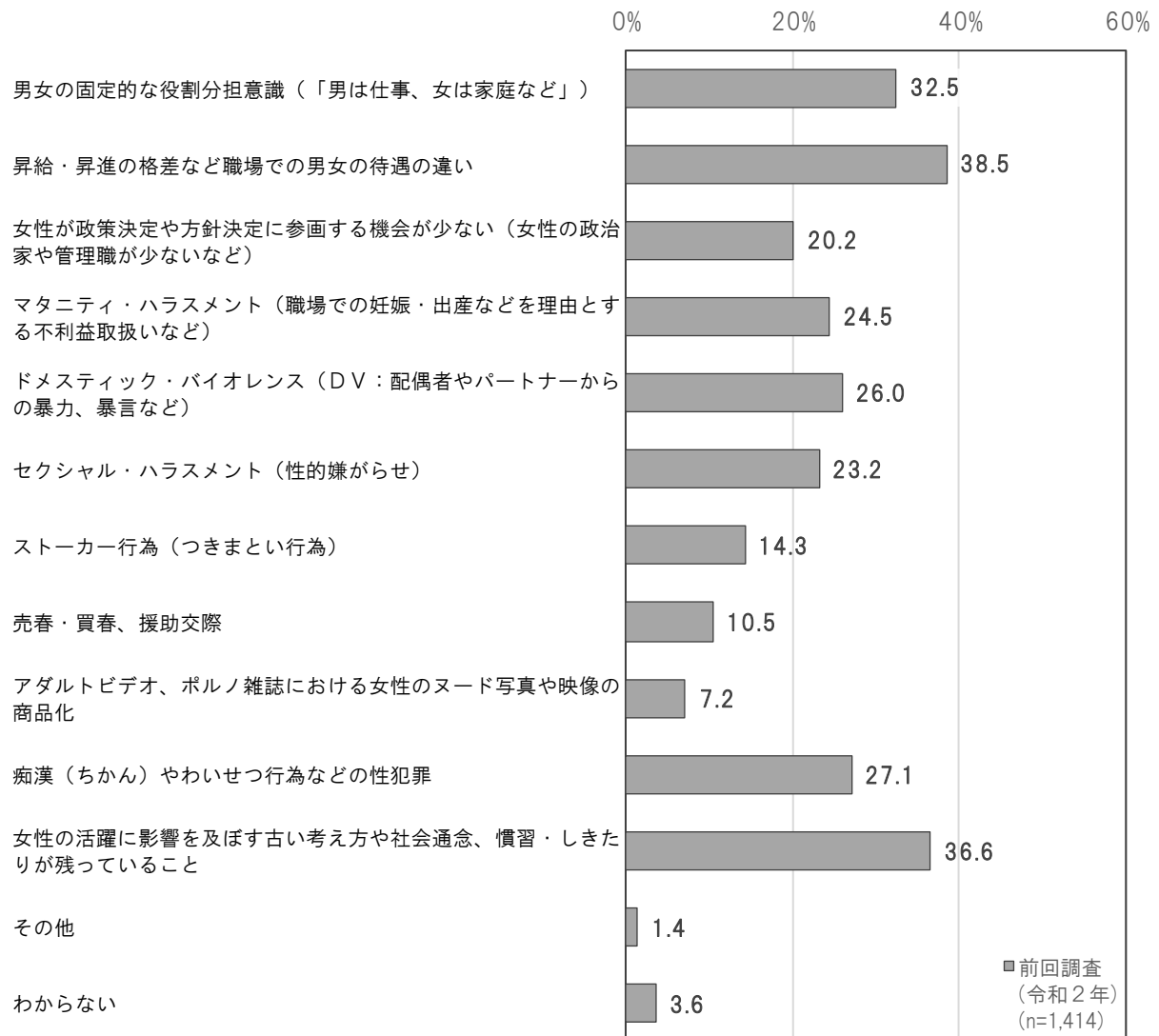
- ・女性に関する人権問題については、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が 59.1%と6割近くを占め最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い」(53.3%)、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭など」）」(52.5%)となっています。
- ・性別にみると、「女性が働きやすい社会にするための支援制度の不備」が女性で 49.8%と、男性（37.6%）より高くなっています。



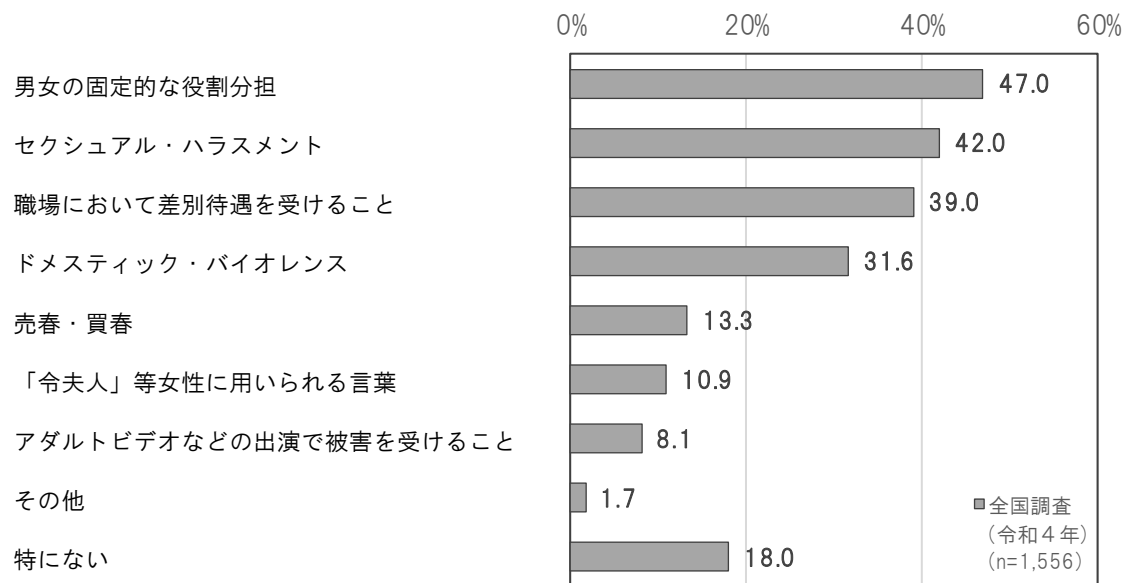
単位 (%)

区分		調査数（件）	男女の固定的な役割分担意識 （「男は仕事、女は家庭など」）	昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い	女性が働きやすい社会にするための支援制度の不備	女性が政策決定や方針決定に参画する機会が少ないこと（女性の政治家や管理職が少ないなど）	女性の方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること	その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全体		1063	52.5	53.3	44.2	37.4	59.1	3.2	4.6	3.6	2.4
性別	男性	372	51.1	51.6	37.6	37.4	57.0	5.1	6.2	3.2	1.1
	女性	605	55.0	55.5	49.8	38.3	61.7	2.1	3.6	3.3	2.0
	その他	3	66.7	100.0	33.3	66.7	100.0	－	－	－	－
	無回答	83	39.8	43.4	33.7	30.1	48.2	2.4	4.8	7.2	12.0
年代	18～29歳	84	48.8	59.5	39.3	32.1	58.3	3.6	6.0	1.2	1.2
	30～39歳	149	57.0	57.7	54.4	28.9	61.7	2.7	4.0	－	0.7
	40～49歳	161	49.7	49.1	47.2	37.9	65.2	3.7	4.3	4.3	0.6
	50～59歳	170	54.1	61.8	45.3	40.6	57.6	2.4	1.8	2.4	1.2
	60～69歳	185	57.3	53.0	49.7	41.1	63.8	5.4	4.3	3.8	1.6
	70歳以上	278	50.4	48.9	36.7	39.6	52.5	2.2	6.5	5.8	3.6
	無回答	36	38.9	36.1	25.0	33.3	55.6	2.8	5.6	8.3	22.2

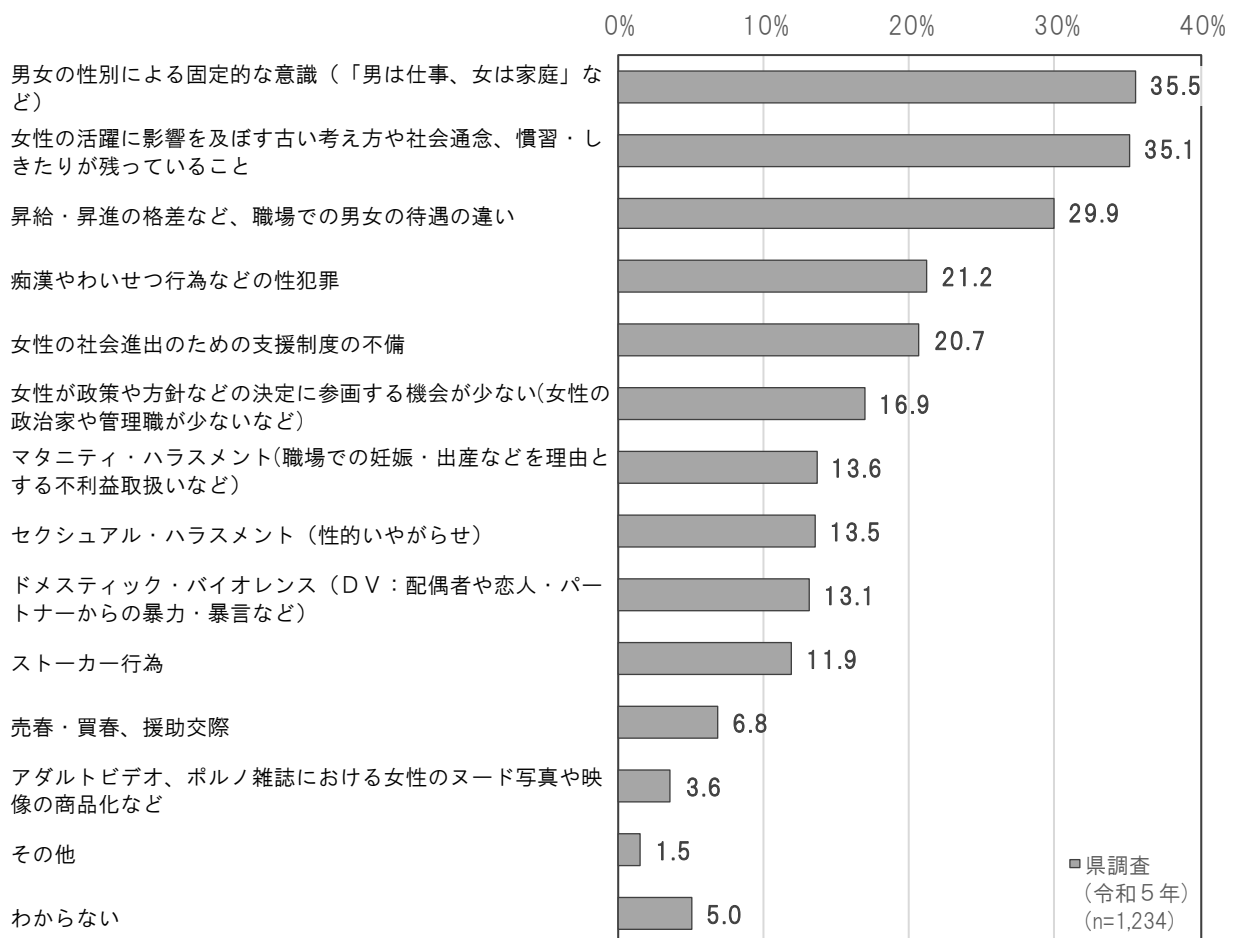
【参考※：前回調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の変更・回答数制限の変更があるため、前回との比較は行っていません。



【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



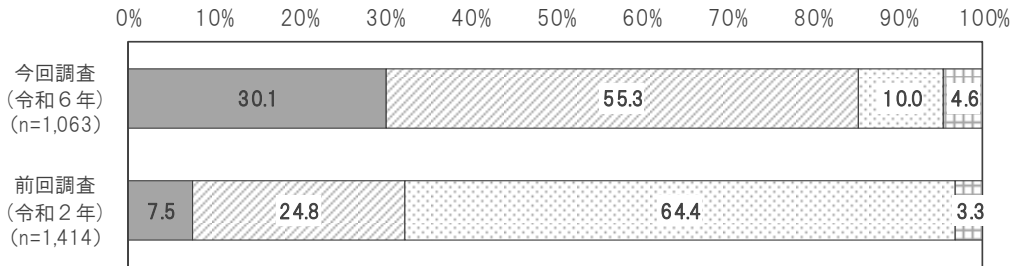
【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。



〔2〕SDGsにおいてジェンダー平等が定められていることについて

問 19	SDGsの中にジェンダー平等について定められていることを知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
------	--

- SDGsにおいてジェンダー平等が定められていることについては、「SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない」が55.3%と半数以上を占め最も高く、次いで「SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている」(30.1%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「SDGsについて、聞いたことがない」が54.4ポイント低く、「SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている」が22.6ポイント高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、60歳以上では「SDGsについて、聞いたことがない」が高くなっています。



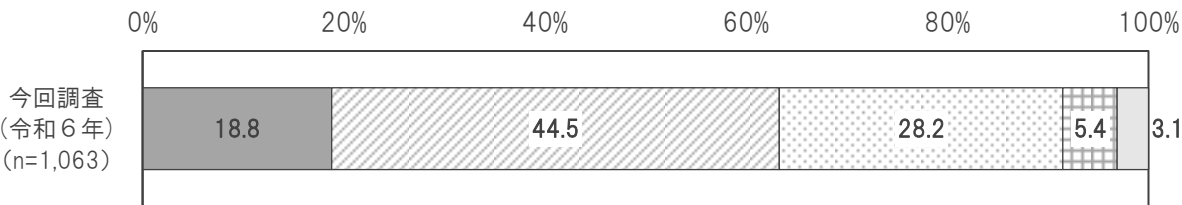
☒ SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている
☐ SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない
☐ SDGsについて、聞いたことがない
☐ 無回答

区分		調査数 (件)	めん S らダ D れー G て平 s い等 の るを 目 こ実 標 と現 の をし 1 知よ つ うに 「 てー いが ジ る定 エ	は S あ D る G が s 詳に し つ くい はて、 知 ら 聞 ない た こと	が S な D い G s に つ いて、 聞 いた た こと	無 回 答
全体		1063	30.1	55.3	10.0	4.6
性別	男性	372	32.0	54.0	8.6	5.4
	女性	605	28.9	58.2	9.8	3.1
	その他	3	100.0	-	-	-
	無回答	83	27.7	42.2	18.1	12.0
年代	18～29歳	84	54.8	39.3	4.8	1.2
	30～39歳	149	33.6	58.4	4.0	4.0
	40～49歳	161	36.0	55.3	4.3	4.3
	50～59歳	170	31.8	61.2	5.3	1.8
	60～69歳	185	31.9	53.0	11.9	3.2
	70歳以上	278	16.9	58.3	18.0	6.8
	無回答	36	16.7	41.7	22.2	19.4

【3】日常生活における男女の固定的な役割分担意識について

問 20	日常生活の中で、男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）を感じることはありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
------	--

- ・日常生活における男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）を感じることは、「時々感じる」が44.5%と4割以上を占め最も高く、次いで「あまり感じない」（28.2%）となっています。
- ・性別にみると、「よく感じる」は女性が男性より高く、「あまり感じない」は男性が女性に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、18～29 歳では「まったく感じない」が高くなっています。



☒ よく感じる
 ☐ 時々感じる
 ☐ あまり感じない
 ☐ まったく感じない
 ☐ 無回答

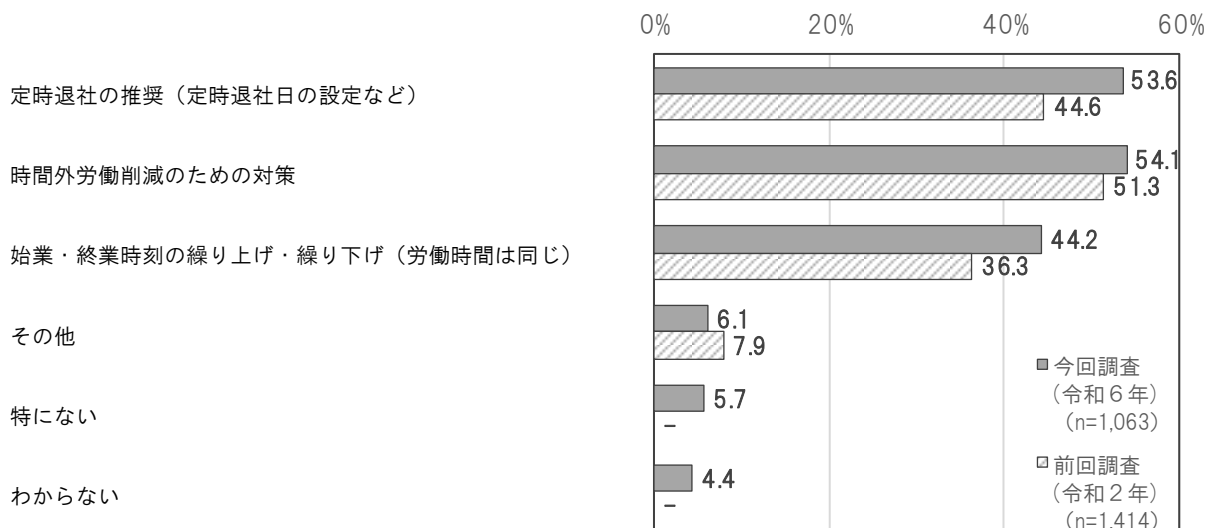
		単位（％）					
区分		調査数 （件）	よく 感じる	時々 感じる	あまり 感じない	ま つ た く 感 じ ない	無 回 答
全体		1063	18.8	44.5	28.2	5.4	3.1
性別	男性	372	12.4	43.0	35.2	7.3	2.2
	女性	605	23.0	44.6	25.5	4.3	2.6
	その他	3	33.3	33.3	33.3	－	－
	無回答	83	16.9	50.6	16.9	4.8	10.8
年代	18～29歳	84	11.9	46.4	29.8	10.7	1.2
	30～39歳	149	20.8	45.6	28.2	4.0	1.3
	40～49歳	161	23.0	45.3	25.5	4.3	1.9
	50～59歳	170	15.9	48.8	27.1	5.3	2.9
	60～69歳	185	20.5	41.6	29.7	4.9	3.2
	70歳以上	278	19.1	42.1	29.9	5.4	3.6
	無回答	36	11.1	44.4	22.2	5.6	16.7

[4] 仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動の両立のために、職場や地域で進んでほしい取り組み

問 21	あなたは、仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動を両立するために、職場や地域においてどのような取り組みが進めばいいと思いますか。(1)～(5)それぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	---

(1) 長時間労働の抑制について

- ・長時間労働の抑制については、「時間外労働削減のための対策」が54.1%と半数以上を占め最も高く、次いで「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」(53.6%)、「始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）」(44.2%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」が9.0ポイント高く、「始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）」が7.9ポイント高くなっています。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、50～59歳では「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」が最も高くなっております。また、他の年代に比べ、30～39歳では「時間外労働削減のための対策」、「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」が高くなっています。

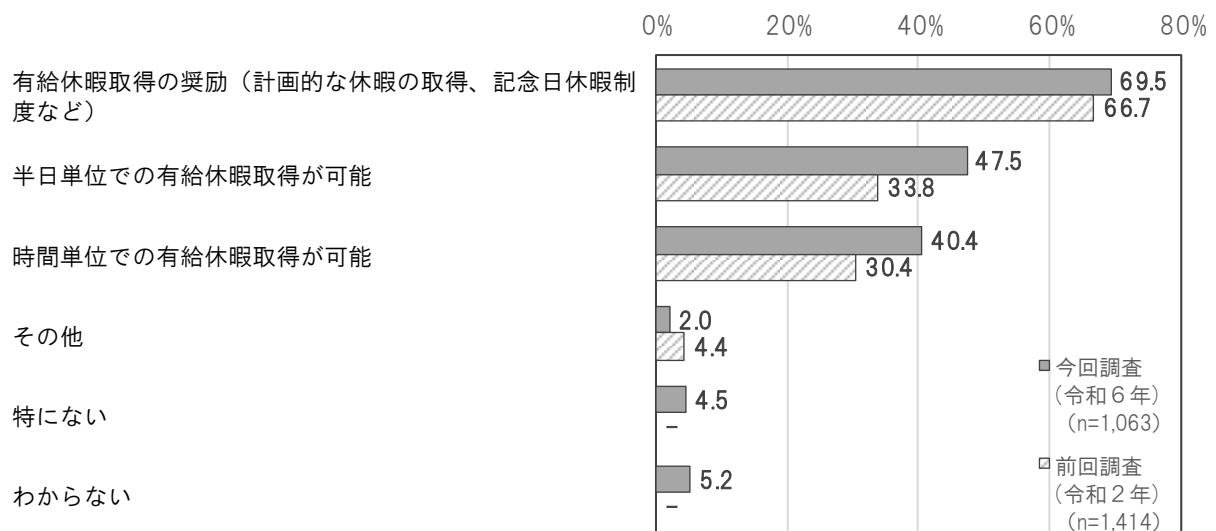


※今回調査で、「特になし」、「わからない」が追加

		単位 (%)							
区分		調査数（件）	定時退社の推奨（定時退社日の設定など）	時間外労働削減のための対策	始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	53.6	54.1	44.2	6.1	5.7	4.4	2.8
性別	男性	372	51.9	58.6	42.7	8.6	6.5	2.7	1.1
	女性	605	56.4	53.9	46.6	4.6	5.0	4.8	2.3
	その他	3	100.0	100.0	66.7	33.3	－	－	－
	無回答	83	39.8	33.7	32.5	4.8	8.4	9.6	14.5
年代	18～29歳	84	58.3	59.5	48.8	13.1	7.1	1.2	－
	30～39歳	149	68.5	71.1	49.0	7.4	1.3	0.7	0.7
	40～49歳	161	58.4	60.9	55.9	6.8	2.5	1.9	0.6
	50～59歳	170	50.6	46.5	42.9	6.5	4.7	3.5	1.8
	60～69歳	185	49.7	51.9	38.9	5.4	6.5	4.9	2.7
	70歳以上	278	46.8	48.2	39.6	3.2	10.4	8.6	4.0
	無回答	36	47.2	33.3	30.6	5.6	－	8.3	25.0

（２） 年次有給休暇の取得促進について

- 年次有給休暇の取得促進については、「有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など）」が 69.5%と7割近くを占め最も高く、次いで「半日単位での有給休暇取得が可能」（47.5%）、「時間単位での有給休暇取得が可能」（40.4%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「半日単位での有給休暇取得が可能」が 13.7 ポイント高く、「時間単位での有給休暇取得が可能」が 10.0 ポイント高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、30～39 歳では「有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など）」が高く、70 歳以上では「わからない」が高くなっています。

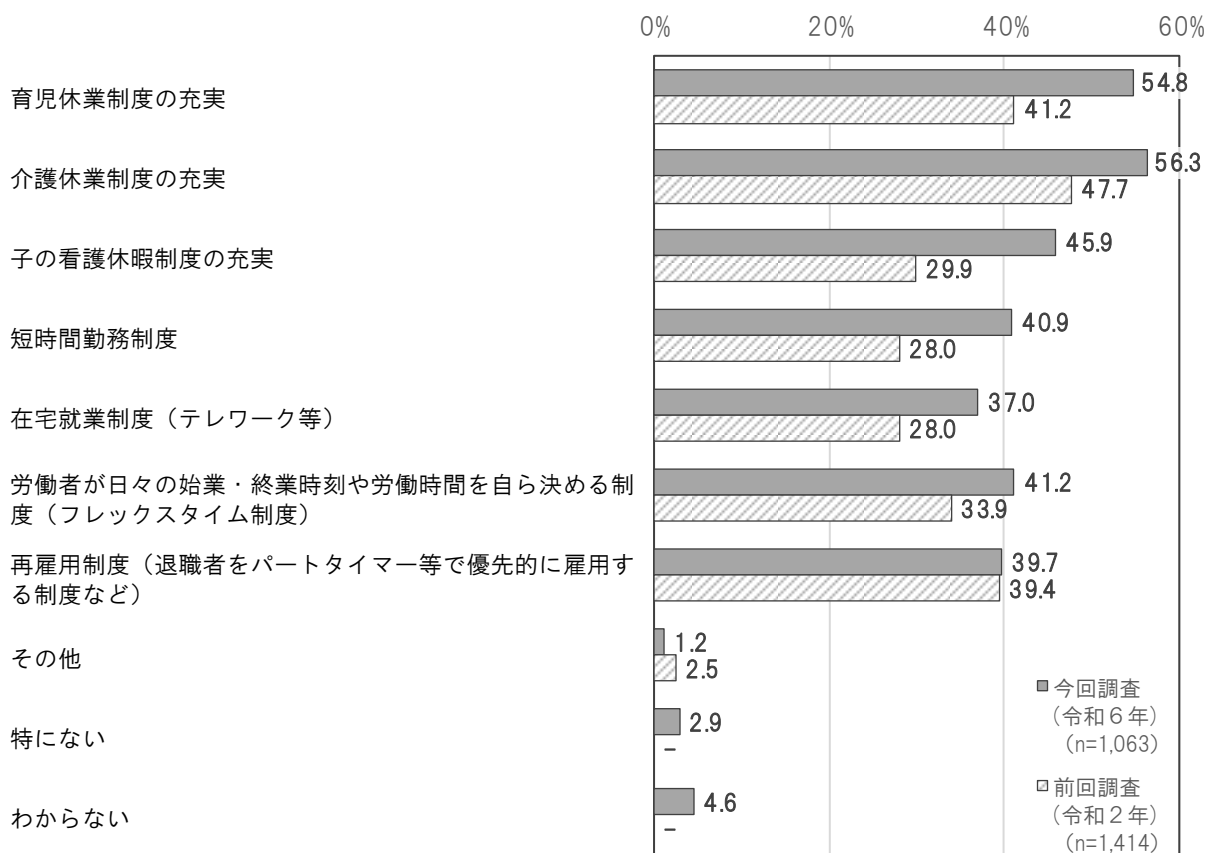


※今回調査で、「特になし」、「わからない」が追加

		単位 (%)							
区分		調査数 (件)	有給休暇取得、記念日休暇制度など	半日単位での有給休暇取得が可能	時間単位での有給休暇取得が可能	その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全体		1063	69.5	47.5	40.4	2.0	4.5	5.2	3.1
性別	男性	372	73.4	48.9	40.9	2.7	4.6	3.8	1.1
	女性	605	69.8	49.3	42.5	1.3	4.0	5.6	2.6
	その他	3	100.0	66.7	66.7	33.3	－	－	－
	無回答	83	49.4	27.7	21.7	2.4	8.4	8.4	15.7
年代	18～29歳	84	72.6	51.2	53.6	－	6.0	3.6	－
	30～39歳	149	89.9	58.4	53.0	2.7	－	1.3	0.7
	40～49歳	161	72.7	56.5	51.6	2.5	2.5	3.1	0.6
	50～59歳	170	69.4	45.3	40.6	2.4	5.3	3.5	1.8
	60～69歳	185	69.2	49.7	43.2	2.2	3.2	4.3	2.7
	70歳以上	278	57.6	37.4	23.0	1.4	8.3	10.4	5.4
	無回答	36	58.3	30.6	25.0	2.8	2.8	5.6	22.2

（３） 制度の整備について

- 制度の整備については、「介護休業制度の充実」が56.3%と半数以上を占め最も高く、次いで「育児休業制度の充実」（54.8%）、「子の看護休暇制度の充実」（45.9%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「子の看護休暇制度の充実」、「育児休業制度の充実」、「短時間勤務制度」が10.0ポイント以上高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、18～39歳では「育児休業制度の充実」、40～49歳では「子の看護休暇制度の充実」、50歳以上では「介護休業制度の充実」が最も高くなっています。



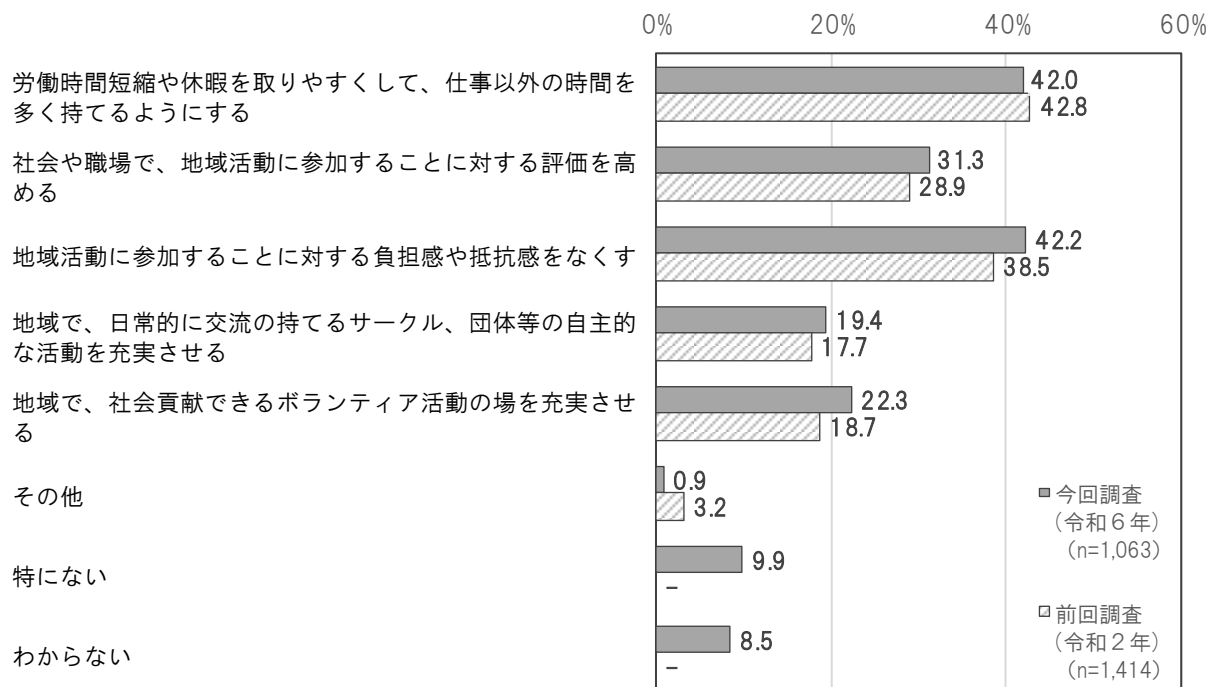
※今回調査で、「特になし」、「わからない」が追加

単位 (%)

区分		調査数 (件)	育児休業 制度の充実	介護休業 制度の充実	子の看護 休暇制度の 充実	短時間勤 務制度	在宅就業 制度（テレ ワーク等）	労働者が日 々の始業・ 終業時刻や 労働時間を 自ら決める 制度（フレ ックスタイ ム制度）	再雇用制度 （退職者を パートタイ マー等で優 先的に雇用 する制度な ど）	その他	特にな い	わから ない	無回 答
全体		1063	54.8	56.3	45.9	40.9	37.0	41.2	39.7	1.2	2.9	4.6	2.7
性別	男性	372	57.0	56.2	47.6	40.6	37.6	44.1	39.8	1.9	3.5	3.2	1.3
	女性	605	55.9	58.3	47.4	42.5	37.7	40.7	40.8	0.8	2.3	5.1	2.0
	その他	3	100.0	100.0	100.0	66.7	100.0	100.0	66.7	-	-	-	-
	無回答	83	34.9	41.0	25.3	30.1	26.5	30.1	30.1	1.2	4.8	7.2	14.5
年代	18～29歳	84	76.2	42.9	51.2	53.6	53.6	46.4	31.0	1.2	2.4	2.4	-
	30～39歳	149	71.1	49.7	65.8	51.7	54.4	53.0	37.6	0.7	2.0	2.7	0.7
	40～49歳	161	54.7	55.9	57.8	53.4	47.2	48.4	46.0	1.9	0.6	4.3	0.6
	50～59歳	170	43.5	59.4	38.8	44.7	31.2	41.2	42.4	1.8	1.2	2.4	2.4
	60～69歳	185	58.9	69.2	47.6	36.2	32.4	42.2	47.6	0.5	2.2	3.8	2.7
	70歳以上	278	47.1	56.5	32.4	26.6	24.8	30.2	34.5	1.1	6.8	7.9	3.6
	無回答	36	27.8	36.1	27.8	27.8	25.0	27.8	27.8	2.8	-	8.3	22.2

(4) 地域活動への積極的な参加について

- 地域活動への積極的な参加については、「地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす」が 42.2%と4割以上を占め最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(42.0%)、「社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める」(31.3%)となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める」、「地域で、社会貢献できるボランティア活動の場を充実させる」、「地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす」は男性が女性より高く、「わからない」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、30～39 歳では「労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が高く、18～29 歳では「特にない」が高くなっています。

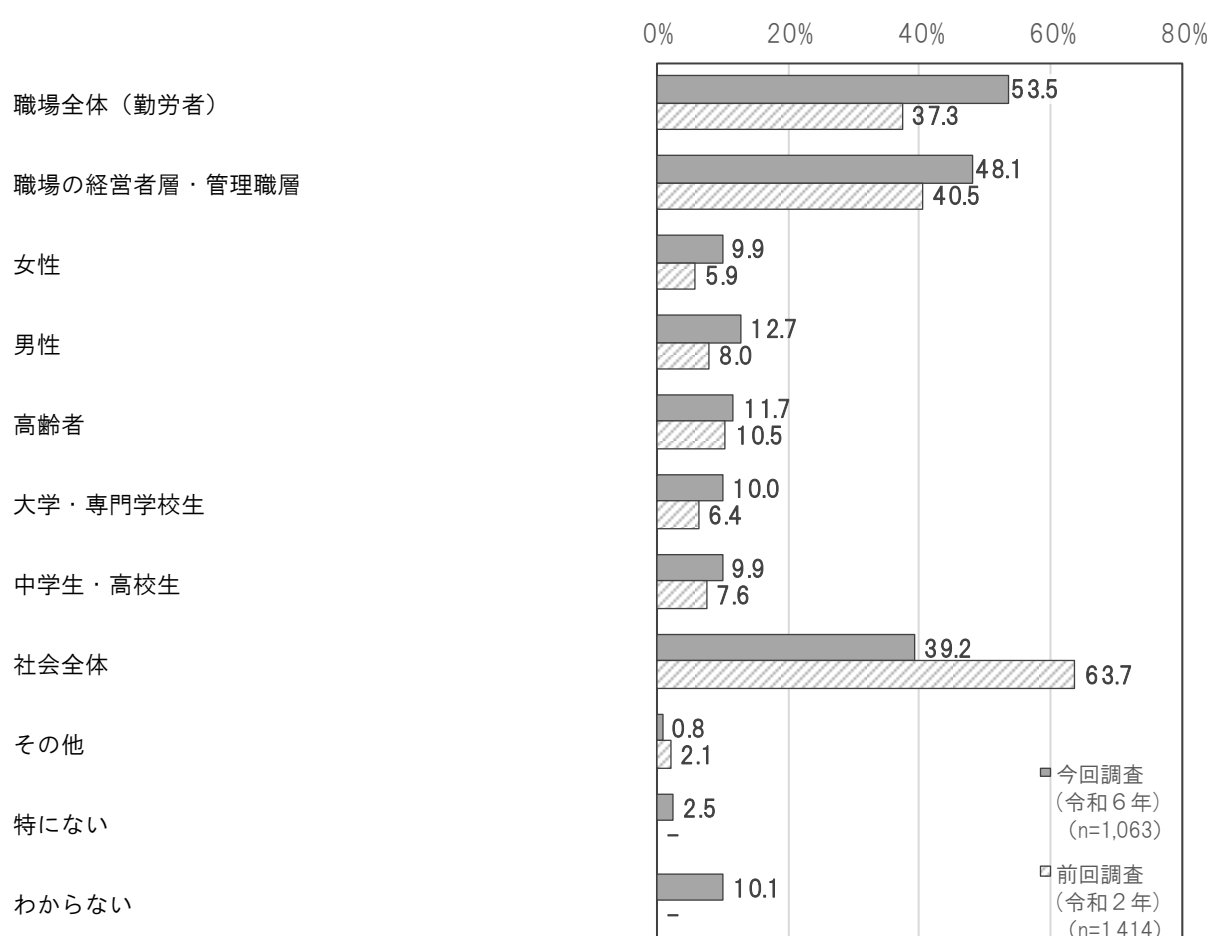


※今回調査で、「特にない」、「わからない」が追加

		単位 (%)									
区分		調査数 （件）	労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする	社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める	地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす	地域で、日常的に交流の持てるサークル、団体等の自主的な活動を充実させる	地域で、社会貢献できるボランティア活動の場を充実させる	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	42.0	31.3	42.2	19.4	22.3	0.9	9.9	8.5	2.6
性別	男性	372	45.2	37.6	46.5	22.0	28.0	1.9	9.4	4.8	1.1
	女性	605	41.8	28.3	40.2	18.5	20.3	0.5	9.8	10.1	2.0
	その他	3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	－	－	33.3	－
	無回答	83	27.7	24.1	37.3	12.0	10.8	－	13.3	12.0	14.5
年代	18～29歳	84	48.8	28.6	38.1	17.9	16.7	－	17.9	4.8	－
	30～39歳	149	56.4	31.5	47.0	19.5	19.5	1.3	8.7	8.1	0.7
	40～49歳	161	46.0	34.2	48.4	16.1	19.9	0.6	7.5	11.8	0.6
	50～59歳	170	40.6	35.9	46.5	17.1	18.8	1.2	9.4	5.3	1.8
	60～69歳	185	42.7	31.4	43.2	25.4	24.3	1.1	7.0	9.2	2.2
	70歳以上	278	32.0	29.5	35.3	19.8	28.8	1.1	11.9	8.6	4.0
	無回答	36	27.8	16.7	33.3	13.9	13.9	－	8.3	13.9	22.2

（５） 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発の対象について

- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発の対象については、「職場全体（勤労者）」が 53.5%と半数以上を占め最も高く、次いで「職場の経営者層・管理職層」（48.1%）、「社会全体」（39.2%）となっています。
- ・前回調査と比較すると、「職場全体（勤労者）」が 16.2 ポイント高く、「社会全体」が 24.5 ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、「職場の経営者層・管理職層」は男性が女性より高く、「わからない」、「男性」は女性が男性より高くなっております。



※今回調査で、「特にない」、「わからない」が追加

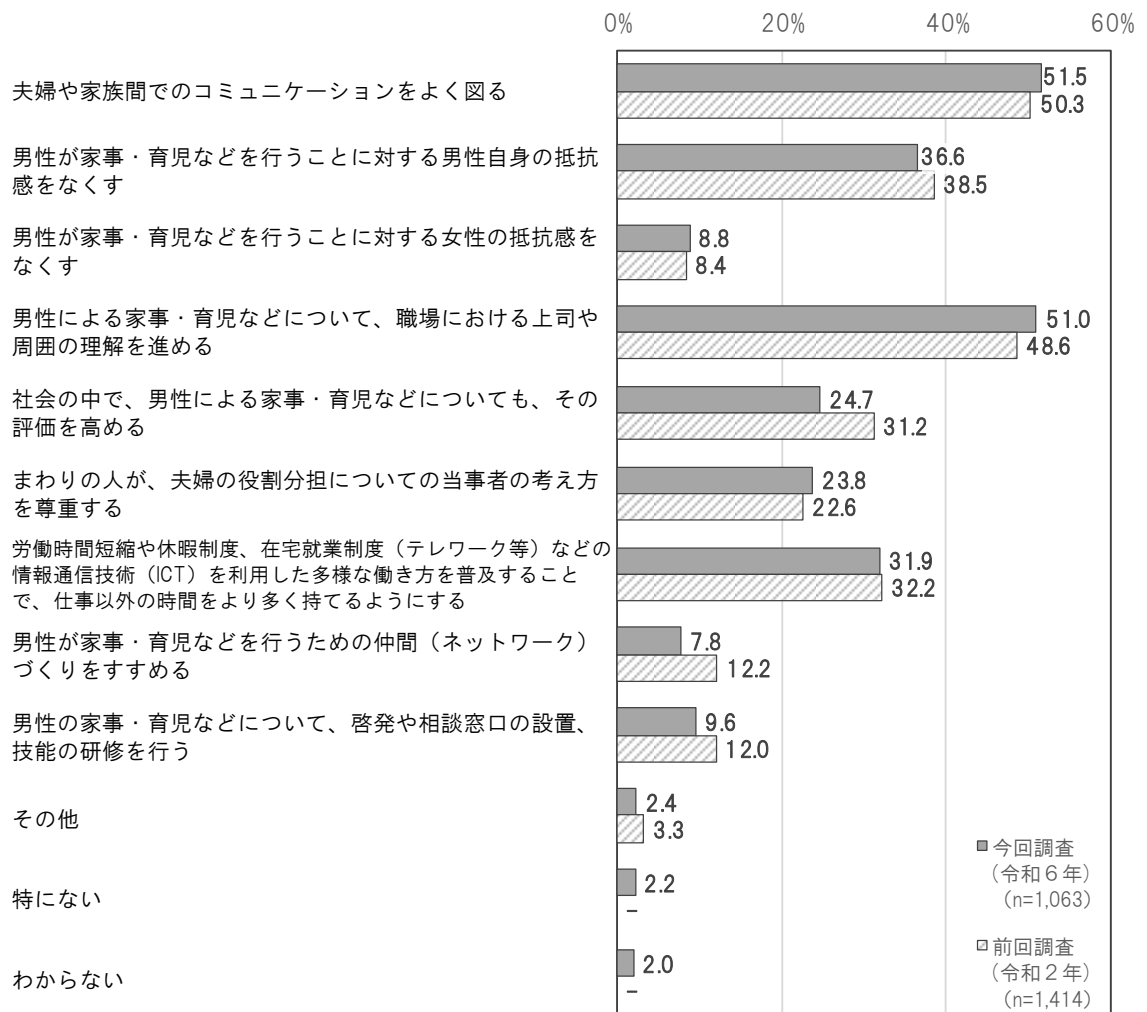
単位 (%)

区分		調査数 (件)	職場全体 (勤労者)	職場の経営者層・ 管理職層	女性	男性	高齢者	大学・専門 学校生	中学生・高 校生	社会全体	その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全体		1063	53.5	48.1	9.9	12.7	11.7	10.0	9.9	39.2	0.8	2.5	10.1	3.9
性別	男性	372	54.6	53.2	8.3	9.4	11.6	9.9	10.2	39.2	1.3	2.7	5.1	1.9
	女性	605	55.2	46.1	11.2	15.0	12.4	10.6	10.4	39.7	0.5	2.5	12.6	3.1
	その他	3	100.0	66.7	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	100.0	-	-	-	-
	無回答	83	34.9	38.6	6.0	8.4	6.0	3.6	2.4	33.7	1.2	2.4	14.5	18.1
年代	18～29歳	84	63.1	61.9	14.3	13.1	10.7	19.0	9.5	46.4	-	-	7.1	-
	30～39歳	149	69.1	65.8	14.8	15.4	11.4	16.8	14.1	45.0	-	0.7	4.7	0.7
	40～49歳	161	59.0	59.6	14.3	23.6	13.7	14.3	12.4	43.5	1.2	0.6	6.8	1.2
	50～59歳	170	62.4	44.7	9.4	10.0	11.8	8.8	8.8	37.1	1.2	-	7.6	1.8
	60～69歳	185	57.3	48.1	7.6	12.4	11.9	6.5	10.3	40.0	1.1	2.2	7.6	3.2
	70歳以上	278	33.8	32.0	6.5	8.3	11.9	4.7	7.2	33.8	1.1	7.6	17.6	6.8
	無回答	36	33.3	30.6	-	-	2.8	5.6	5.6	27.8	-	-	19.4	27.8

【5】男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行うために、特に必要だと思うこと

問 22	今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行っていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください）
------	--

- 男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行うために、特に必要だと思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が 51.5%と半数以上を占め最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」(51.0%)、「男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」(36.6%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める」が 6.5 ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「まわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、30～39 歳では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」が高くなっています。



※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり
※今回調査で、「特になし」、「わからない」が追加

単位 (%)

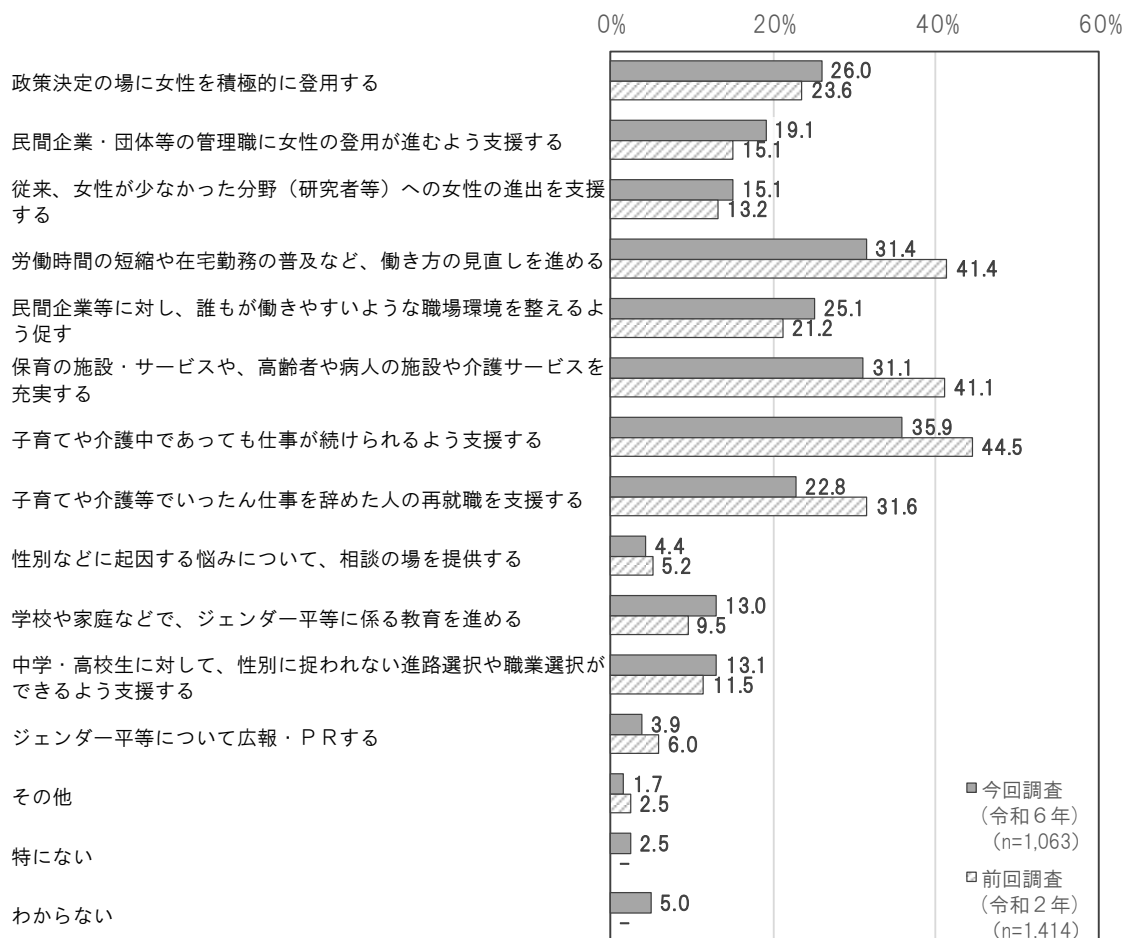
区分		調査数 (件)	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事・育児などを行うことに対する女性の抵抗感をなくす	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める	まわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する	労働時間短縮や休暇制度、在宅就業制度（テレワーク等）などの情報通信技術（ＩＣＴ）を利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	男性の家事・育児などについて、啓発や相談窓口の設置、技能の研修を行う	その他	特になし	わからない	無回答
全体		1063	51.5	36.6	8.8	51.0	24.7	23.8	31.9	7.8	9.6	2.4	2.2	2.0	2.3
性別	男性	372	55.4	32.3	11.0	48.7	26.3	20.2	32.3	7.8	10.2	3.5	1.9	1.3	1.3
	女性	605	50.9	39.8	7.6	53.9	24.3	26.4	32.2	7.8	9.1	2.0	2.1	2.5	1.3
	その他	3	33.3	66.7	-	66.7	33.3	-	66.7	-	33.3	-	-	-	-
	無回答	83	38.6	31.3	8.4	39.8	20.5	21.7	26.5	8.4	9.6	1.2	3.6	1.2	13.3
年代	18～29歳	84	54.8	29.8	10.7	54.8	21.4	27.4	38.1	10.7	16.7	2.4	-	-	-
	30～39歳	149	55.0	36.9	4.7	68.5	23.5	20.1	36.9	8.7	8.1	3.4	1.3	1.3	0.7
	40～49歳	161	47.2	36.6	8.1	55.3	33.5	17.4	34.8	8.1	8.7	3.1	1.9	2.5	0.6
	50～59歳	170	43.5	38.2	7.6	51.8	27.6	18.8	32.4	6.5	7.1	2.9	1.2	1.8	1.2
	60～69歳	185	51.4	38.4	7.6	49.7	27.6	27.0	32.4	9.7	9.7	2.7	0.5	2.7	2.2
	70歳以上	278	56.8	38.1	12.6	40.3	19.8	29.9	26.3	6.1	10.1	1.1	5.0	2.5	2.9
	無回答	36	44.4	22.2	8.3	36.1	8.3	19.4	22.2	5.6	11.1	2.8	2.8	-	22.2

〔6〕ジェンダー平等社会の実現のために、今後行政が特に力を入れていくべきこと

問 23

あなたは、ジェンダー平等社会の実現を図るために、今後行政が特に力を入れていくべきことは何だと思いますか。（3つまで選んでください）

- ジェンダー平等社会の実現のために、今後行政が特に力を入れていくべきことについては、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 35.9%と3割以上を占め最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進める」（31.4%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（31.1%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進める」、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」、「子育てや介護等といった仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が低くなっています。
- 性別にみると、「政策決定の場に女性を積極的に登用する」が男性では 30.1%と、女性（23.5%）に比べて高くなっています。また、「中学・高校生に対して、性別に捉われない進路選択や職業選択ができるよう支援する」が女性では 15.5%と、男性（10.2%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29 歳では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が低く、70 歳以上では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が低くなっています。



※設問文について、前回調査から表現の変更あり

※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり

※今回調査で、「特になし」、「わからない」が追加

単位 (%)

区分		調査数（件）	政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進める	民間企業等に対し、誰もが働きやすいような職場環境を整えるよう促す	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	性別などに起因する悩みについて、相談の場を提供する	学校や家庭などで、ジェンダー平等に係る教育を進める	職業選択ができるよう支援する	中学・高校生に対して、性別に捉われない進路選択や職業選択ができるよう支援する	ジェンダー平等について広報・PRする	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1063	26.0	19.1	15.1	31.4	25.1	31.1	35.9	22.8	4.4	13.0	13.1	3.9	1.7	2.5	5.0	2.4	
性別	男性	372	30.1	19.1	16.7	32.5	27.4	28.8	33.9	21.2	3.5	12.4	10.2	4.3	3.8	3.5	3.0	1.6	
	女性	605	23.5	20.8	14.5	30.6	24.8	33.1	37.4	25.6	5.1	13.7	15.5	4.0	0.5	1.8	6.0	1.3	
	その他	3	66.7	33.3	-	33.3	-	66.7	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	83	24.1	6.0	13.3	32.5	18.1	26.5	33.7	9.6	2.4	10.8	8.4	1.2	1.2	3.6	7.2	13.3	
年代	18～29歳	84	27.4	15.5	14.3	41.7	16.7	19.0	42.9	26.2	4.8	10.7	19.0	1.2	1.2	-	3.6	1.2	
	30～39歳	149	22.1	20.8	17.4	46.3	24.2	30.2	43.6	18.1	6.0	14.8	14.1	2.0	1.3	2.7	2.0	0.7	
	40～49歳	161	23.0	17.4	13.0	33.5	28.0	26.7	41.0	22.4	5.0	16.1	15.5	3.7	3.1	1.9	4.3	0.6	
	50～59歳	170	22.9	20.6	13.5	27.1	33.5	26.5	36.5	26.5	5.9	10.6	13.5	2.9	1.2	1.8	4.7	1.2	
	60～69歳	185	26.5	18.9	11.4	31.9	21.1	42.7	35.1	25.4	3.8	14.6	11.4	5.4	2.2	1.6	3.8	2.2	
	70歳以上	278	32.0	21.6	19.1	22.3	24.8	34.9	29.1	21.9	3.2	11.5	10.4	5.8	1.1	4.7	7.2	2.9	
	無回答	36	16.7	2.8	13.9	25.0	19.4	16.7	19.4	11.1	-	11.1	11.1	-	2.8	2.8	13.9	22.2	

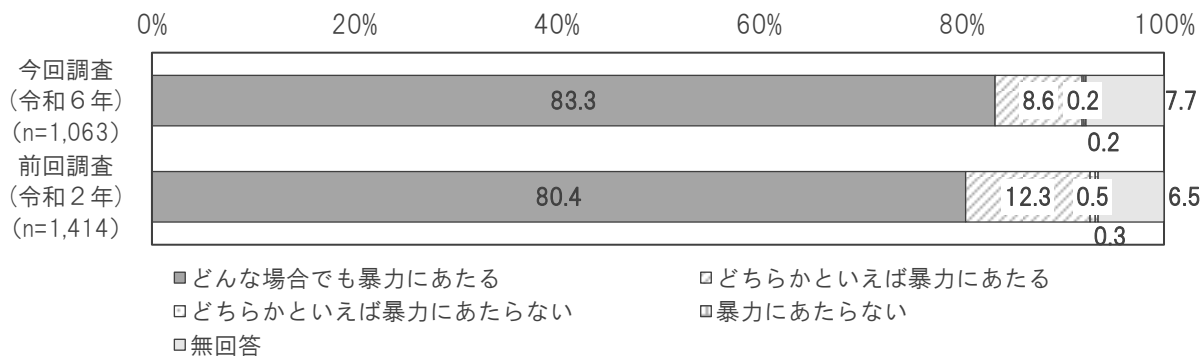
4. DV（配偶者等からの暴力）について

〔1〕配偶者やパートナー、交際相手の間で行われる暴力（DV）に対する考えとその経験について

問 24 (1)	あなたは、次のようなことが配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。ア～ケそれぞれについて、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。
-------------	--

ア 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる

- 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐることにに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が83.3%と8割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は91.9%と、ほとんどの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比べて、大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性で87.3%と、男性（79.6%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で12.4%と、女性（6.3%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

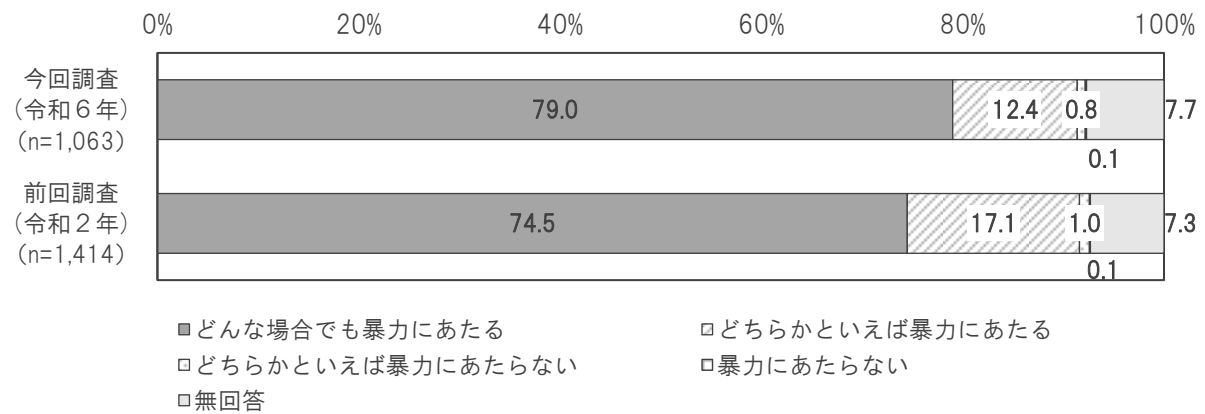


単位 (%)

区分	調査数 (件)	どんな場合でも暴力にあたる	どちらかといえば暴力にあたる	どちらかといえば暴力にあたらない	暴力にあたらない	無回答
全体	1063	83.3	8.6	0.2	0.2	7.7
性別	男性	372	79.6	12.4	-	7.8
	女性	605	87.3	6.3	0.3	6.0
	その他	3	100.0	-	-	-
	無回答	83	71.1	8.4	-	20.5
年代	18～29歳	84	85.7	13.1	-	1.2
	30～39歳	149	79.2	12.1	-	8.7
	40～49歳	161	86.3	11.2	-	2.5
	50～59歳	170	88.2	7.1	-	4.7
	60～69歳	185	85.9	8.6	-	5.4
	70歳以上	278	80.2	5.8	0.7	12.6
	無回答	36	69.4	-	-	30.6

イ なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす

- なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどすことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が79.0%と8割近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は91.4%と、ほとんどの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比べて、大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性で82.6%と、男性（74.5%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で16.9%と、女性（10.2%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上で『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」＋「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

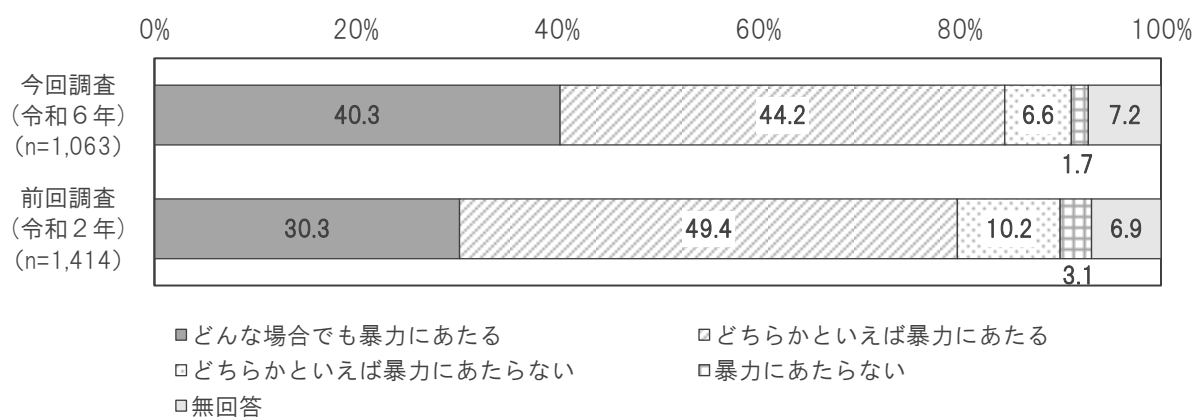


単位 (%)

区分		調査数 (件)	どんな 場合でも 暴力にあ たる	ど ち ら か と い え ば 暴 力 に あ た る	な ば ど い 暴 力 に あ た ら ぬ	い 暴 力 に あ た ら ぬ	無 回 答
全体		1063	79.0	12.4	0.8	0.1	7.7
性別	男性	372	74.5	16.9	1.1	—	7.5
	女性	605	82.6	10.2	0.7	0.2	6.3
	その他	3	100.0	—	—	—	—
	無回答	83	72.3	8.4	—	—	19.3
年代	18～29歳	84	90.5	7.1	—	—	2.4
	30～39歳	149	83.2	9.4	2.7	—	4.7
	40～49歳	161	84.5	13.7	—	—	1.9
	50～59歳	170	84.7	12.4	—	—	2.9
	60～69歳	185	77.8	15.1	1.1	—	5.9
	70歳以上	278	69.4	14.0	0.7	0.4	15.5
	無回答	36	63.9	5.6	—	—	30.6

ウ 大声でどなる

- 大声でどなることに対する考えについては、「どちらかといえば暴力にあたる」が44.2%と4割以上を占め最も高くなっており、「どんな場合でも暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は84.5%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が10.0ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたる」が5.2ポイント低くなっています。
- 性別にみると、『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が女性で88.9%と、男性（80.3%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたらぬ」が男性で11.3%と、女性（3.5%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

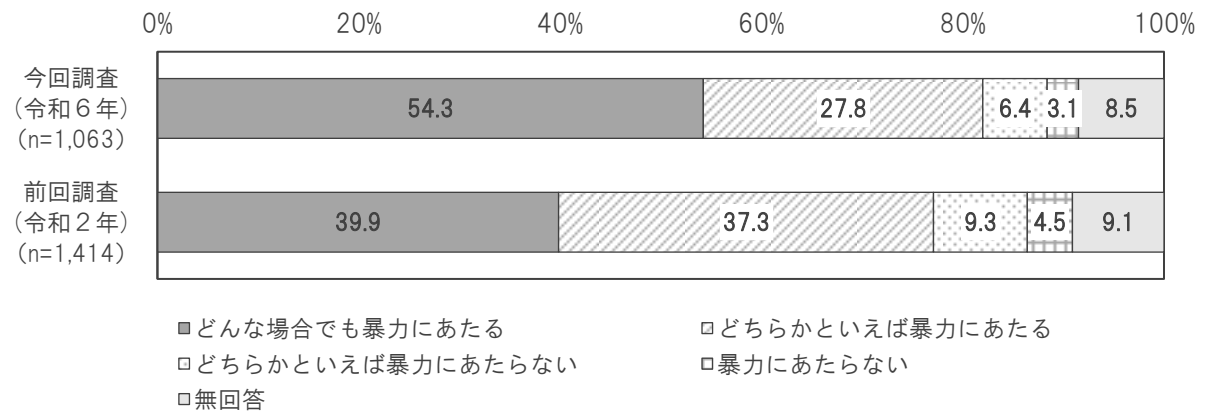


単位 (%)

区分		調査数 (件)	ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る	ば ど ん ち か ら に か あ と た い る	な ば ど ん ち か ら に か あ と た い ら え	い 暴 力 に あ た ら ぬ	無 回 答
全体		1063	40.3	44.2	6.6	1.7	7.2
性 別	男性	372	30.6	49.7	11.3	2.4	5.9
	女性	605	47.1	41.8	3.5	1.3	6.3
	その他	3	33.3	33.3	-	33.3	-
	無回答	83	33.7	37.3	8.4	-	20.5
年 代	18～29歳	84	42.9	47.6	7.1	2.4	-
	30～39歳	149	38.9	51.0	6.0	-	4.0
	40～49歳	161	43.5	44.1	8.7	1.9	1.9
	50～59歳	170	48.2	44.1	3.5	0.6	3.5
	60～69歳	185	43.2	42.2	6.5	1.6	6.5
	70歳以上	278	32.7	42.4	7.6	3.2	14.0
	無回答	36	30.6	33.3	5.6	-	30.6

エ 家族や友人との関わりを持たせない

- ・家族や友人との関わりを持たせないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が54.3%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は82.1%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- ・前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が14.4ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたる」が9.5ポイント低くなっています。
- ・性別にみると、『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」＋「どちらかといえば暴力にあたる」）が女性で86.3%と、男性（78.8%）より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」＋「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

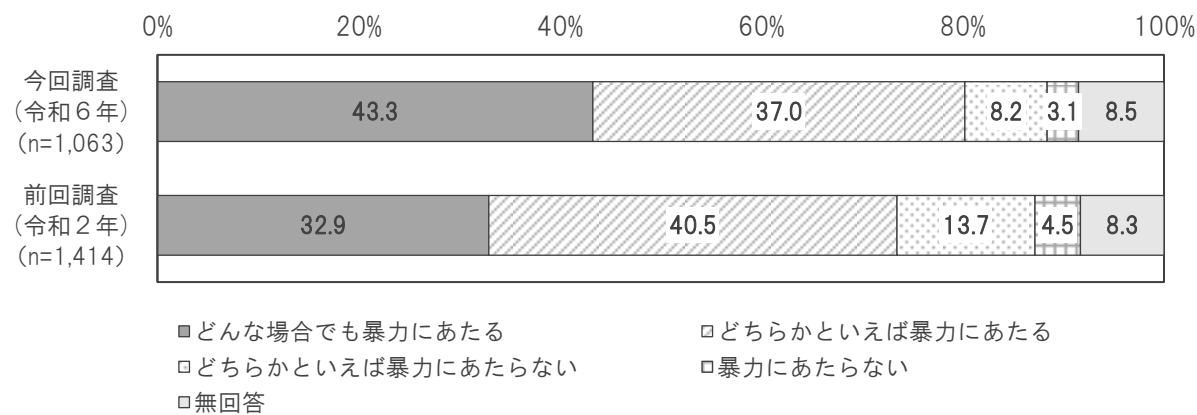


単位 (%)

区分		調査数 (件)	どんな 力にな あ場 合で も	ばど ち暴 力ら にか あ と た い る え	なばど い暴 ち力 らにか あ と た い ら え	い暴 力に あ た ら な	無 回 答
全体		1063	54.3	27.8	6.4	3.1	8.5
性別	男性	372	42.5	36.3	8.9	4.3	8.1
	女性	605	63.3	23.0	4.6	2.1	6.9
	その他	3	66.7	-	-	33.3	-
	無回答	83	41.0	25.3	8.4	3.6	21.7
年代	18～29歳	84	69.0	20.2	9.5	1.2	-
	30～39歳	149	61.1	26.2	4.7	2.7	5.4
	40～49歳	161	64.6	26.7	4.3	3.1	1.2
	50～59歳	170	62.9	27.1	5.3	2.4	2.4
	60～69歳	185	55.1	29.2	4.3	3.2	8.1
	70歳以上	278	38.1	30.6	9.0	4.3	18.0
	無回答	36	25.0	30.6	11.1	2.8	30.6

オ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

- 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視することに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が43.3%と4割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は80.3%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が10.4ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたらぬ」が5.5ポイント低くなっています。
- 性別にみると、『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が女性で84.1%と、男性（76.8%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代と比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

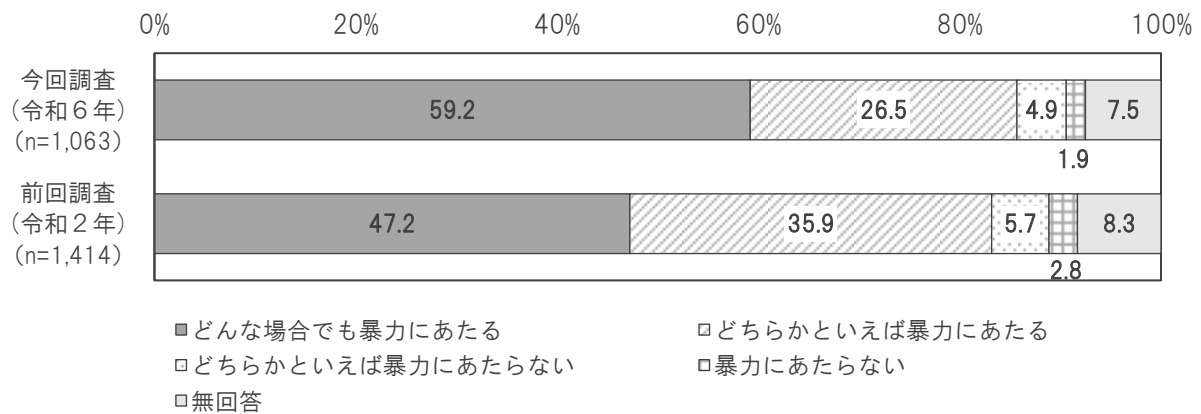


単位 (%)

区分		調査数 (件)	どんな 場合 でも 暴力 にあ たる	ど ち ら か と い え ば 暴 力 に あ た る	ど ち ら か と い え ば 暴 力 に あ た ら ぬ	暴 力 に あ た ら ぬ	無 回 答
全体		1063	43.3	37.0	8.2	3.1	8.5
性別	男性	372	34.9	41.9	12.1	3.5	7.5
	女性	605	49.9	34.2	6.0	2.5	7.4
	その他	3	33.3	33.3	-	33.3	-
	無回答	83	32.5	34.9	7.2	4.8	20.5
年代	18～29歳	84	42.9	44.0	8.3	4.8	-
	30～39歳	149	46.3	32.9	9.4	5.4	6.0
	40～49歳	161	50.3	36.0	8.1	3.7	1.9
	50～59歳	170	45.3	44.1	6.5	1.8	2.4
	60～69歳	185	43.2	41.6	6.5	2.2	6.5
	70歳以上	278	38.1	31.3	9.7	2.5	18.3
	無回答	36	30.6	27.8	8.3	2.8	30.6

カ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限したりする

- 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限したりすることに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が59.2%と6割近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は85.7%と、8割以上の人々が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が12.0ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたる」が9.4ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では65.1%と、男性（52.4%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性では32.5%と、女性（23.3%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

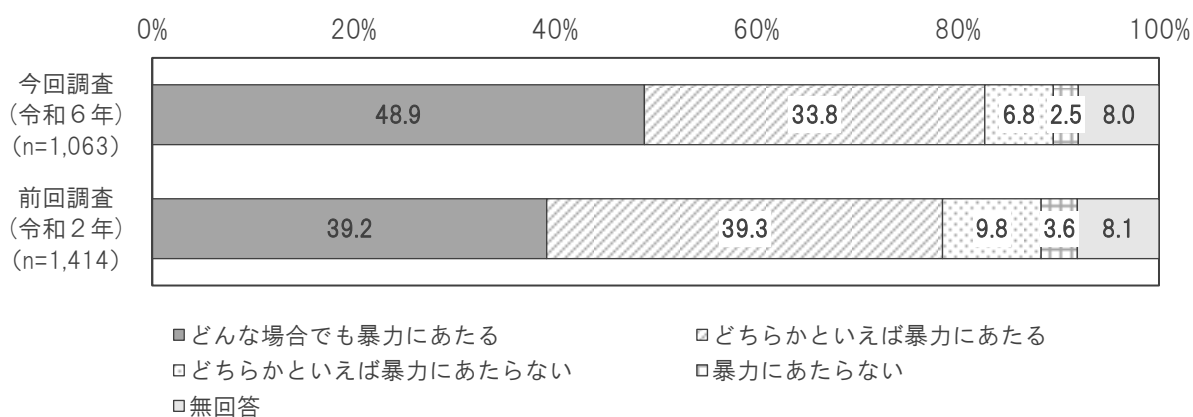


※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	どんな場合でも暴力にあたる	どちらかといえば暴力にあたる	どちらかといえば暴力にあたらない	暴力にあたらない
全体		1063	59.2	26.5	4.9	1.9
性別	男性	372	52.4	32.5	7.5	1.9
	女性	605	65.1	23.3	3.0	1.7
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	45.8	24.1	7.2	2.4
年代	18～29歳	84	69.0	26.2	4.8	-
	30～39歳	149	65.1	22.8	6.0	3.4
	40～49歳	161	67.7	23.6	5.0	2.5
	50～59歳	170	70.0	22.4	4.7	1.2
	60～69歳	185	59.5	28.6	3.8	1.6
	70歳以上	278	44.2	32.0	4.7	1.8
	無回答	36	36.1	22.2	8.3	2.8

キ 何を言っても長期間無視し続ける

- 何を言っても長期間無視し続けることに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が48.9%と半数近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は82.7%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が9.7ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたる」が5.5ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では52.4%と、男性（45.7%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

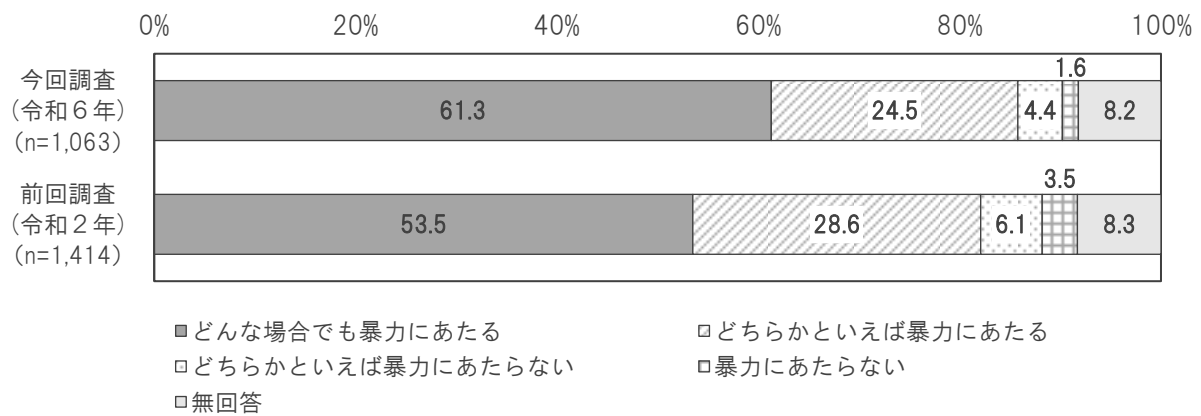


単位 (%)

区分		調査数 (件)	どんな 力にな あ場 た合 るで も	ばど ち暴 力ら にか あと たい るえ	なばど い暴 ち力 らにか あと たい らえ	い暴 力に あた らな	無 回 答
全体		1063	48.9	33.8	6.8	2.5	8.0
性別	男性	372	45.7	36.8	7.0	4.0	6.5
	女性	605	52.4	32.9	6.0	1.7	7.1
	その他	3	66.7	-	-	33.3	-
	無回答	83	37.3	27.7	12.0	1.2	21.7
年代	18～29歳	84	60.7	26.2	8.3	4.8	-
	30～39歳	149	46.3	35.6	9.4	3.4	5.4
	40～49歳	161	54.7	34.2	6.8	2.5	1.9
	50～59歳	170	58.2	34.7	4.1	1.2	1.8
	60～69歳	185	50.8	34.1	5.4	1.6	8.1
	70歳以上	278	39.2	34.9	6.8	2.9	16.2
	無回答	36	27.8	27.8	11.1	2.8	30.6

ク 家計に必要な生活費を渡さない

- ・家計に必要な生活費を渡さないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が61.3%と6割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は85.8%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- ・前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が7.8ポイント高くなっています。
- ・性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では66.8%と、男性（56.2%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で29.6%と、女性（21.3%）より高くなっています。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

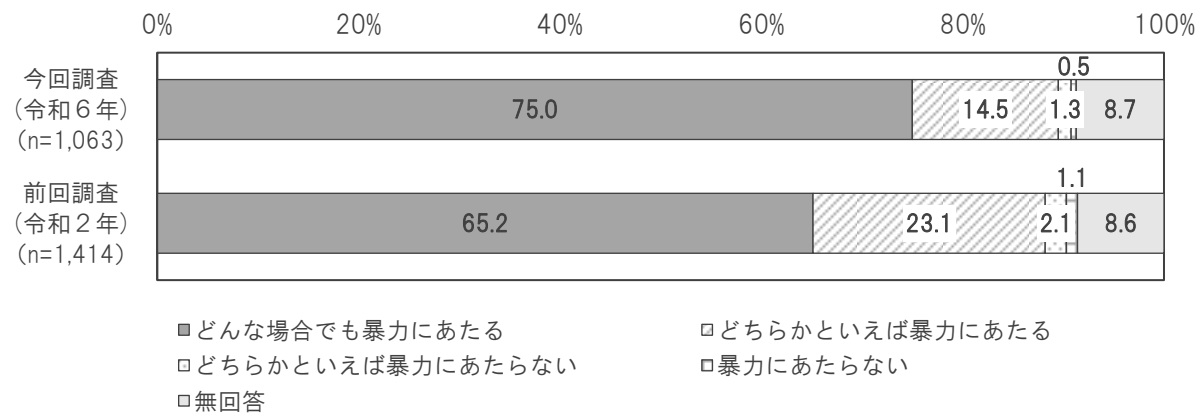


単位 (%)

区分		調査数 (件)	どんな 力にな あ場 合で も	ばど ち暴 力ら にか あ と た い る	なばど い暴 ち力 らにか あ と た い ら え	い暴 力に あ た ら な	無 回 答
全体		1063	61.3	24.5	4.4	1.6	8.2
性別	男性	372	56.2	29.6	5.9	1.6	6.7
	女性	605	66.8	21.3	3.3	1.3	7.3
	その他	3	66.7	-	-	33.3	-
	無回答	83	44.6	25.3	6.0	2.4	21.7
年代	18～29歳	84	70.2	22.6	6.0	1.2	-
	30～39歳	149	64.4	18.8	6.0	4.0	6.7
	40～49歳	161	70.2	24.8	3.1	1.2	0.6
	50～59歳	170	70.6	24.1	2.9	0.6	1.8
	60～69歳	185	62.2	24.3	5.4	1.6	6.5
	70歳以上	278	49.6	27.7	3.6	1.1	18.0
	無回答	36	30.6	27.8	8.3	2.8	30.6

ケ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

- 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が75.0%と7割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は89.5%と、9割近くの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」が9.8ポイント高く、「どちらかといえば暴力にあたる」が8.6ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では79.2%と、男性（71.0%）より高くなっています。一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で19.9%と、女性（11.6%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低くなっています。

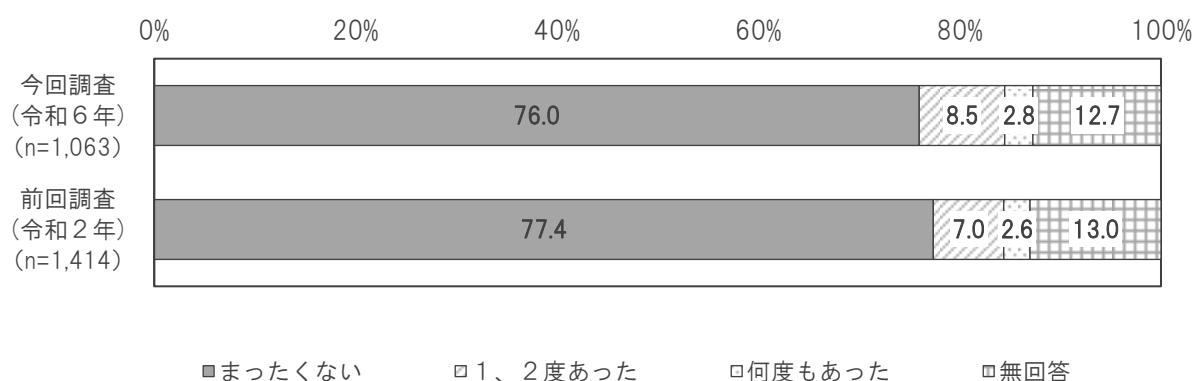


		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	どんな場合でも暴力にあたる	どちらかといえば暴力にあたる	暴力にあたらぬ	無回答
全体		1063	75.0	14.5	1.3	8.7
性別	男性	372	71.0	19.9	1.9	6.7
	女性	605	79.2	11.6	0.7	8.3
	その他	3	100.0	-	-	-
	無回答	83	61.4	12.0	3.6	21.7
年代	18～29歳	84	90.5	9.5	-	-
	30～39歳	149	87.2	6.7	0.7	4.7
	40～49歳	161	82.6	14.3	-	2.5
	50～59歳	170	82.4	12.9	1.2	3.5
	60～69歳	185	70.8	17.8	2.7	8.6
	70歳以上	278	60.8	19.8	1.1	17.6
	無回答	36	50.0	8.3	8.3	30.6

問 24 (2)	配偶者やパートナー、交際相手から受けたことがありますか。ア～ケそれぞれについて、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。
-------------	--

ア 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる

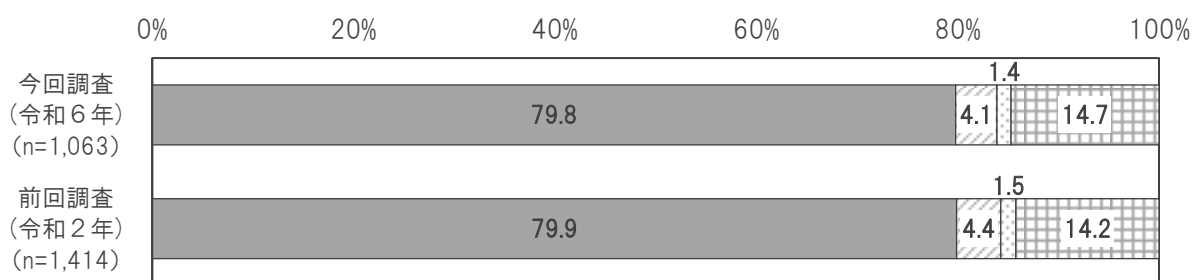
- 平手で打たれる、足でけられる、身体を傷つける可能性のある物でなぐられることに対する経験については、「まったくない」が76.0%と7割以上を占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は11.3%と、1割以上の人がある経験がある結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29歳では「1、2度あった」が低くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	ま っ た く な い	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	無 回 答
全体		1063	76.0	8.5	2.8	12.7
性別	男性	372	78.2	6.2	2.4	13.2
	女性	605	76.9	9.9	3.1	10.1
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	60.2	8.4	2.4	28.9
年代	18～29歳	84	88.1	1.2	3.6	7.1
	30～39歳	149	79.9	8.7	3.4	8.1
	40～49歳	161	76.4	11.2	3.7	8.7
	50～59歳	170	78.2	10.6	2.9	8.2
	60～69歳	185	75.1	9.7	3.2	11.9
	70歳以上	278	71.2	6.8	1.8	20.1
	無回答	36	61.1	8.3	-	30.6

イ なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす

- なぐるふりをしておどされる、刃物などを突きつけておどされることに対する経験については、「まったくない」が79.8%と8割近くを占め最も高くなっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「まったくない」が低くなっています。



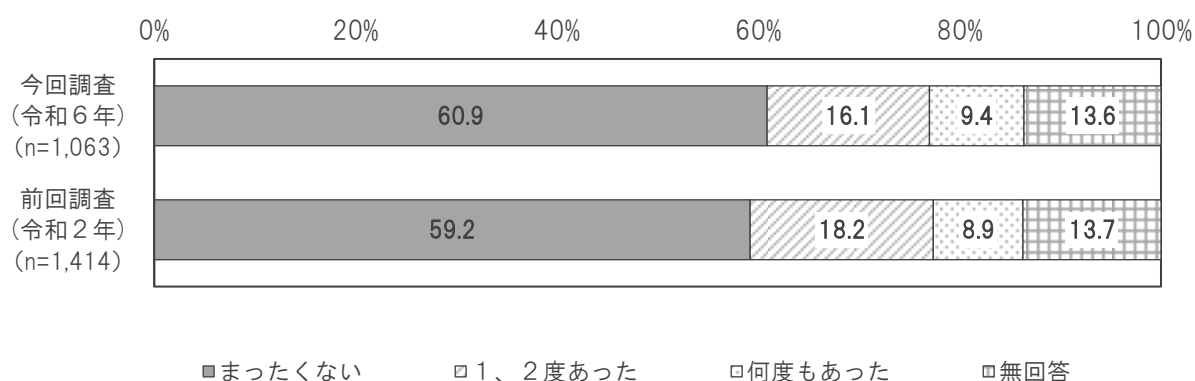
■ まったくない □ 1、2度あった □ 何度もあった □ 無回答

単位 (%)

区分		調査数 (件)	ま っ た く な い	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	無 回 答
全体		1063	79.8	4.1	1.4	14.7
性別	男性	372	81.2	3.2	1.3	14.2
	女性	605	81.5	4.6	1.5	12.4
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	61.4	4.8	1.2	32.5
年代	18～29歳	84	88.1	1.2	2.4	8.3
	30～39歳	149	83.2	6.7	2.0	8.1
	40～49歳	161	82.0	6.2	2.5	9.3
	50～59歳	170	86.5	3.5	1.2	8.8
	60～69歳	185	78.4	5.4	1.1	15.1
	70歳以上	278	73.4	1.4	0.7	24.5
	無回答	36	61.1	8.3	-	30.6

ウ 大声でどなる

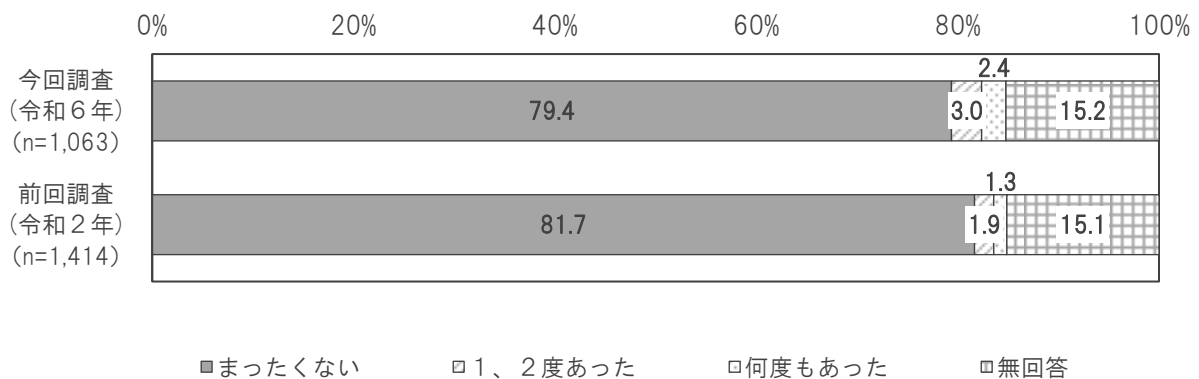
- 大声でどなられることに対する経験については、「まったくない」が60.9%と6割以上を占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は25.5%と、2割以上の人が経験がある結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29歳では「まったくない」が高くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答
全体		1063	60.9	16.1	9.4	13.6
性別	男性	372	62.6	16.1	7.3	14.0
	女性	605	61.5	16.7	10.7	11.1
	その他	3	-	33.3	33.3	33.3
	無回答	83	50.6	10.8	8.4	30.1
年代	18～29歳	84	75.0	10.7	6.0	8.3
	30～39歳	149	63.8	18.1	10.7	7.4
	40～49歳	161	59.6	18.6	14.3	7.5
	50～59歳	170	58.8	21.8	10.6	8.8
	60～69歳	185	56.2	19.5	10.3	14.1
	70歳以上	278	60.4	10.8	6.1	22.7
	無回答	36	58.3	5.6	5.6	30.6

エ 家族や友人との関わりを持たせない

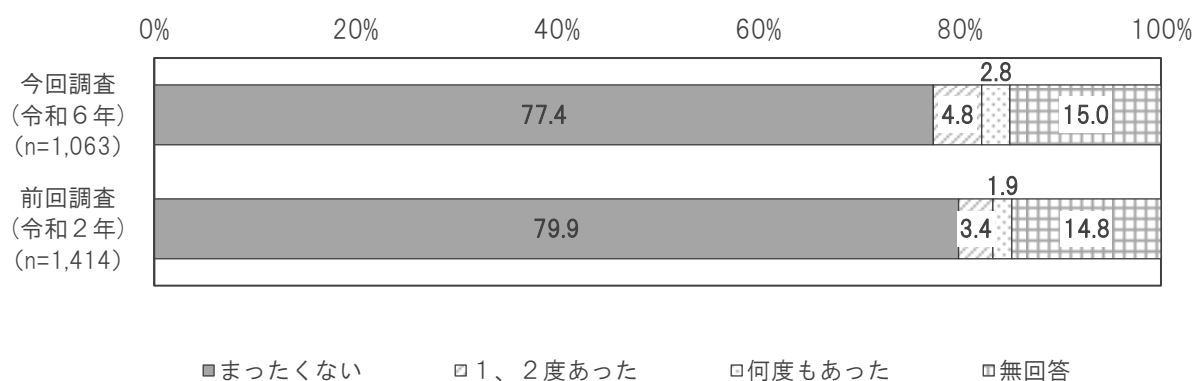
- ・家族や友人との関わりを持たせてもらえないことに対する経験については、「まったくない」が79.4%と8割近くを占め最も高くなっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「まったくない」が低くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	ま っ た く な い	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	無 回 答
全体		1063	79.4	3.0	2.4	15.2
性別	男性	372	81.5	2.4	1.1	15.1
	女性	605	80.5	3.3	3.1	13.1
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	62.7	3.6	2.4	31.3
年代	18～29歳	84	84.5	3.6	3.6	8.3
	30～39歳	149	84.6	4.7	2.7	8.1
	40～49歳	161	80.7	5.6	5.0	8.7
	50～59歳	170	85.3	3.5	1.2	10.0
	60～69歳	185	79.5	2.2	2.2	16.2
	70歳以上	278	72.7	0.7	1.1	25.5
	無回答	36	63.9	2.8	2.8	30.6

オ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

- 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視されることに対する経験については、「まったくくない」が77.4%と7割以上を占め最も高くなっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では『経験がある』（「1、2度あった」+「何度もあった」）が低くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	まったくくない	1、2度あった	何度もあった	無回答
全体		1063	77.4	4.8	2.8	15.0
性別	男性	372	79.8	3.8	1.9	14.5
	女性	605	78.3	5.5	3.3	12.9
	その他	3	33.3	-	33.3	33.3
	無回答	83	61.4	4.8	2.4	31.3
年代	18～29歳	84	83.3	7.1	1.2	8.3
	30～39歳	149	82.6	4.7	4.7	8.1
	40～49歳	161	77.0	8.1	6.2	8.7
	50～59歳	170	82.9	5.9	1.8	9.4
	60～69歳	185	75.1	7.0	1.6	16.2
	70歳以上	278	72.7	0.4	2.2	24.8
	無回答	36	66.7	2.8	-	30.6

カ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限したりする

- 職場に行くことを妨害されたり、外出先を制限されることに対する経験については、「まったくない」が80.6%と8割以上を占め最も高くなっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「まったくない」が低くなっています。



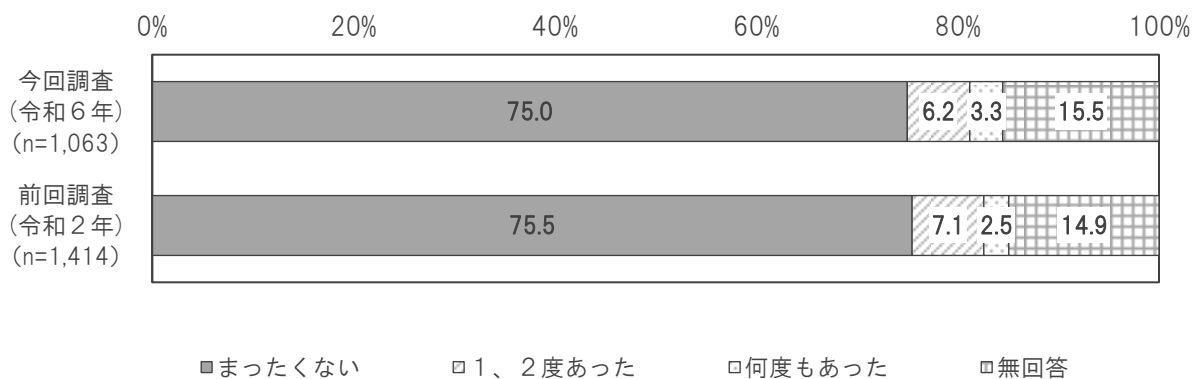
☐ まったくない
 ☐ 1、2度あった
 ☐ 何度もあった
 ☐ 無回答

※設問文について、前回調査から表現の変更あり

		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答
全体		1063	80.6	2.8	1.6	15.0
性別	男性	372	82.0	2.7	1.3	14.0
	女性	605	82.5	2.5	1.8	13.2
	その他	3	33.3	33.3	-	33.3
	無回答	83	62.7	4.8	1.2	31.3
年代	18～29歳	84	85.7	4.8	1.2	8.3
	30～39歳	149	89.3	2.7	1.3	6.7
	40～49歳	161	82.0	5.0	3.7	9.3
	50～59歳	170	87.1	3.5	-	9.4
	60～69歳	185	78.4	3.8	2.2	15.7
	70歳以上	278	73.0	-	1.4	25.5
	無回答	36	66.7	2.8	-	30.6

キ 何を言っても長期間無視し続ける

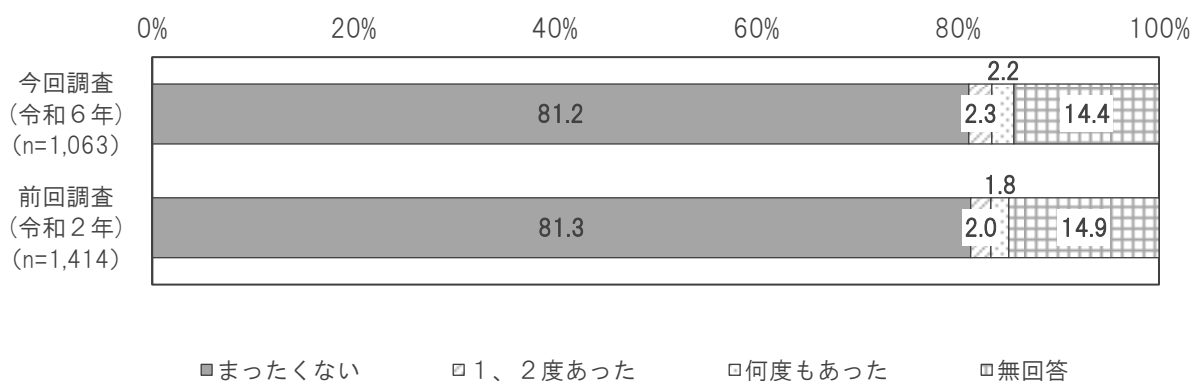
- 何を言っても長期間無視し続けられることに対する経験については、「まったくない」が75.0%と7割以上を占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は9.5%と、1割近くの人が経験がある結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29歳では「まったくない」が高くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	ま っ た く な い	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	無 回 答
全体		1063	75.0	6.2	3.3	15.5
性別	男性	372	75.5	7.0	2.4	15.1
	女性	605	77.4	6.0	3.5	13.2
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	55.4	4.8	6.0	33.7
年代	18～29歳	84	90.5	-	1.2	8.3
	30～39歳	149	78.5	7.4	4.7	9.4
	40～49歳	161	75.2	9.3	6.2	9.3
	50～59歳	170	77.6	8.2	5.3	8.8
	60～69歳	185	72.4	8.6	1.6	17.3
	70歳以上	278	70.1	3.2	1.1	25.5
	無回答	36	61.1	2.8	5.6	30.6

ク 家計に必要な生活費を渡さない

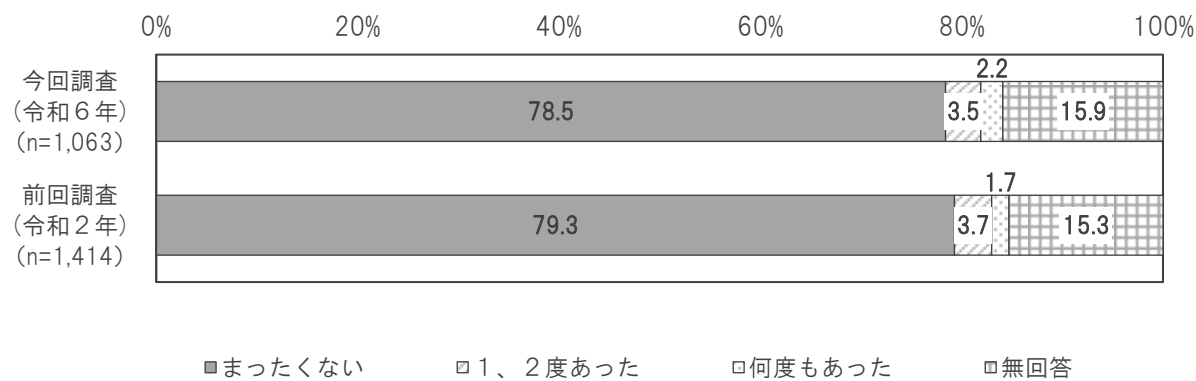
- ・家計に必要な生活費を渡されないことに対する経験については、「まったくない」が81.2%と8割以上を占め最も高くなっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「まったくない」が低くなっています。



		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答
全体		1063	81.2	2.3	2.2	14.4
性別	男性	372	83.9	0.5	1.3	14.2
	女性	605	82.0	3.5	2.5	12.1
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	63.9	1.2	3.6	31.3
年代	18～29歳	84	89.3	1.2	1.2	8.3
	30～39歳	149	87.2	1.3	3.4	8.1
	40～49歳	161	85.7	2.5	3.7	8.1
	50～59歳	170	84.7	4.1	2.9	8.2
	60～69歳	185	80.0	2.7	1.6	15.7
	70歳以上	278	73.0	1.8	1.1	24.1
	無回答	36	69.4	-	-	30.6

ケ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

- 嫌がっているのに性的な行為を強要される、避妊に協力してもらえないことに対する経験については、「まったくない」が78.5%と8割近くを占め最も高くなっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、『経験がある』（「1、2度あった」+「何度もあった」）が女性で8.1%と、男性（1.3%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上では「まったくない」が低くなっています。

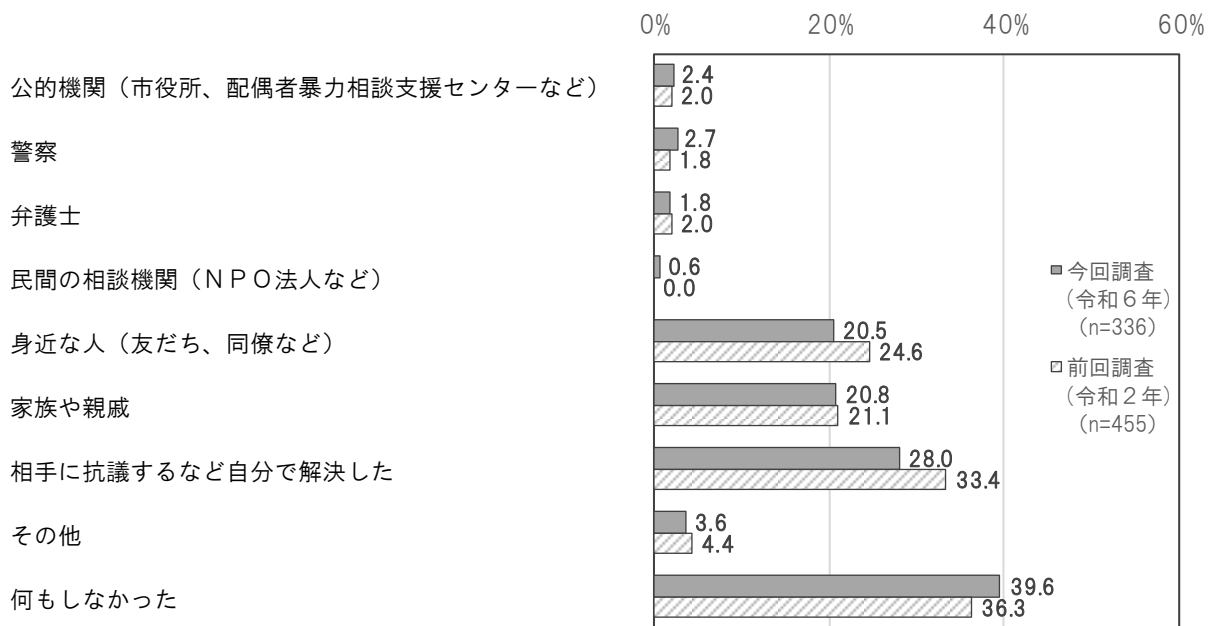


		単位 (%)				
区分		調査数 (件)	まったく ない	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	無 回 答
全体		1063	78.5	3.5	2.2	15.9
性別	男性	372	83.9	0.5	0.8	14.8
	女性	605	77.7	5.1	3.0	14.2
	その他	3	66.7	-	-	33.3
	無回答	83	60.2	4.8	2.4	32.5
年代	18～29歳	84	82.1	6.0	3.6	8.3
	30～39歳	149	86.6	3.4	2.0	8.1
	40～49歳	161	80.7	5.6	4.3	9.3
	50～59歳	170	83.5	4.1	1.8	10.6
	60～69歳	185	77.3	3.2	1.1	18.4
	70歳以上	278	71.2	1.1	1.8	25.9
	無回答	36	63.9	5.6	-	30.6

[2] DVへの対応について

問 25	問 24 (2) で「1、2度あった」、「何度もあった」に1つでも○がついた方にお聞きします。あなたがそのような行為を受けた時、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	--

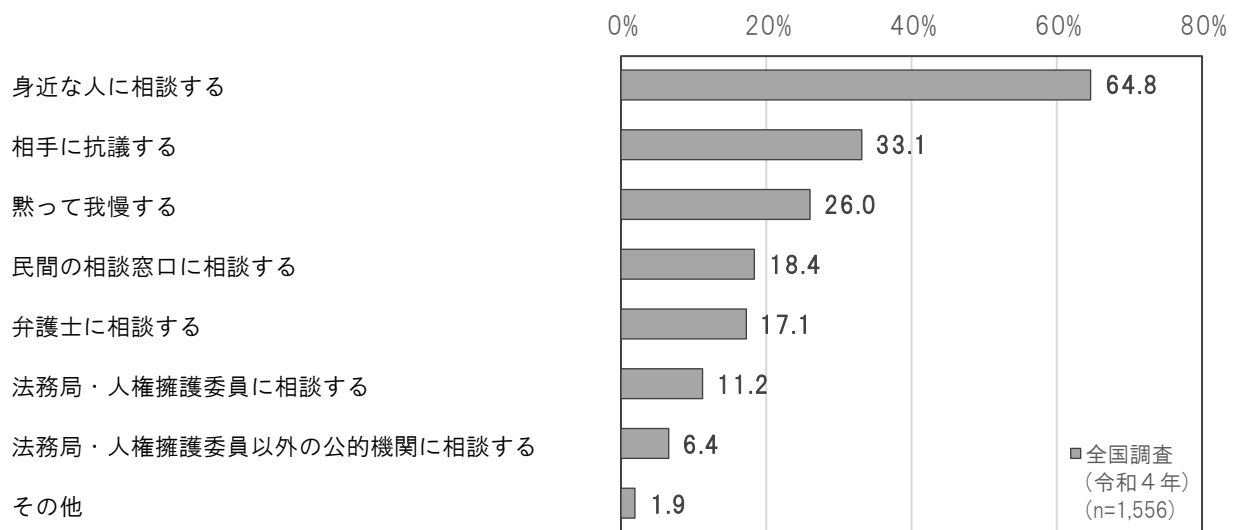
- DVへの対応については、「何もしなかった」が39.6%と4割近くを占め最も高く、次いで「相手に抗議するなど自分で解決した」(28.0%)、「家族や親戚」(20.8%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「相手に抗議するなど自分で解決した」が5.4ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「家族や親戚」、「身近な人(友だち、同僚など)」、「相手に抗議するなど自分で解決した」は女性が男性より高く、「何もしなかった」は男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、40～49歳では「相手に抗議するなど自分で解決した」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、70歳以上では「身近な人(友だち、同僚など)」が低くなっています。



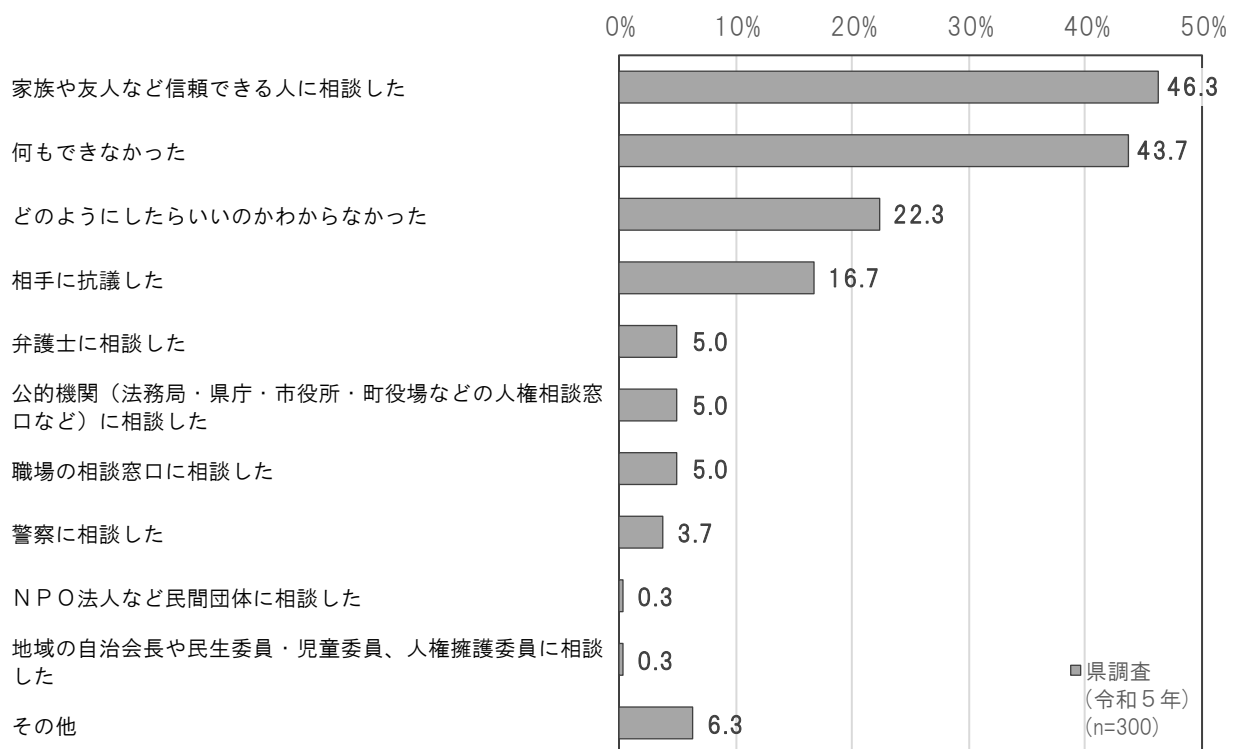
単位 (%)

区分		調査数 (件)	公的機関 (市役所、 ターなど)	警察	弁護士	民間の相談 機関(NPO 法人など)	身近な人 (友だち、 同僚など)	家族や親 戚	相手に抗議 するなど自 分で解決し た	その他	何もしな かった	無回 答
全体		336	2.4	2.7	1.8	0.6	20.5	20.8	28.0	3.6	39.6	8.3
性別	男性	103	1.9	1.9	1.0	1.9	13.6	12.6	24.3	6.8	44.7	9.7
	女性	210	2.4	3.3	2.4	-	25.2	25.7	30.0	2.4	35.7	6.7
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	無回答	21	4.8	-	-	-	9.5	14.3	28.6	-	52.4	14.3
年代	18～29歳	17	5.9	5.9	5.9	-	29.4	17.6	11.8	5.9	41.2	5.9
	30～39歳	55	-	-	1.8	-	21.8	14.5	14.5	3.6	56.4	5.5
	40～49歳	65	1.5	3.1	3.1	-	32.3	27.7	36.9	3.1	29.2	9.2
	50～59歳	66	3.0	3.0	-	1.5	19.7	22.7	25.8	3.0	39.4	13.6
	60～69歳	66	3.0	4.5	3.0	1.5	18.2	19.7	30.3	4.5	37.9	6.1
	70歳以上	61	1.6	1.6	-	-	8.2	16.4	32.8	3.3	39.3	6.6
	無回答	6	16.7	-	-	-	16.7	50.0	50.0	-	16.7	16.7

【参考※：全国調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、全国調査との比較は行っていません。



【参考※：県調査】 ※今回調査とは選択肢の項目の違いがあるため、県調査との比較は行っていません。

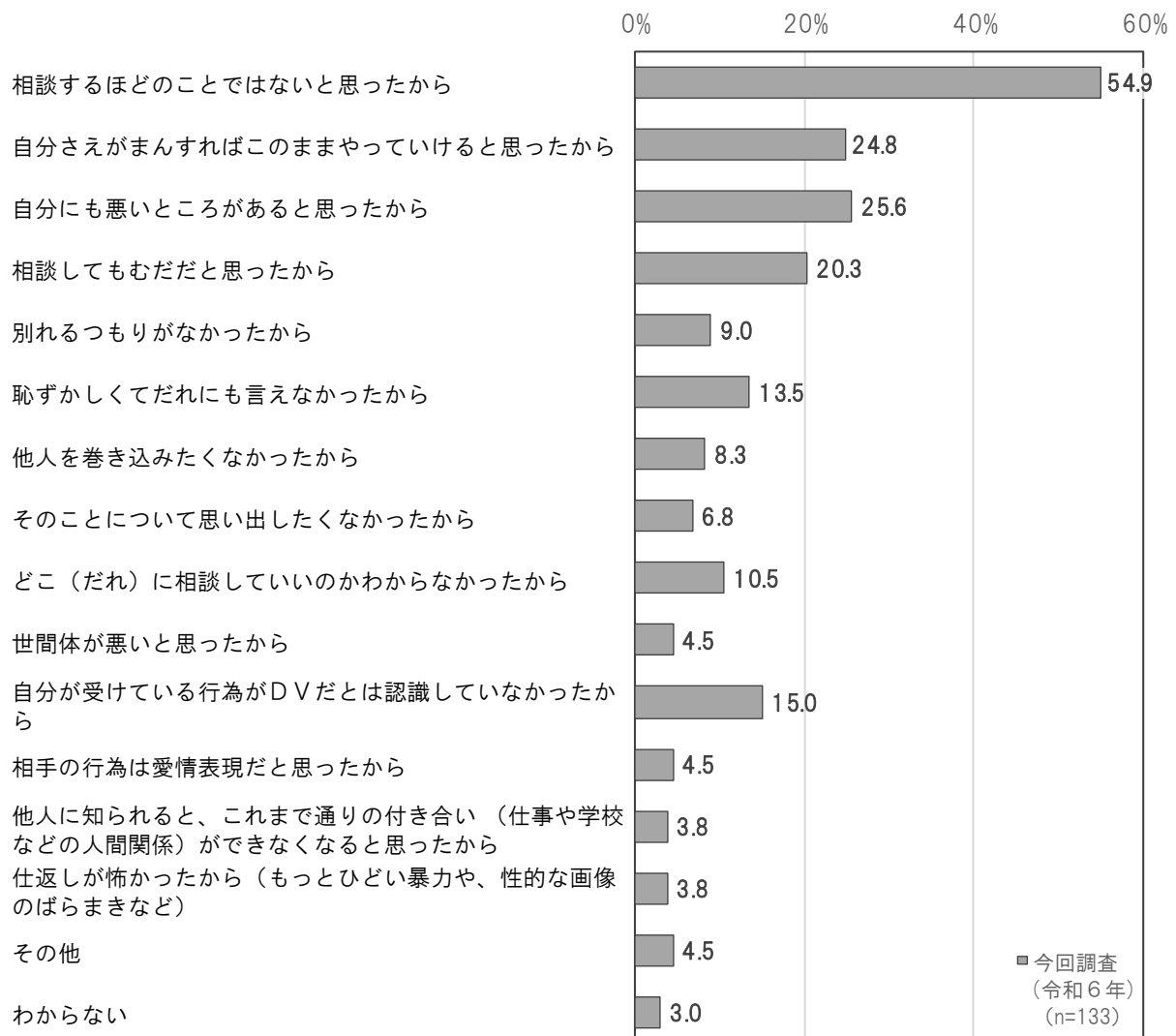


[3] D Vを受けたときに何もしなかった理由

問 26

問 25 で「何もしなかった」と回答された方にお聞きします。それはなぜですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- D Vを受けたときに何もしなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 54.9%と半数以上を占め最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(25.6%)、「自分さえがまんすればこのままやっていけると思ったから」(24.8%) となっています。
- 性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性が女性より高く、「自分が受けている行為がD Vだとは認識していなかったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、40～49 歳では「どこ（だれ）に相談していいのかわからなかったから」、「他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなるといったから」が高く、他の年代に比べ、70 歳以上では「他人を巻き込みたくなかったから」が高くなっています。



単位 (%)

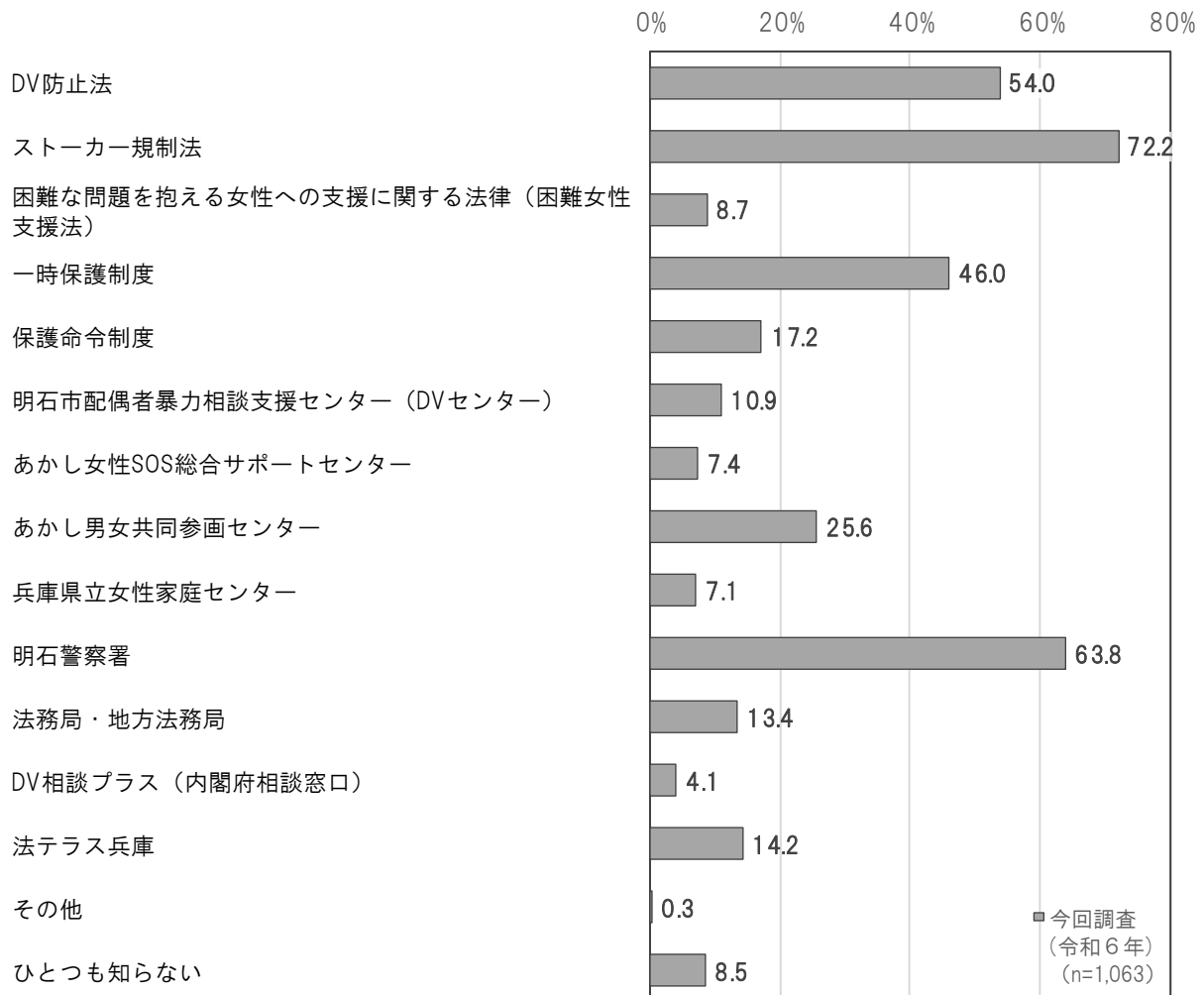
区分		調査数（件）	相談するほどのことではないと思ったから	自分さえがまんすればこのままやっていけると 思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談してもむだだと思ったから	別れるつもりがなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	どこ（だれ）に相談していいのかわからなかったから	世間体が悪いと思ったから	自分が受けている行為がDVだとは認識していなかったから	相手の行為は愛情表現だと思ったから	他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると 思ったから	仕返しが怖かったから（もつとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	その他	わからない	無回答
全体		133	54.9	24.8	25.6	20.3	9.0	13.5	8.3	6.8	10.5	4.5	15.0	4.5	3.8	3.8	4.5	3.0	-
性別	男性	46	67.4	26.1	28.3	19.6	6.5	6.5	6.5	2.2	6.5	4.3	6.5	4.3	4.3	2.2	2.2	2.2	-
	女性	75	49.3	24.0	22.7	18.7	9.3	17.3	9.3	6.7	9.3	2.7	21.3	5.3	2.7	4.0	6.7	2.7	-
	その他	1	100.0	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	11	36.4	27.3	27.3	36.4	9.1	18.2	9.1	27.3	36.4	18.2	9.1	-	9.1	9.1	-	9.1	-
年代	18～29歳	7	57.1	28.6	28.6	57.1	-	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	-	14.3	-	-	-
	30～39歳	31	51.6	29.0	19.4	22.6	9.7	6.5	6.5	-	6.5	-	6.5	6.5	3.2	-	6.5	6.5	-
	40～49歳	19	31.6	10.5	21.1	10.5	5.3	21.1	5.3	10.5	26.3	-	15.8	-	10.5	5.3	5.3	5.3	-
	50～59歳	26	57.7	23.1	19.2	15.4	3.8	7.7	-	7.7	7.7	3.8	3.8	-	3.8	3.8	3.8	3.8	-
	60～69歳	25	60.0	24.0	32.0	24.0	12.0	12.0	4.0	8.0	12.0	4.0	24.0	8.0	4.0	8.0	-	-	-
	70歳以上	24	66.7	29.2	33.3	12.5	12.5	12.5	20.8	4.2	-	8.3	25.0	4.2	-	-	8.3	-	-
	無回答	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-

〔４〕DV 被害者等の支援の制度や相談窓口の認知状況について

問 27

DV 被害者等の支援の制度や相談窓口について、あなたはいくつ知っていますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- DV 被害者等の支援の制度や相談窓口の認知状況については、「ストーカー規制法」が 72.2%と 7 割以上を占め最も高く、次いで「明石警察署」(63.8%)、「DV 防止法」(54.0%)となっています。
- 性別にみると、「一時保護制度」、「あかし男女共同参画センター」、「あかし女性 SOS 総合サポートセンター」は女性が男性より高くなっております。
- 年代別にみると、30～39 歳では「明石警察署」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、18～29 歳では「ひとつも知らない」が高くなっています。



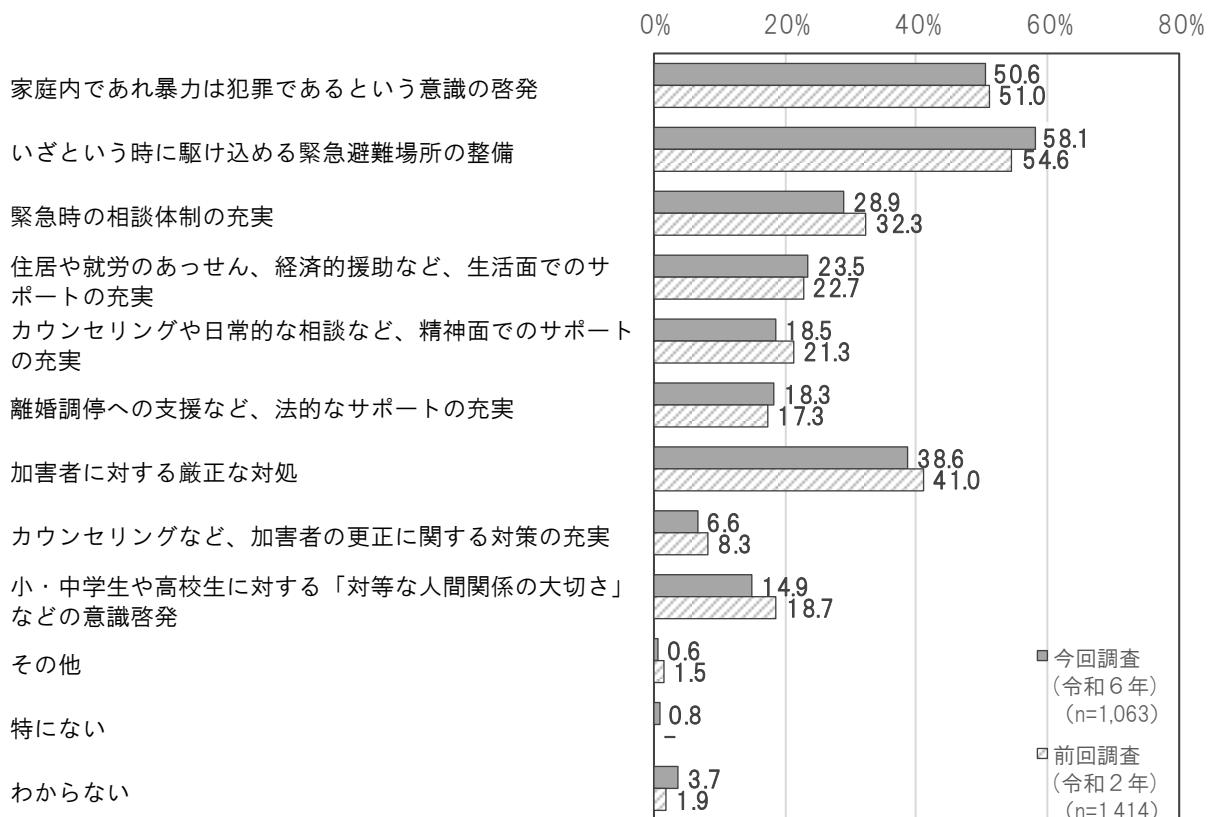
単位 (%)

区分		調査数（件）	D V 防止法	ストーカー規制法	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（困難女性支援法）	一時保護制度	保護命令制度	明石市配偶者暴力相談支援センター（D V センター）	あかし女性 S O S 総合サポートセンター	あかし男女共同参画センター	兵庫県立女性家庭センター	明石警察署	法務局・地方法務局	D V 相談プラス（内閣府相談窓口）	法テラス兵庫	その他	ひとも知らない	無回答
全体		1063	54.0	72.2	8.7	46.0	17.2	10.9	7.4	25.6	7.1	63.8	13.4	4.1	14.2	0.3	8.5	4.5
性別	男性	372	53.8	71.2	6.2	38.2	18.8	8.1	2.7	17.7	5.4	66.9	14.8	3.0	12.6	0.5	9.4	4.6
	女性	605	55.5	74.9	10.6	52.4	17.4	12.7	11.1	30.9	8.3	64.5	13.2	5.1	15.9	0.2	7.4	3.1
	その他	3	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	-
	無回答	83	43.4	57.8	4.8	33.7	7.2	9.6	1.2	21.7	4.8	45.8	8.4	2.4	9.6	-	10.8	14.5
年代	18～29歳	84	50.0	56.0	4.8	27.4	9.5	8.3	2.4	22.6	2.4	54.8	8.3	7.1	16.7	-	22.6	2.4
	30～39歳	149	53.7	69.1	9.4	45.6	14.8	12.8	8.7	18.8	8.1	69.8	9.4	3.4	12.1	-	7.4	2.7
	40～49歳	161	57.1	78.9	6.2	49.1	16.1	11.2	11.8	24.8	5.0	65.2	11.2	3.7	16.8	-	6.2	0.6
	50～59歳	170	60.6	80.6	9.4	52.9	20.0	10.6	5.9	32.4	8.8	68.2	19.4	5.9	17.6	1.8	3.5	1.2
	60～69歳	185	62.7	84.9	10.8	53.0	24.9	10.8	8.6	27.6	10.3	69.7	16.2	5.4	15.7	-	8.1	1.6
	70歳以上	278	46.0	65.1	9.7	43.5	15.5	11.5	6.8	26.6	6.1	58.6	13.7	2.5	10.1	-	8.6	9.4
	無回答	36	36.1	44.4	2.8	27.8	11.1	5.6	-	13.9	5.6	41.7	5.6	-	13.9	-	13.9	27.8

【5】DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思うこと

問 28	DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思うことは何だと思いますか。 (3つまで選んでください)
------	--

- DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思うことについては、「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」が58.1%と6割近くを占め最も高く、次いで「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」(50.6%)、「加害者に対する厳正な対処」(38.6%)となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「緊急時の相談体制の充実」、「加害者に対する厳正な対処」、「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」は男性が女性より高く、「住居や就労のあっせん、経済的援助など、生活面でのサポートの充実」、「離婚調停への支援など、法的なサポートの充実」は女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、18～29歳では「離婚調停への支援など、法的なサポートの充実」、「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」が高くなっています。



※設問文について、前回調査から表現の変更あり
※今回調査で、「特になし」が追加

単位 (%)

区分		調査数 (件)	家庭内で あれ暴力は 犯罪である という意識 の啓発	いざという 時に駆け込 める緊急避 難場所の整 備	緊急時の 相談体制の 充実	住居や就労 のあつせん 、経済的援 助など、生 活面でのサ ポートの充 実	カウンセリ ングや日常 的な相談な ど、精神面 でのサポート の充実	離婚調停へ の支援など 、法的なサ ポートの充 実	加害者に対 する厳正な 対処	カウンセリ ングなど、 加害者の更 正に関する 対策の充実	小・中学生 や高校生に 対する「対 等な人間関 係の大切さ 」などの意 識啓発	その他	特にな い	わから ない	無回 答
全体		1063	50.6	58.1	28.9	23.5	18.5	18.3	38.6	6.6	14.9	0.6	0.8	3.7	2.3
性別	男性	372	49.2	61.8	36.0	17.2	18.5	14.5	43.8	6.5	12.4	1.6	1.3	3.2	1.1
	女性	605	51.6	56.5	25.5	28.8	19.3	21.8	37.4	6.6	17.2	-	0.7	3.8	0.7
	その他	3	33.3	100.0	-	33.3	-	66.7	66.7	-	-	-	-	-	-
	無回答	83	50.6	51.8	22.9	13.3	13.3	8.4	22.9	7.2	9.6	-	-	4.8	19.3
年代	18～29歳	84	31.0	72.6	20.2	19.0	23.8	33.3	48.8	8.3	10.7	-	-	2.4	-
	30～39歳	149	45.0	63.8	26.8	30.2	20.8	22.8	43.0	5.4	10.7	0.7	0.7	0.7	-
	40～49歳	161	50.9	64.0	24.8	25.5	18.0	19.9	44.7	11.2	17.4	1.2	-	2.5	-
	50～59歳	170	51.2	61.2	35.9	29.4	15.3	20.6	41.2	5.3	14.1	0.6	-	1.2	0.6
	60～69歳	185	55.7	58.4	39.5	22.2	22.2	17.8	34.6	5.4	13.0	-	0.5	3.8	1.1
	70歳以上	278	56.5	48.2	26.6	20.1	16.9	10.8	32.4	5.8	19.4	0.7	2.5	7.6	2.5
	無回答	36	44.4	36.1	5.6	2.8	8.3	8.3	25.0	5.6	8.3	-	-	5.6	38.9

5. 自由記述

問 29	日ごろから人権について感じていること、また、人権が尊重され、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを実現するために、あなたができると思うことなど、どのようなことでもかまいませんので、下欄に自由にお書きください。
------	--

- ・自由意見については、349 件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっています。（1 つの自由意見で複数に分類されている意見があるため件数の合計は 465 件となっています。）

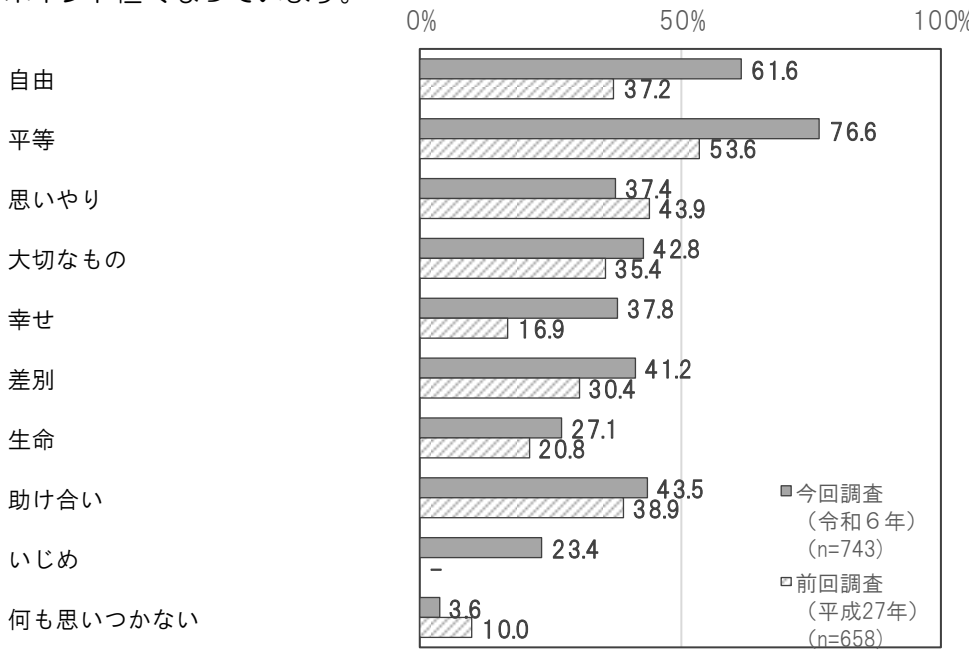
自由意見カテゴリー	件数
(1) 人権意識・問題に関して	189 件
(2) 人権教育・啓発に関して	65 件
(3) 子どもに関して	32 件
(4) 人権に関する相談・サポートに関して	28 件
(5) 男女共同参画に関して	20 件
(6) 障害のある人に関して	14 件
(7) 同和問題に関して	13 件
(8) 性的少数者に関して	13 件
(9) 職場・働き方に関して	13 件
(10) 外国人に関して	11 件
(11) アンケートに関して	10 件
(12) 高齢者に関して	7 件
(13) インターネットについて	5 件
(14) その他	45 件
合計	465 件

小学 6 年生の調査結果

質問 1 は巻末資料 P133 をご覧ください。

質問 2	「人権」という言葉を聞いてどんなことを思い浮かべますか。 (いくつ選んでもかまいません)
------	---

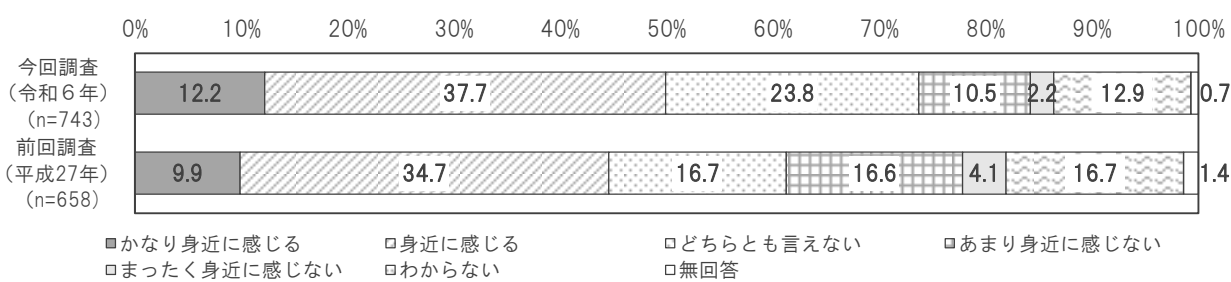
- ・「人権」という言葉を聞いて思い浮かべることについては、「平等」が 76.6%と7割以上を占め最も高く、次いで「自由」(61.6%)、「助け合い」(43.5%) となっています。
- ・前回調査と比較すると、「自由」が 24.4 ポイント、「平等」が 23.0 ポイント、「幸せ」が 20.9 ポイント高くなっています。一方で、「思いやり」の割合が 6.5 ポイント、「何も思いつかない」が 6.4 ポイント低くなっています。



※選択肢について、前回調査から選択肢の追加・削除、表現の変更あり

質問 3	「人権」という言葉を身近に感じますか。
------	---------------------

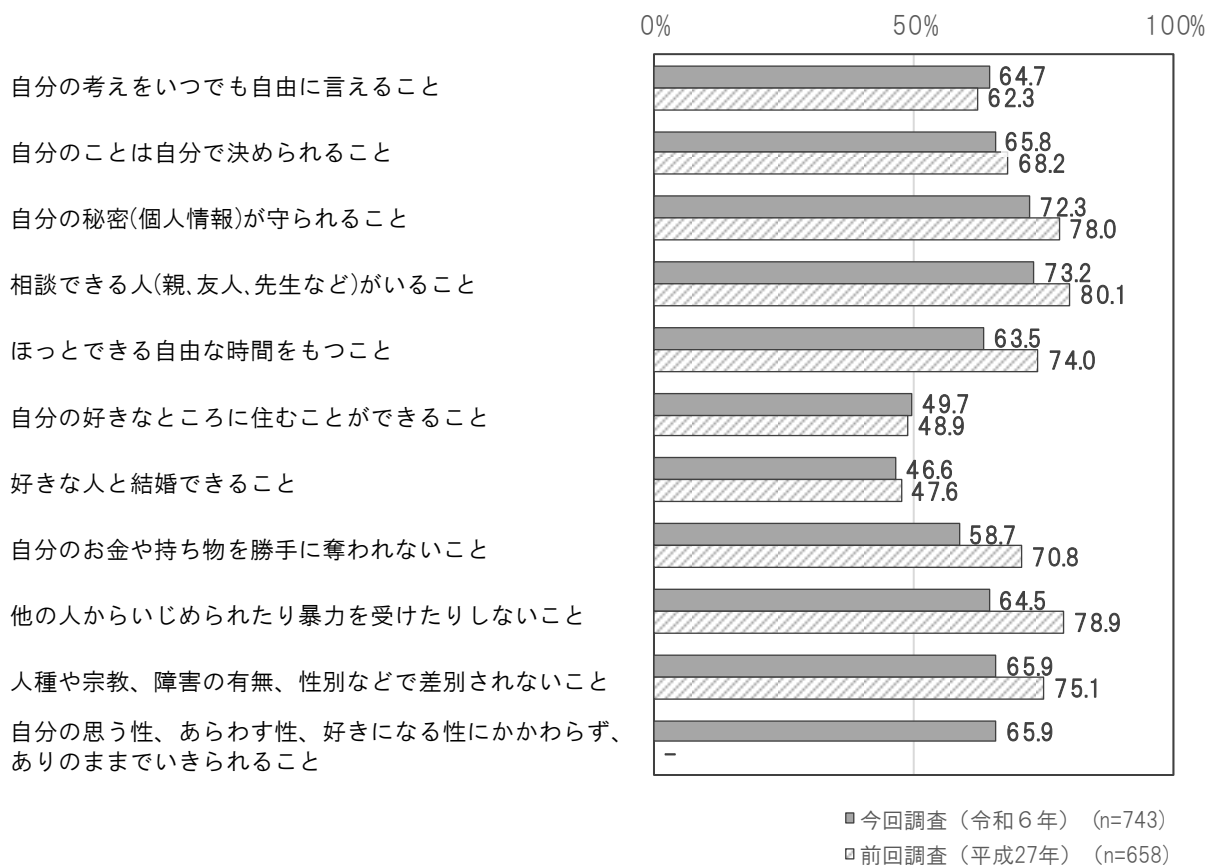
- ・「人権」という言葉を身近に感じるかについては、「身近に感じる」が 37.7%と3割以上を占め最も高く、「かなり身近に感じる」を合わせた『身近に感じる』が 49.9%と半数近くとなっています。一方で、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた『身近に感じない』が 12.7%となっています。
- ・前回調査と比較すると、『身近に感じない』が 8.0 ポイント低くなっています。



※前回調査では「少し身近に感じる」の文言で調査を実施

質問4 次の項目の中で、大切だと思うことは何ですか。(いくつ選んでもかまいません)

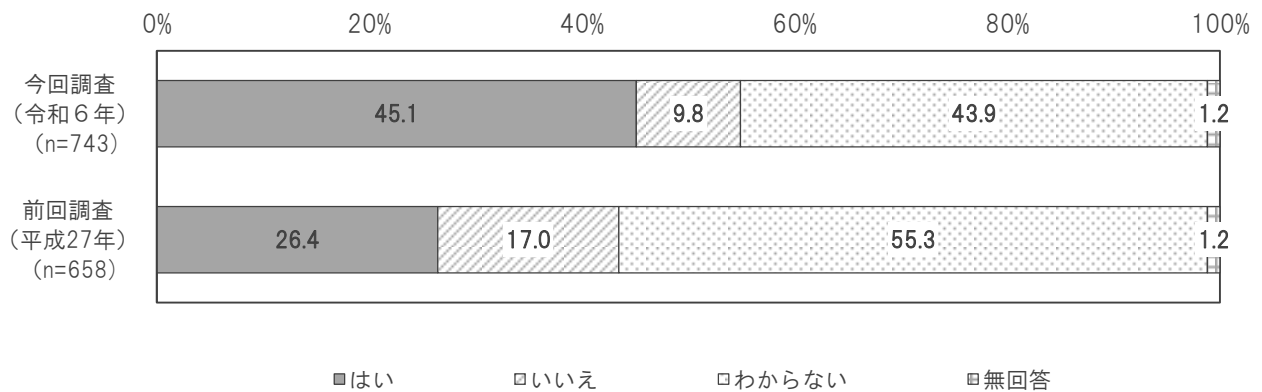
- ・大切だと思うことについては、「相談できる人(親、友人、先生など)がいること」が73.2%と7割以上を占め最も高く、次いで「自分の秘密(個人情報)が守られること」(72.3%)、「人種や宗教、障害の有無、性別などで差別されないこと」、「自分の思う性、あらわす性、好きになる性にかかわらず、ありのままでいけること」(65.9%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「他の人からいじめられたり暴力を受けたりしないこと」が14.4ポイント、「自分のお金や持ち物を勝手に奪われないこと」が12.1ポイント、「ほっとできる自由な時間をもつこと」が10.5ポイント、「人種や宗教、障害の有無、性別などで差別されないこと」が9.2ポイント、「相談できる人(親、友人、先生など)がいること」が6.9ポイント、「自分の秘密(個人情報)が守られること」が5.7ポイント低くなっています。



※今回調査で「自分の思う性、あらわす性、好きになる性にかかわらず、ありのままでいけること」が追加

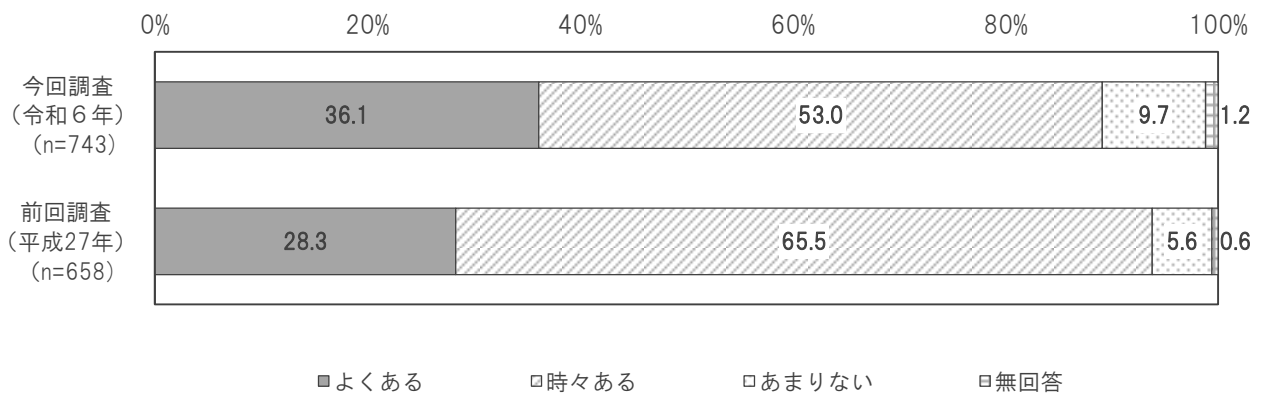
質問5	自分のことが好きですか。
-----	--------------

- 自分のことが好きかについては、「はい」が45.1%と4割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(43.9%)、「いいえ」(9.8%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「はい」が18.7ポイント高くなっています。一方で、「わからない」が11.4ポイント、「いいえ」が7.2ポイント低くなっています。



質問6	大人（親など）からよくほめられますか。
-----	---------------------

- ・大人（親など）からよくほめられるかについては、「時々ある」が53.0%と半数以上を占め最も高く、次いで「よくある」（36.1%）、「あまりない」（9.7%）となっています。
- ・前回調査と比較すると、「よくある」が7.8ポイント高く、「時々ある」が12.5ポイント低くなっています。

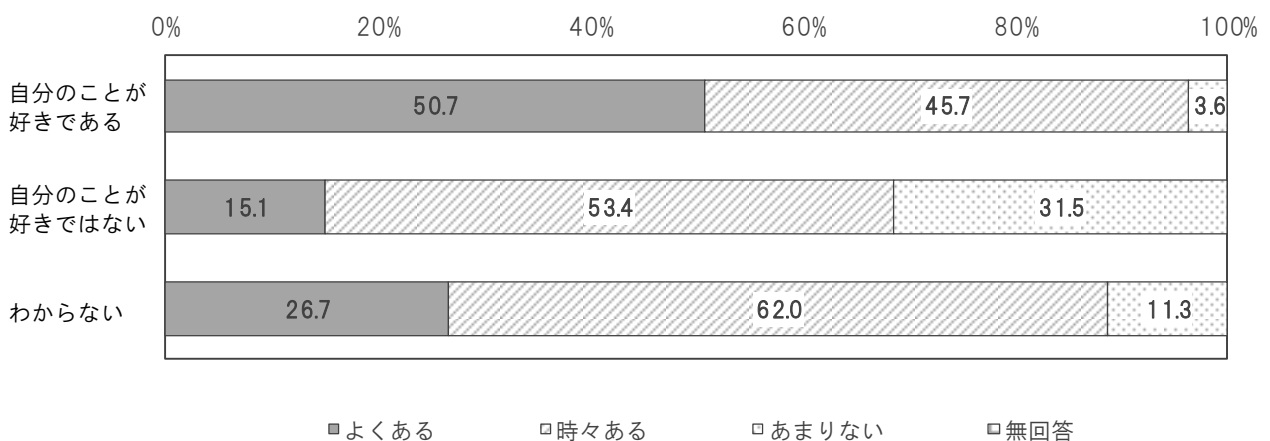


※今回調査で、「まったくない」が「あまりない」に変更

【自尊感情（自分のことが好きか）との関連】

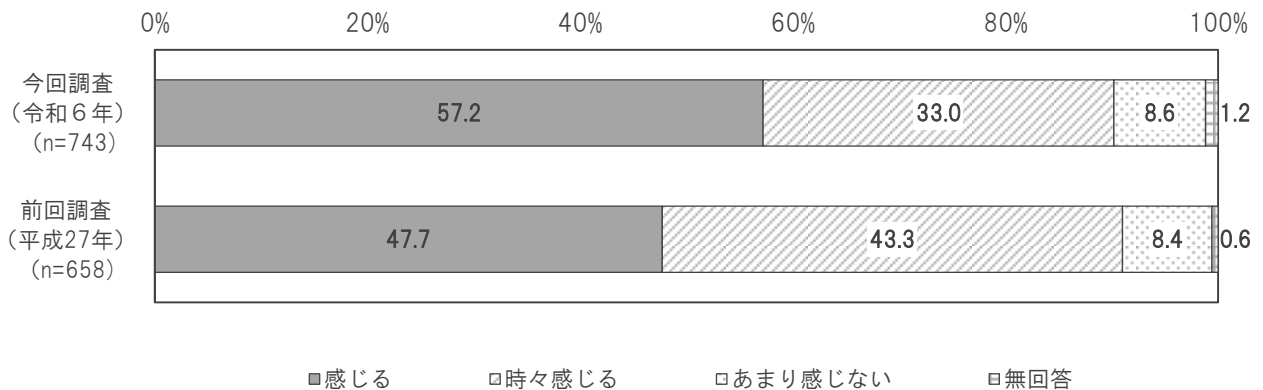
◆自尊感情（問5） × 大人からほめられること（問6）

- ・自尊感情（自分のことが好きか）との関係をみると、自分のことが好きである子どもは大人からほめられることが「よくある」が50.7%と、自分のことが好きではない子どもの3倍以上と非常に高くなっています。



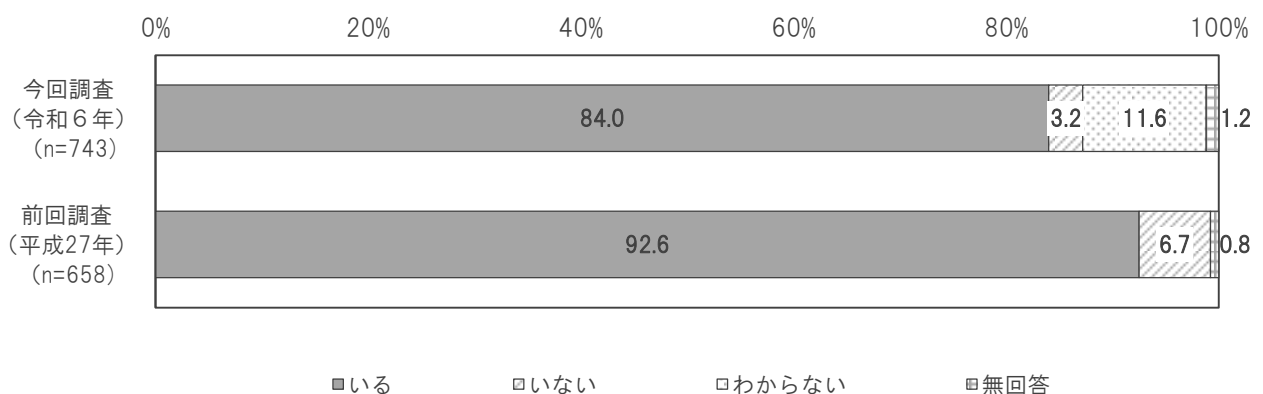
質問7 今、自分は幸せだと感じますか。

- ・今、自分は幸せだと感じるかについては、「感じる」が57.2%と半数以上を占め最も高く、次いで「時々感じる」(33.0%)、「あまり感じない」(8.6%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「感じる」が9.5ポイント高く、「時々感じる」が10.3ポイント低くなっています。



質問8 困ったことがあった時、相談できる人はいますか。

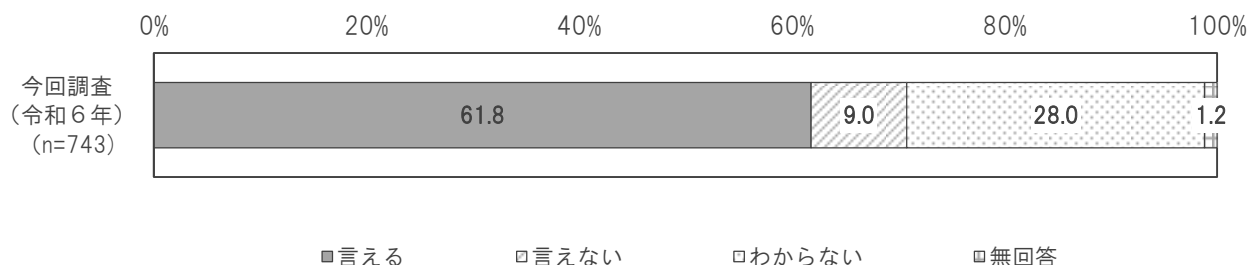
- ・困ったことがあった時、相談できる人がいるかについては、「いる」が84.0%と8割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(11.6%)、「いない」(3.2%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「いる」が8.6ポイント低くなっています。



※今回調査で、「わからない」が追加

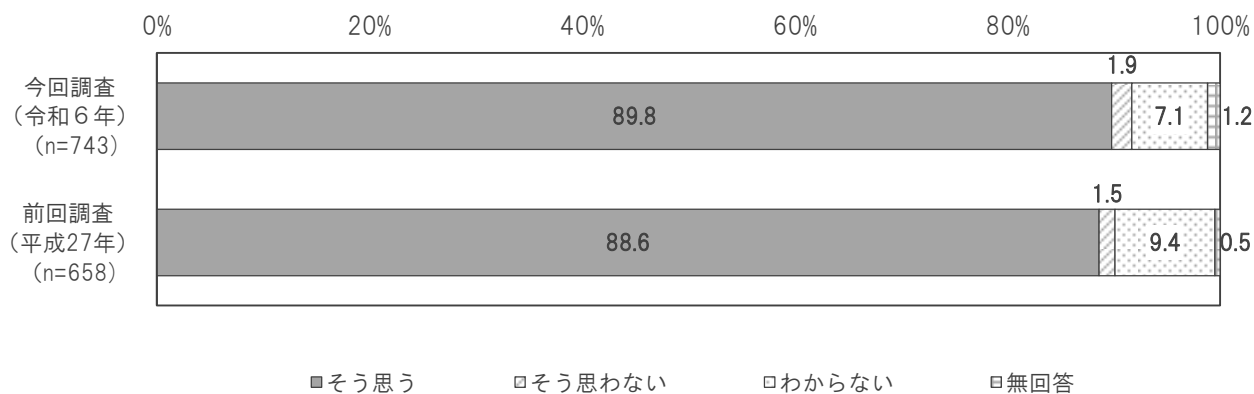
質問 9	大人に自分の考えや意見を自由に言えますか。
------	-----------------------

- 大人に自分の考えや意見を自由に言えるかについては、「言える」が61.8%と6割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(28.0%)、「言えない」(9.0%)となっています。



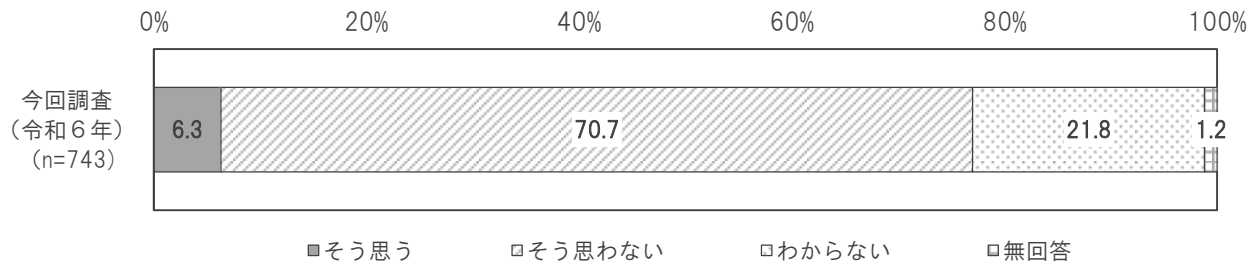
質問 10	差別や偏見(へんけん)はいけないことだ。
-------	----------------------

- 差別や偏見はいけないという考え方については、「そう思う」が89.8%と9割近くを占め最も高く、次いで「わからない」(7.1%)、「そう思わない」(1.9%)となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。



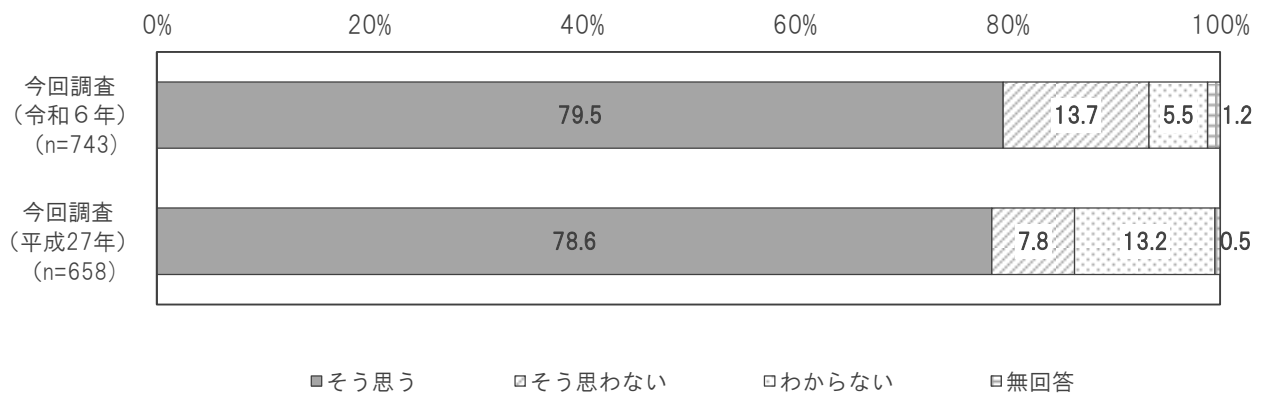
質問 11 子どものためなら、大人はたたいてもしかたがない。

- 子どものためなら、大人はたたいてもしかたがないという考え方については、「そう思わない」が70.7%と7割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(21.8%)、「そう思う」(6.3%)となっています。



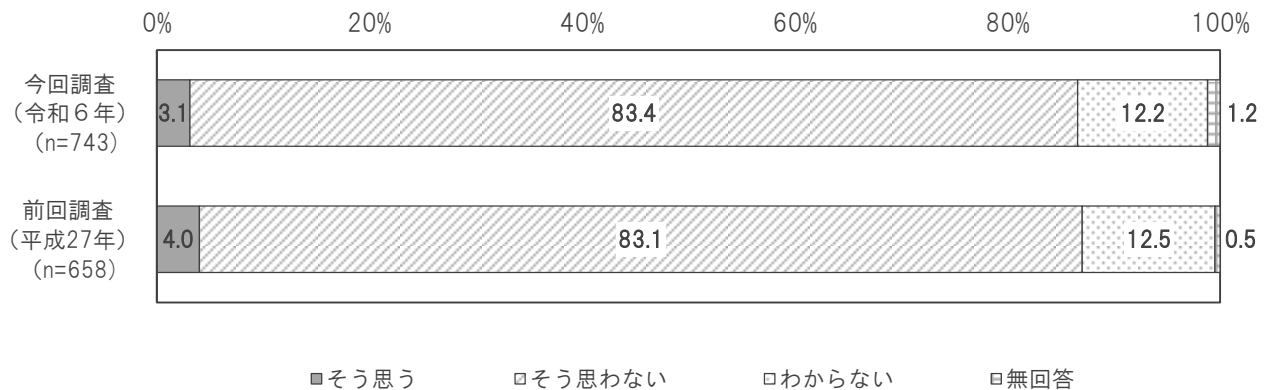
質問 12 男は「仕事」、女は「家事、育児」と役割を決めつけないほうがいい。

- 男は「仕事」、女は「家事、育児」と役割を決めつけないほうがいいという考え方については、「そう思う」が79.5%と8割近くを占め最も高く、次いで「そう思わない」(13.7%)、「わからない」(5.5%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「そう思わない」が5.9ポイント高く、「わからない」が7.7ポイント低くなっています。



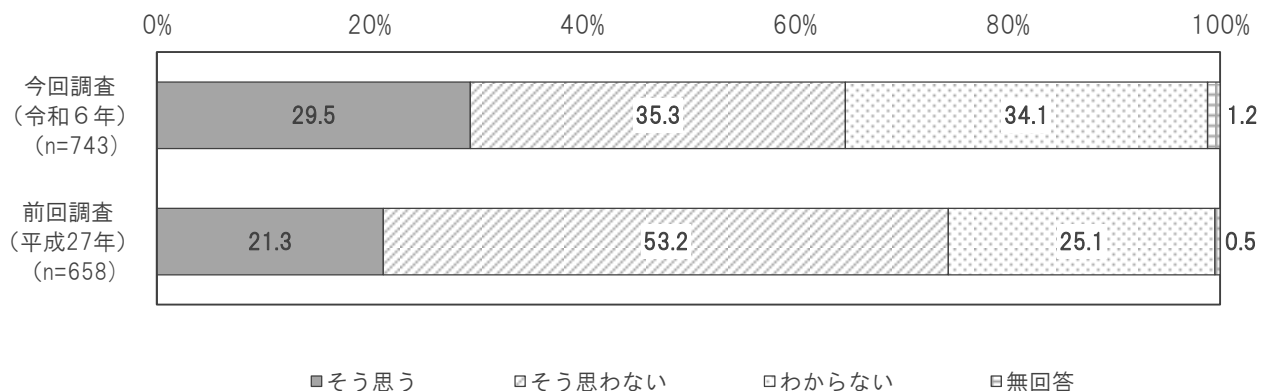
質問 13 自分がしたいことは、人に迷惑をかけてもする。

- ・自分がしたいことは、人に迷惑をかけてもするという考え方については、「そう思わない」が83.4%と8割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(12.2%)、「そう思う」(3.1%)となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。



質問 14 みんなと同じことをしていれば安心だ。

- ・みんなと同じことをしていれば安心という考え方については、「そう思わない」が35.3%と3割以上を占め最も高く、次いで「わからない」(34.1%)、「そう思う」(29.5%)となっています。
- ・前回調査と比較すると、「わからない」が9.0ポイント、「そう思う」が8.2ポイント高くなっています。一方で、「そう思わない」が17.9ポイント低くなっています。



人権・ジェンダー平等に関するアンケート

～ご協力のお願い～

日頃から市政の推進にご協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、人権啓発・ジェンダー平等を進めていく上での基礎資料として利用するためのもので、今後の誰一人取り残さない、人権感覚あふれる共生社会の実現をめざした人権尊重のまちづくり、また、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりに向けた取り組みをますます充実・発展させていくためのアンケートです。

このアンケート調査は、明石市にお住まいの18歳以上の方（2024年8月1日時点）の中から、無作為に3,000名の方を選び、調査票をお送りしています。

みなさまには、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、全部で29問です。

2024年（令和6年）10月

明 石 市

《回答にあたって》

①あて名の方、ご本人がお答えください。

②インターネットから回答できますのでご利用ください。下記のURLもしくは二次元コードを読み取ってアンケート専用ホームページにアクセスし、**2024年10月31日（木）までに**回答をお願いします。

U R L : <https://medivoice2.jp/index.php/487848>

パスワード : Akshi

※このパスワードで回答できるのはお一人様のみです。



③インターネットによる回答が難しい方は、この調査票に記入後、調査票を折りたたみ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**2024年10月31日（木）までに**投函してください。

- ・ご本人による記入が困難な場合は、家族の方等にご本人の回答を代筆していただいても結構です。
- ・名前、住所等をご記入いただく必要はありません。回答内容から個人が特定されることはありません。
- ・ご記入いただきましたご意見に対し、個別に回答は行いませんのでご了承ください。
- ・記入には濃い鉛筆（HB 以上）かボールペンを使用して下さい。擦って消せるペン等で記入されますと回答内容が消えてしまう場合があります。
- ・この調査票につきまして、ご不明な点がございましたら下記へお問い合わせください。



【お問い合わせ先】

明石市市民協働推進室人権推進課

電 話：078-918-5024

FAX：078-918-5131

メール：jinken@city.akashi.lg.jp

あなたの人権意識についてお聞きします。

【問1】あなたは、「人権」をどのくらい身近な問題として感じていますか。
あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. かなり身近に感じる | 2. 身近に感じる |
| 3. どちらとも言えない | 4. あまり身近に感じない |
| 5. まったく身近に感じない | 6. わからない |

1. 女性に関する問題

1. 女性に関する問題
2. 子どもに関する問題
3. 高齢者に関する問題
4. LGBTQ+に関する問題
5. 障害のある人に関する問題
6. 部落差別（同和問題）に関する問題
7. 外国人に関する問題
8. その他（ ）
9. 特にない

1. 子ども同士が仲間は出来ず無視、暴力などのいじめを行うこと

1. 子ども同士が仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと
2. いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする事
3. 児童や生徒が教師から体罰を受けること
4. 親（養育者）が子どもにしつけのつもりで体罰を加えること
5. 子どもに心理的な虐待（子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど）を加えること
6. 子育てを放棄すること
7. 子どもが自身の進学先、就職先の選択について意見しても、大人に無視されること
8. 親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること
9. 子どもがビデオ、インターネット（※1）を利用した有害情報にさらされること
10. 子どもがインターネットにより犯罪に巻き込まれること
11. 児童買春や児童ポルノの対象として商品化されること
12. 日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること
13. 子どもの意見や行動が尊重されないこと
14. その他（ ）
15. 特になし
16. わからない

※1 インターネットは、SNS・掲示板・ホームページ・ブログなど（以降の質問でも同じ意味で使われています）

**【問4】高齢者に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(3つまで選んでください)**

1. 就職が困難であったり、雇用と待遇が十分保障されていなかったりすること
2. 悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと
3. 高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと
4. 道路や建物に段差があったり、エレベーターが設置されていなかったりなど、高齢者が暮らしやすい生活環境になっていないこと
5. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
6. 居宅での介護が十分でないこと
7. 高齢者の意見や行動が尊重されないこと
8. 居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
9. 家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
10. 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
11. 認知症の高齢者の人権が尊重されないこと
12. その他 ()
13. 特にない
14. わからない

**【問5】障害のある人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(3つまで選んでください)**

1. 働く場所や機会が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと
2. 宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を正当な理由なく拒否されること
3. 賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること
4. 職場や学校で不当な扱いを受けること
5. 道路や建物に段差があったり、エレベーターが設置されていなかったりなど、障害のある人が暮らしやすい生活環境になっていないこと
6. スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できないこと
7. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
8. 居宅での介護が十分でないこと
9. 地域でグループホームなどの障害のある人の施設をつくろうとすると、周辺住民が反対すること
10. 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと
11. 情報が入手しにくい、あるいは情報のやり取りがスムーズにできないこと
12. 精神障害や発達障害など、個々の障害について十分に理解されていないこと
13. その他 ()
14. 特にない
15. わからない

【問6】LGBTQ+（※2）などの性的マイノリティのうち、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルなどといった性的指向（※3）のマイノリティに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること | |
| 2. 就職や職場で不当な扱いを受けること | |
| 3. 差別的な言動をされること | |
| 4. 賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること | |
| 5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること | |
| 6. じろじろ見られたり、避けられたりすること | |
| 7. まわりの人に自分の性的指向を話せる環境でないこと | |
| 8. 本人の同意がないままに、その人の性的指向を他の人にばらすこと | |
| 9. 同性同士で、婚姻できないこと | |
| 10. その他（ | ） |
| 11. 特にな | 12. わからない |

※2 LGBTQ+とはレズビアン（L：女性同性愛者）、ゲイ（G：男性同性愛者）、バイセクシュアル（B：両性愛者）、トランスジェンダー（T：出生時に割り当てられた性別〈生まれた時の身体の特徴を元に、医師等によって出生証明書に記され、法律上「男」か「女」に割り当てられる性別〉と性自認が異なる人）、クエスチョニング（Q：自身の性自認や性的指向が定まっていな、意図的に定めていない人）、クィア（Q：性的マイノリティを包括する言葉。元々は「変わった、奇妙な」という意味で同性愛者を侮蔑する言葉だったが、当事者が前向きな意味で使いだした経緯がある）、プラス（+：性はとても多様であり、上記以外にもたくさんの性のあり方があることから、包括的な意味を持たせている）の頭文字を並べた言葉で、性的マイノリティの人たちを表す言葉の一つとして使われている。

※3 性的指向とは人の恋愛・性愛がどのような性を対象とするかを表すもので、具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛、同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛、対象となる性を限定しない全性愛、いずれも対象としない無性愛などを指す。

【問7】LGBTQ+などの性的マイノリティのうち、出生時の性別と性自認が一致しないトランスジェンダーに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

- | | |
|---|-----------|
| 1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること | |
| 2. 就職や職場で不当な扱いを受けること | |
| 3. 差別的な言動をされること | |
| 4. 賃貸住宅への入居を正当な理由なく拒否されること | |
| 5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること | |
| 6. じろじろ見られたり、避けられたりすること | |
| 7. まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと | |
| 8. 本人の同意がないままに、その人がトランスジェンダーであることを他の人にばらすこと | |
| 9. インターネット上で、トランスジェンダーに対する差別的な書き込みがあること | |
| 10. その他（ | ） |
| 11. 特にな | 12. わからない |

【問8】 部落差別（同和問題）に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

1. 結婚問題で周囲が反対すること	
2. 就職や職場で不当な扱いをすること	
3. 人権上の配慮を欠いた差別的言動をすること	
4. 生活が貧困で、居住環境が劣悪であること	
5. 身元調査をすること	
6. 同和行政のねらいが理解されず、ねたみ意識をもつ人がいること	
7. インターネット上に差別的な書き込みがあること	
8. 旧同和地区への居住を敬遠すること	
9. すでに差別はなくなっている（同和問題はなくなっている）	
10. その他（	）
11. 特にない	12. わからない

【問9】 あなたは、旧同和地区や部落差別について、どう思いますか。ア～エそれぞれについて、①～③のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

		① そう 思う	② そう 思わ ない	③ わ か ら な い
ア	部落差別は、いまだにあると思う			
イ	旧同和地区には住みたくない			
ウ	身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい			
エ	部落差別はそっとしておけば自然になくなる			

【問10】 部落差別（同和問題）が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識	
2. 地域の人から伝えられる偏見・差別意識	
3. 職場などで伝えられる偏見・差別意識	
4. 社会全体に残る差別意識	
5. インターネットの差別的な書き込み	
6. 個人の理解不足	
7. 学校での人権教育の不十分さ	
8. 行政の人権問題の啓発の不十分さ	
9. その他（	）
10. 特にない	11. わからない

【問11】日本に居住している外国人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

1. 学校での対応や支援が不十分であること
2. 就職や職場で不当な扱いを受けること
3. 住宅の申し込みや入居で不当な扱いを受けること
4. 年金など社会保障制度で不当な扱いを受けること
5. 文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること
6. 病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること
7. 投票権が制限されるなど、政治に意見が十分反映されないこと
8. 本名を名乗りにくく、通称名を使うこと
9. ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること
10. 自治会等地域社会に受け入れられないこと
11. 日本語がよくわからないことを理由に無視されること
12. 知らない人からじろじろ見られること
13. その他（）
14. 特にない
15. わからない

【問12】インターネットを悪用した人権侵害について、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（3つまで選んでください）

1. 他人へのひどい悪口（誹謗〔ひぼう〕中傷）や差別的な表現を掲載すること
2. 事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること
3. 不正アクセスのような行為によって個人情報が流出すること
4. 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
5. ポルノ画像など有害なホームページがあること
6. 悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること
7. いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと
8. 差別を助長するような情報を掲載すること
9. プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること
10. リベンジポルノ（※4）が行われていること
11. その他（）
12. 特にない
13. わからない

※4 リベンジポルノとは元交際相手の性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、仕返しのためにインターネットの掲示板やSNSなどに公表する行為のこと。（以降の質問でも同じ意味で使われています）

あなたご自身の考え方や行動、体験などについてお聞きします。

【問13】 次のア～ケそれぞれについて、①～④のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

		① そう思う	② どちらか といえ はそう 思う	③ どちらか といえ ばそう 思わない	④ そう 思わない
ア	「男は仕事、女は家庭」という考えに反対である				
イ	昇格・昇給の格差など職場での男女の待遇に違いがあるのは問題である				
ウ	人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである				
エ	差別をすることは、人間として恥すべき行為である				
オ	社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある				
カ	差別の原因は、差別された人の側にもある				
キ	「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる				
ク	人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない				
ケ	いかなる差別も、完全になくすことはむずかしい				

【問14】 あなたはこれまでに、学校の授業や職場の研修、その他の講演会などにおいて、人権や差別問題について学習したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1. 学校の授業で学習したことがある | 2. 職場の研修で学習したことがある |
| 3. 学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある | |
| 4. 学習したことがない | 5. わからない |

→ 問16へお進みください

→【問15】 (問14) で「1」、「2」、「3」のいずれかを回答された方にお聞きします。

その学習により、どのような感想を持ちましたか。

ご自身のお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 人権の大切さがよくわかった | 2. 人権侵害（差別）の現実がよくわかった |
| 3. 差別は許せないと思う気持ちが強まった | 4. 話が難しくてよくわからなかった |
| 5. 自分にはあまり関係のない話だと思った | 6. 建て前的な話でしんどかった |
| 7. その他（ | ） |
| 8. 特にない | 9. わからない |

【問16】市立厚生館についてお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

		① よく知っている	② 少しは知っている	③ 聞いたことはある	④ 知らない
ア	「市立厚生館」という施設について				
イ	「教養文化事業」として地域住民の生活文化の向上を図るため、各種教室などを開催している				
ウ	「健康増進事業」として地域住民の健康づくりのための各種教室を開催している				
エ	「地域交流促進事業」として、人権意識の向上を図るため、厚生館単独や、自治会などと連携して様々な事業を行っている				
オ	人権に関するさまざまな講演会や研修会を行っている				
カ	「こどもカフェ」や放課後の小学生の居場所を提供するなどの支援事業を行っている				

【問17】（問16）のアで「①」、「②」と回答された方にお聞きします。次のア～オそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

		① そう思う	② どちらかといえ ばそう思う	③ どちらかといえ ばそう思わない	④ そう思わない
ア	厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切である				
イ	厚生館が、地域交流の場として活用されている				
ウ	厚生館が、人権に関する問題をはじめ、さまざまな相談の窓口となっている				
エ	厚生館で開催する人権に関するさまざまな講演会や研修会は、適切である				
オ	地域にとって、厚生館は必要な施設である				

ジェンダー平等に関する考えについてお聞きします。

【問18】女性に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭など」）
2. 昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い
3. 女性が働きやすい社会にするための支援制度の不備
4. 女性が政策決定や方針決定に参画する機会が少ないこと（女性の政治家や管理職が少ないなど）
5. 女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること
6. その他（ ）
7. 特にない
8. わからない

【問19】SDGs（※5）の中にジェンダー平等（※6）について定められていることを知っていますか。
あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている
2. SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない
3. SDGsについて、聞いたことがない

※5 SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは2015年9月に国連サミットにおいて全会一致で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）であり、2030年までを計画期間として、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、国際社会で取り組む17の目標のこと。

※6 ジェンダー平等とは市民一人ひとりが、社会的・文化的に形成された性別並びに性自認、性的指向及び性表現にかかわらず、等しく権利、資源、機会、責任等を有し、その個性及び能力を十分に発揮できる状態をいう。（「あかしジェンダー平等の推進に関する条例」第2条より）（以降の質問でも同じ意味で使われています）

【問20】日常生活の中で、男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）を感じることはありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. よく感じる
2. 時々感じる
3. あまり感じない
4. まったく感じない

【問21】あなたは、仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動を両立するために、職場や地域においてどのような取り組みが進めばいいと思いますか。（1）～（5）それぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

（1）長時間労働の抑制について

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 1. 定時退社の推奨（定時退社日の設定など） | |
| 2. 時間外労働削減のための対策 | |
| 3. 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ） | |
| 4. その他（ | ） |
| 5. 特にない | 6. わからない |

（2）年次有給休暇の取得促進について

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1. 有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など） | |
| 2. 半日単位での有給休暇取得が可能 | |
| 3. 時間単位での有給休暇取得が可能 | |
| 4. その他（ | ） |
| 5. 特にない | 6. わからない |

（3）制度の整備について

- | | |
|--|-----------|
| 1. 育児休業制度の充実 | |
| 2. 介護休業制度の充実 | |
| 3. 子の看護休暇制度の充実 | |
| 4. 短時間勤務制度 | |
| 5. 在宅就業制度（テレワーク等） | |
| 6. 労働者が日々の始業・終業時刻や労働時間を自ら決める制度（フレックスタイム制度） | |
| 7. 再雇用制度（退職者をパートタイマー等で優先的に雇用する制度など） | |
| 8. その他（ | ） |
| 9. 特にない | 10. わからない |

（4）地域活動への積極的な参加について

- | | |
|---|----------|
| 1. 労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする | |
| 2. 社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める | |
| 3. 地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす | |
| 4. 地域で、日常的に交流の持てるサークル、団体等の自主的な活動を充実させる | |
| 5. 地域で、社会貢献できるボランティア活動の場を充実させる | |
| 6. その他（ | ） |
| 7. 特にない | 8. わからない |

(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発の対象について

- | | | |
|--------------|-----------------|-------------|
| 1. 職場全体（勤労者） | 2. 職場の経営者層・管理職層 | 3. 女性 |
| 4. 男性 | 5. 高齢者 | 6. 大学・専門学校生 |
| 7. 中学生・高校生 | 8. 社会全体 | |
| 9. その他（ | | ） |
| 10. 特にな | 11. わからない | |

【問22】 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行っていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください）

- | | |
|---|-----------|
| 1. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る | |
| 2. 男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす | |
| 3. 男性が家事・育児などを行うことに対する女性の抵抗感をなくす | |
| 4. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める | |
| 5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める | |
| 6. まわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する | |
| 7. 労働時間短縮や休暇制度、在宅就業制度（テレワーク等）などの情報通信技術（ICT）を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする | |
| 8. 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる | |
| 9. 男性の家事・育児などについて、啓発や相談窓口の設置、技能の研修を行う | |
| 10. その他（ | ） |
| 11. 特にな | 12. わからない |

【問23】 あなたは、ジェンダー平等社会の実現を図るために、今後行政が特に力をいれていくべきことは何だと思いますか。（3つまで選んでください）

- | | |
|--|-----------|
| 1. 政策決定の場に女性を積極的に登用する | |
| 2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する | |
| 3. 従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する | |
| 4. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進める | |
| 5. 民間企業等に対し、誰もが働きやすいような職場環境を整えるよう促す | |
| 6. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する | |
| 7. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する | |
| 8. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する | |
| 9. 性別などに起因する悩みについて、相談の場を提供する | |
| 10. 学校や家庭などで、ジェンダー平等に係る教育を進める | |
| 11. 中学・高校生に対して、性別に捉われない進路選択や職業選択ができるよう支援する | |
| 12. ジェンダー平等について広報・PRする | |
| 13. その他（ | ） |
| 14. 特にな | 15. わからない |

D V（配偶者等からの暴力）についてお聞きします。

【問24】あなたは、次のようなことが配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、(1)それを暴力だと思いませんか。また、(2)配偶者やパートナー、交際相手から受けたことがありますか。
ア～ケそれぞれについて、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

		(1)あなたの考え				(2)受けたことがある		
		①どんな場合でも 暴力にあたる	②どちらかといえば 暴力にあたる	③どちらかといえば 暴力にあたらぬ	④暴力にあたらぬ	①まったく ない	②1、2度あつた	③何度もあつた
ア	平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなぐる							
イ	なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす							
ウ	大声でどなる							
エ	家族や友人との関わりを持たせない							
オ	交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する							
カ	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限したりする							
キ	何を言っても長期間無視し続ける							
ク	家計に必要な生活費を渡さない							
ケ	嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない							

【問 25】（問 24）の「（2）受けたことがある」で点線の囲いの中に、1 つでも○がついた方にお聞きします。

あなたがそのような行為を受けた時、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 公的機関（市役所、配偶者暴力相談支援センターなど）
2. 警察
3. 弁護士
4. 民間の相談機関（NPO法人など）
5. 身近な人（友だち、同僚など）
6. 家族や親戚
7. 相手に抗議するなど自分で解決した
8. その他（
9. 何もしなかった

【問26】（問25）で「9. 何もしなかった」と回答された方にお聞きします。

それはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 自分さえがまんすればこのままやっていけると思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから
4. 相談してもむだだと思ったから
5. 別れるつもりがなかったから
6. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
7. 他人を巻き込みたくなかったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. どこ（だれ）に相談していいのかわからなかったから
10. 世間体が悪いと思ったから
11. 自分が受けている行為がDVだとは認識していなかったから
12. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
13. 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
14. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
15. その他（）
16. わからない

【問27】DV 被害者等の支援の制度や相談窓口について、あなたはいくつ知っていますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. DV 防止法
2. ストーカー規制法
3. 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（困難女性支援法）
4. 一時保護制度
5. 保護命令制度
6. 明石市配偶者暴力相談支援センター（DV センター）
7. あかし女性 SOS 総合サポートセンター
8. あかし男女共同参画センター
9. 兵庫県立女性家庭センター
10. 明石警察署
11. 法務局・地方法務局
12. DV 相談プラス（内閣府相談窓口）
13. 法テラス兵庫
14. その他（）
15. ひとつも知らない

【問28】DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思うことは何だと思いますか。
(3つまで選んでください)

1. 家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発
2. いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備
3. 緊急時の相談体制の充実
4. 住居や就労のあっせん、経済的援助など、生活面でのサポートの充実
5. カウンセリングや日常的な相談など、精神面でのサポートの充実
6. 離婚調停への支援など、法的なサポートの充実
7. 加害者に対する厳正な対処
8. カウンセリングなど、加害者の更正に関する対策の充実
9. 小・中学生や高校生に対する「対等な人間関係の大切さ」などの意識啓発
10. その他（ ）
11. 特にない
12. わからない

【問29】日ごろから人権について感じていること、また、人権が尊重され、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを実現するために、あなたができると思うことなど、どのようなことでもかまいませんので、下欄に自由にお書きください。

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

以下の質問については、これまでご回答いただいた内容に対し、性別についてはジェンダー平等に関する分析を、年齢については世代別の意識の違いに関する分析をするための項目です。よろしければ、可能な範囲でお答えください。

あなたの性別は。	（ ）
あなたの年齢は。(記入日現在)	1. 18～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳 4. 50～59 歳 5. 60～69 歳 6. 70 歳以上

ご協力いただきありがとうございました。

インターネットにて回答された方は、この調査票を返送する必要はありません。

郵送で回答される方は、**10月31日(木)**までにポストに投函してください。

人権に関するアンケート（小学校6年生用）

Q1 明石市では、みんながしあわせに暮らし、お互いの人権を大切にする
誰一人取り残さないまちをめざしています。*

このアンケートは、小学生のみなさんが普段思っていることを聞か
せてもらい、より良いまちづくりにつなげていくためのものです。

書いてもらった内容は、他の人に見せることはありませんので安心
して答えてください。

人権とは、一人ひとりの人間が自分らしく生きていくために社会に
よって認められている権利であり、誰もが生まれながらに持って
いて、すべての人が守られるためにある基本的権利です。

2024年（令和6年）9月 明石市市民協働推進室 人権推進課

☐ 読みました。

Q2 「人権」という言葉を聞いてどんなことを思い浮かべますか。 (い^{*}
くつ選んでもかまいません) (複数選択)

- ☐ 自由
- ☐ 平等
- ☐ 思いやり
- ☐ 大切なもの
- ☐ 幸せ
- ☐ 差別
- ☐ 生命
- ☐ 助け合い
- ☐ いじめ
- ☐ 何も思いつかない

Q3 「人権」という言葉を身近に感じますか。^{*}

- ☐ かなり身近に感じる
- ☐ 身近に感じる
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ あまり身近に感じない
- ☐ まったく身近に感じない
- ☐ わからない

Q4 次の項目の中で、大切だと思うことは何ですか。(いくつ選んでもか
まいません) (複数選択) *

- ☐ 自分の考えをいつでも自由に言えること
- ☐ 自分のことは自分で決められること
- ☐ 自分の秘密(個人情報)が守られること
- ☐ 相談できる人(親、友人、先生など)がいること
- ☐ ほっとできる自由な時間をもつこと
- ☐ 自分の好きなところに住むことができること
- ☐ 好きな人と結婚できること
- ☐ 自分のお金や持ち物を勝手に奪われないこと
- ☐ 他の人からいじめられたり暴力を受けたりしないこと
- ☐ 人種や宗教、障害の有無、性別などで差別されないこと
- ☐ 自分の思う性、あらわす性、好きになる性にかかわらず、ありのままでいざられること

Q5 自分のことが好きですか。 *

- ☐ はい
- ☐ いいえ
- ☐ わからない

Q6 大人（親など）からよくほめられますか。*

- ☐ よくある
- ☐ 時々ある
- ☐ あまりない

Q7 今、自分は幸せだと感じますか。*

- ☐ 感じる
- ☐ 時々感じる
- ☐ あまり感じない

Q8 困ったことがあった時、相談できる人はいますか。*

- ☐ いる
- ☐ いない
- ☐ わからない

Q9 大人に自分の考えや意見を自由に言えますか。*

- ☐ 言える
- ☐ 言えない
- ☐ わからない

Q10 差別や偏見(へんけん)はいけないことだ。*

- ☐ そう思う
- ☐ そう思わない
- ☐ わからない

Q11 子どものためなら、大人はたたいてもしかたがない。*

- ☐ そう思う
- ☐ そう思わない
- ☐ わからない

Q12 男は「仕事」、女は「家事、育児」と役割を決めつけないほうがいい。*

- ☐ そう思う
- ☐ そう思わない
- ☐ わからない

Q13 自分がしたいことは、人に迷惑をかけてもする。*

- ☐ そう思う
- ☐ そう思わない
- ☐ わからない

Q14 みんなと同じことをしていれば安心だ。^{*}

- ☐ そう思う
- ☐ そう思わない
- ☐ わからない

Q15 いつも人権について感じていることや、みんながしあわせに暮らすために、自分ができると思うことなどを自由に書いてください。